

平成29年度

老人保健事業推進費等補助金

老人保健健康増進等事業

**認知症診断直後等における
認知症の人の視点を重視した
支援体制構築推進のための
調査研究事業**

報告書

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
平成30（2018）年3月

はじめに

平成 26 年 11 月に東京で開催された認知症サミット日本後継イベントの基調講演の中で、認知症の当事者である藤田和子氏は以下のように述べている。

「『認知症の生きづらさを抱えながら暮らしを営む』ということが、実際、どういうことなのか。私の場合、常に意識をはりつめて頑張り、努力し続ければ日常生活が出来ます。だから周囲の人には分かりにくく、その苦悩をひとりで抱え込まざるを得ません。それでも頑張り続け、疲弊し、『もう、無理』という段階まで来た時、生活が破たんするのだと思います。そこまで来て、はじめて、介護保険サービスの対象とされます。この期間のことを『空白の期間』と呼びます。この『空白の期間』に絶望してしまう人が数多くいます。これは私のようにまだ年齢が若い人だけではなく、高齢になった人も同じです。『空白の期間』の解消は、これから認知症になる可能性のある、すべての人にとって現実のものであり深刻かつ切実な問題です」

ここで述べられた「空白の期間」という言葉は、人々の心に深く刻まれ、その後のわが国の認知症施策に重大なインパクトを与えた。すなわち、平成 27 年 1 月に発表された認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）において、「認知症の人の視点を重視する」という考え方が政策を貫く柱として導入され、この考え方を具体化させるための研究事業が老人保健健康増進等事業において実施されるようになった。

平成 27 年度に実施された研究事業では、「本人ミーティング」と呼ばれる方法が考案され、6 地域でパイロット調査を実施し、その実現可能性、実現するための条件、地域づくりに及ぼす効果が検討された。平成 28 年度の研究事業では、「認知症の人の視点を重視」に関する全国の自治体の実態調査が行われ、10 地域で本人ミーティングを実施し、自治体向けの「本人ミーティング開催ガイドブック」を作成した。そして、今年度の研究事業では、これらの成果を踏まえて、「空白の期間」の解消に向けて、「本人にとってのよりよい暮らしガイド（本人ガイド）」を作成するとともに、福島県と和歌山県において「支援体制構築プロジェクト」を試行し、「本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド」を作成した。

重要なことは、これらの研究事業には、いずれも、認知症とともに生きる本人が参加し、本人の声が起点となって人々が協働し、ものをつくり、政策をつくり、地域をつくるという営みが継続された点にある。本報告書が、わが国における、そのようなものづくり、政策づくり、地域づくりの文化の醸成に寄与することができれば幸いである。

平成 30 年 3 月

東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長 栗田 圭一

事業概要

目的

認知症の診断を受けた直後の人や初期段階の人が、本人が必要とする相談や支援等につながない期間(いわゆる「空白の期間」)の解消をはかり、早期診断から早期支援へ円滑につながる地域での支援体制の構築を推進する。

【作業目的1】本人が参画・関与するアクションミーティングを原動力とする一連の方策(地域支援体制構築プロジェクト)を試行・検証し、本人の視点を重視した地域支援体制づくりのあり方を提示する。

【作業目的2】診断直後制の人に役立つ「本人にとってのよりよい暮らしガイド(以下、本人ガイド)」、及びその普及・活用を図りつつ地域支援体制づくりを推進をするための「地域支援体制づくりガイド(以下、市町村ガイド)」を作成する。

方法と内容

1 本人が参画した委員会・本人ガイド作成チーム会議で体制づくりのあり方やガイドの検討

- 検討委員会(9名:認知症の本人、家族組織、ケア関係者、医師、行政職員、メディア、学識経験者等) 2回
→本人視点を重視した地域支援体制およびガイドのあり方の検討、プロジェクトの結果を踏まえた全体的な検討
- 本人ガイド作成チーム会議(12名:認知症の本人、家族組織、ケア関係者、行政職員、学識経験者等) 3回
→ガイドのあり方・内容・活かし方等の検討

2 本人が診断直後によりよく暮らしていくための地域支援体制構築プロジェクトの試行・調査

- ◆2県4地域で共通スキームに基づきプロジェクトを試行
- 1. 各県で市町村合同ワークショップ(2回:開始時、終了時) 本人参画の取組を進めている他県地域の報告をもとに、自地域の展開方策についてグループワーク・全体共有
- 2. 試行地域で本人の声を起点とした支援体制づくりの展開 本人が参画・関与する試行チームを結成。アクションミーティングを3回開催しながら、本人ミーティングの開催も含む地域支援のアクションを企画・展開

◆プロジェクト試行検証のための調査

- A. 試行経過調査:試行地域で試行経過に関する現地調査(参与観察、インタビュー、映像記録等)
- B. アンケート調査
 - 1) 試行地域参加者アンケート調査(試行終了時点)
 - 2) 県内の市町村の行政担当者調査(試行の事前・事後)

3 全国報告会の開催

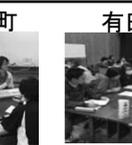
事業の主な結果

各県で市町村合同ワークショップ(第1回)開催



◆本人とともに本人ミーティングを実施している他県地域の報告に触発されグループワークでは、自地域なりにとりこんでみたいことについて、活発な意見交換がなされた。

試行地域でアクションミーティング開催→多彩なアクションを展開



郡山市 56名:10チーム

西会津町 24名:4チーム

有田圏域 9名:1チーム

御坊市 26名:3チーム



第3回アクションミーティング後の参加者アンケート調査結果(N=92)

- 「本人の声を聴くの重要性の認識が深まった」 81.5%
- 「アクションミーティングは地域支援体制づくりに役立つ」 100.0%

各県で市町村合同ワークショップ(第2回)開催



◆本人の声を起点に地域支援を展開した自県の地域の報告を受け、第1回目のワークショップよりもさらに具体的に、自地域での今後の取組が討議された。

各県の市町村担当者アンケート調査結果 実前=86 実後=105

前:「本人ミーティングの予定がない/知らなかった」	83.3%	2県とも同様の傾向
後:「アクションミーティングを実施したいと思った」	82.6%	

本人ガイド、市町村ガイドの作成(セットで活用)

一足先に認知症になった本人たちの声を集約し、診断後をよりよく暮らしていくためのヒントや地域とのつながりの大切さを事例入りで紹介

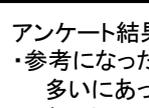


空白の期間の解消のために



本人ガイドを普及・活用していくための方策とともに、本人の声を起点に初期段階からの地域支援体制づくりを進めていくための一連の流れと方策を紹介

全国報告会の開催 参加者214名



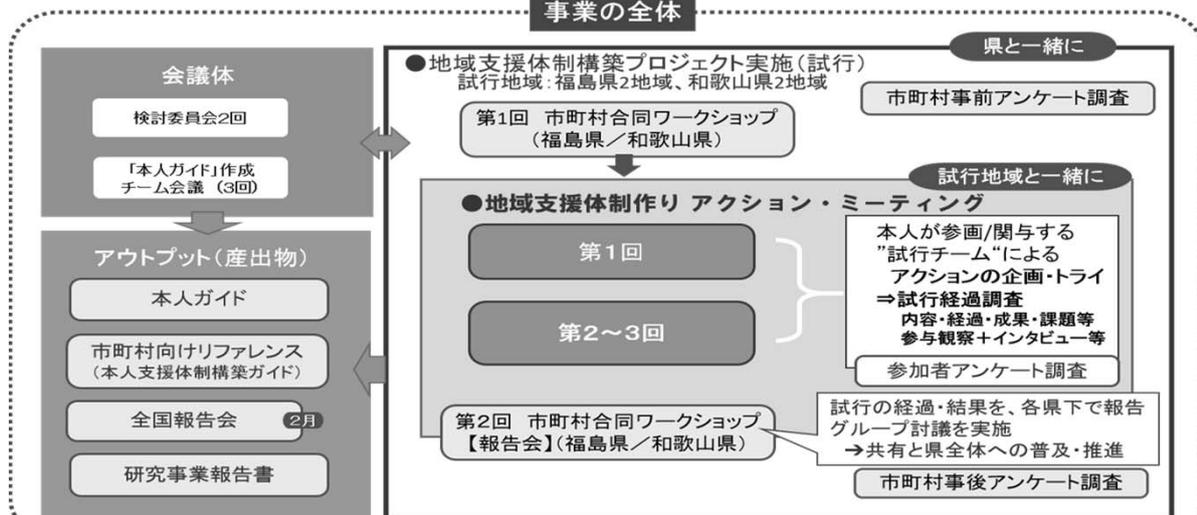
アンケート結果(回収103)

- ・参考になったことが多いにあった 58.3%
- あった 36.9%

試行地域が報告

本人が登壇し討議

事業の全体



考察(主な点)

アクションミーティングの有効性と展開の可能性

- ◆地域特性の異なる4つの試行地域においてアクションミーティングを開催したところ、いずれの地域でも本人の声の重要性の(再)確認がなされ、本人の声を起点にすることで、多彩な地域のつながりやアクションが生みだされ、本人そして関係者がともに活躍したり喜びを共にする共通体験が生まれていた。
- ◆試行の参加者からアクションミーティングの有効性について非常に高い評価をうることができたが、その背景には、①上記の共通体験が大きく関与していると考えられ、加えて②視点を変えれば日常の中ですぐにも取組めて手ごたえがえられること、③自由度が高く個々のアイデアや個性を発揮できること、④アクションミーティングを通じて自職場を活かしたり身近な地域で本人ミーティングをやれる体験、⑤一人ではなく取組ながらチームや他の参加者とのつながりが深まり、地域の中で普段から支え合える仲間が増えていくこと、⑥視野や地域の中での活動の場が広がること、などが考えられる。
- ◆4地域全体でみると、参加者の立場や職種は幅広く、地域の多様な人たちがアクションミーティングを継続的に実施していくことで、診断前後から初期段階の地域支援を、本人の声を起点に具体的に生み出し拡充していける可能性が大きいことが示唆された。

行政主導から地域共創・協働型への転換の重要性

- ◆試行したプロジェクトでは、県や市町は「本人視点の重視」の方針を明確に掲げながら、話合いの場の提供等の環境づくりに回り、アクションの主体は企画段階から地域で働き暮らす人たちであった。
- ◆その関係性の中で参加者は本人の声(必要としていること)に呼応して、できることから素早く、細やかに動くことができ、それら一つひとつが「空白の期間」を埋めることにつながる取組であった。
- ◆受診直後や初期段階の支援体制を、本人にとって内実のあるものにしていくためには、地域共創・協働型のあり方を行政が積極的に進めていくことが重要と考えられる。

「本人ガイド」を地域で普及・活用することの重要性

- ◆ガイド作成過程で、多数の本人から「次に続く人が同じ苦勞をしないですむように」「こうしたガイドが診断されたときにあったらどれだけ救われたか」という声が聞かれた。
- ◆「市町村ガイド」に示した通り、「本人ガイド」を医療機関はもとより、行政や地域の多様な場を通じて地域にいる認知症診断前後の人たちの手元に行き届かせる流れを、各自治体が具体的に検討することが望まれる。「本人ガイド」を対話や地域とのつながり作りに活かすことで、初期の地域支援体制づくりの強力な道具にすることができる。

本人が支援体制づくりに参画することの重要性

- ◆本事業では、委員会やガイド作成、プロジェクトの開始から報告会までの全過程に多数の本人が参画し、事業が「本人視点」からそれぞれに多種多様な関係者が結集する上で非常に重要な役を果たした。本人も自信を高め、さらなる力を発揮していく姿が見られ、どの地域でも支援体制づくりを進める上で本人参画が重要な鍵と考えられる。

結論

- ◆アクションミーティングは、診断直後や初期段階の本人が必要とする地域支援体制づくりを展開するための有効な方策である。
- ◆初期段階の本人は状況やニーズの多様性に富み、実質的に支えていく体制を速やかにつくっていくためには、本人の声を耳にしやすい地域にいる多様な立場の人たちが自発的な企画・アクションを積み上げていくことが重要である。行政は、アクションミーティングの実施を通じて、地域の人たちとの共創・協働の関係を積極的に作っていく必要がある。
- ◆「本人ガイド」を必要としている人が多く、行政はガイドが診断前後の人に行き届く流れの検討し、ガイドを活かすことで初期の地域支援体制づくりを具体的に進めていくことができる。
- ◆本人が地域支援体制づくりの様々な場面に参画できるチャンスをつくっていくことが、内実を伴った体制づくりを加速させていくことにつながる。

提言

都道府県は、市町村合同ワークショップの開催を

- 市町村がアクションミーティングを通じて、認知症の本人の声を起点とした初期段階からの支援体制づくりを進めていくことを都道府県として推進するため市町村合同ワークショップの開催が望まれる。
* 取組地域が、他の地域の呼び水になる。県内外の取組地域とつながり、リレー方式で推進を。

市町村は、アクションミーティングの継続開催を

- 地域には、きっかけがあれば、地域支援体制づくりに参画し内実を伴った地域支援を細やかに実施する多様な人たちがおり、アクションミーティングへの参加希望は多い。市町村は、地域の人たちと共創・協働の関係で地域支援体制づくり拡充していくためにも、幅広い人たちに呼びかけてアクションミーティングを継続開催していくことが望まれる。

市町村は「本人ガイド」を活かして支援体制づくりを

- 診断前後の人に行き届く流れをつくっていくとともに、ガイドの配布だけで終わらずに、ガイドをきっかけとした対話や地域とのつながりづくりなどにも活かしていくことが重要である。
* なお、「地元の本人の声」を関係者と共に集めて、お国言葉での地域版「本人ガイド」の作成も待たれている。

アクションミーティング、本人ガイド、本人ミーティングの3方策を連動させ本人視点の一環体制を

- 本人ガイドの普及や活用、本人ミーティングの開催と地域展開等を、行政だけで考えていないで、アクションミーティングを開催して、地域の多様な立場・職種の人達と一緒に考え動き出そう。本人視点で初期からの一環した体制をつくらう。

体制づくりの企画段階から本人参画を

- 本人が参画するチャンスをつくり、そこでの本人の声や姿を、本人とともに支援や体制づくりに最大限活かしていこう。いないようでも、地域には行政等からの声かけで力を発揮する人がおり、一人からでも参画を。

目 次

はじめに

事業要旨

第1章 事業概要	1
1. 事業の背景	1
2. 事業の目的	1
3. 事業の方法	2
1) 事業の全体	2
2) 年間スケジュール	3
3) 検討委員会・研究体制と開催経過	4
4) 本人ガイド作成チーム会議の設置と開催経過	5
5) 地域支援体制構築プロジェクトの試行と調査	7
6) 報告会の開催	8
第2章 結 果	9
1. 地域支援体制構築プロジェクトの試行結果	9
1) 地域支援体制構築プロジェクトの試行および調査の概要	9
(1) 今年度取組んだ試行地域	11
(2) 展開のステップ	11
(3) 実施した調査	11
2) 試行過程の結果(試行経過調査)	12
(1) 試行地域における試行過程の状況	12
(2) 各試行地域における試行の実際と結果	23
①郡山市(福島県)	23
②西会津町(福島県)	43
③有田圏域(和歌山県)	59
④御坊市(和歌山県)	81
3) 試行地域におけるアンケート調査結果	98
(1) 試行地域の参加者アンケート調査結果	98
(2) 試行地域の県内市町村認知症施策担当者へのアンケート調査結果	109

2. 「本人ガイド」および「市町村ガイド」の作成.....	118
1) 「本人ガイド」の作成.....	117
2) 「市町村ガイド」の作成.....	129
3. 報告会の開催.....	136
1) プログラム.....	136
2) 参加者アンケート.....	139
第3章 考察：「空白の期間」の解消にむけて.....	146
1. アクションミーティングの有効性と展開の可能性.....	146
2. 行政主導から地域共創・協働型への転換の重要性.....	148
3. 「本人ガイド」を地域で普及・活用することの重要性.....	148
4. 本人が支援体制づくりに参画することの重要性.....	149
第4章 全体総括.....	150
1. 事業を通じて明らかになったこと.....	150
2. 提言.....	151
資料編.....	153
1. 試行ツール及び調査関連シート等（共通）.....	154
1) 福島県・和歌山県全市町村アンケート（事前調査）.....	154
2) 福島県・和歌山県市町村合同ワークショップツール.....	157
3) 試行4地域アクションミーティング資料等.....	162
4) 試行4地域アクションミーティング映像記録.....	176
2. 本人にとってのよりよい暮らしガイド（本人ガイド）.....	177
3. 本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド（市町村ガイド）...	179
4. 報告会.....	181

第1章 事業概要

1. 事業の背景

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に「認知症の人の意思の尊重」が掲げられ、各都道府県および各市町村において認知症の本人の視点を重視した施策が不可欠であることが浸透しつつある。

一方で、認知症の早期診断直後の人や認知症の初期段階の人が、本人が必要とする相談支援等につながっていない期間（いわゆる「空白の期間」）が依然として大きな課題となっており、またその解消にむけた自治体/地域の取り組みの温度差があることも各方面から指摘されている。

すべての自治体/地域が、診断から早期支援へ円滑につながる地域の支援体制の構築を、本人の視点を重視して着手・展開することを推進する取組みが急務となり、本事業に着手した。

2. 事業の目的

認知症の診断直後の人や認知症の初期段階の人が、必要とする相談支援等につながっていない期間（いわゆる「空白の期間」）の解消をはかるために、診断から早期支援へ円滑につながる地域支援体制を推進するための具体的な手法を提示することを目的とした。

1) 地域支援体制構築プロジェクトの試行と調査

本人同士が出会い話し合いながら自らの生活体験や必要な支援について地域に発信することを促進し、本人の視点を重視した支援体制を構築していくための一連の方策（地域支援体制構築プロジェクト）を検討する。

試行地域（2県4地域）において、地域支援体制構築プロジェクトを試行し、その実施状況およびそのプロセスで起きた変化に関する調査を実施する。

2) 「本人ガイド」および「市町村ガイド」の作成

診断直後の本人に役立つ「本人にとってのよりよい暮らしガイド（以下、本人ガイド）」を作成する。

また、市町村の認知症施策担当者や関係者が、「本人ガイド」の趣旨を理解しつつその普及や利活用を進めていくとともに、本人の視点を重視した初期からの支援体制をスムーズかつ効果的に構築していくための一連の方策をまとめた市町村向けの「認知症地域支援体制づくりガイド（以下、市町村ガイド）」を作成する。

3. 事業の方法

1) 事業の全体

○検討委員会の設置

本調査研究事業の実施にあたって、認知症の本人及び有識者9名からなる検討委員会を設置し、本事業の全体的な進め方や、本人ガイド、診断後すぐからの支援体制を構築するための一連の方策（プロジェクト）のあり方、調査方法と調査実施結果等に関する検討を行った。

○「本人ガイド」作成チームの設置

診断直後の本人に役立つ「本人ガイド」を作成するために、認知症の本人、医療・介護専門職、支援や地域づくりに取組む関係者、11名からなる作成チームを設置し、「本人ガイド」のあり方や内容、表現、活かし方等の検討を行った。

また、「本人ガイド」を活かしつつ診断直後からの必要とする支援に早期につながるための一連の方策・支援体制づくりに関する検討も行った（「市町村ガイド」に反映）。

○地域支援体制構築プロジェクトの試行・調査

試行する2県（福島県・和歌山県）で、プロジェクトのスタート時および最終段階で、市町村合同ワークショップを開催した。

当該2県でプロジェクトに参画する意向を表明した市町村・圏域において、自地域の地域特性を踏まえて診断後の本人の地域支援体制構築に関する企画立案し自主的な取組を実施した。

以上の過程を通じて、以下の調査を実施した。

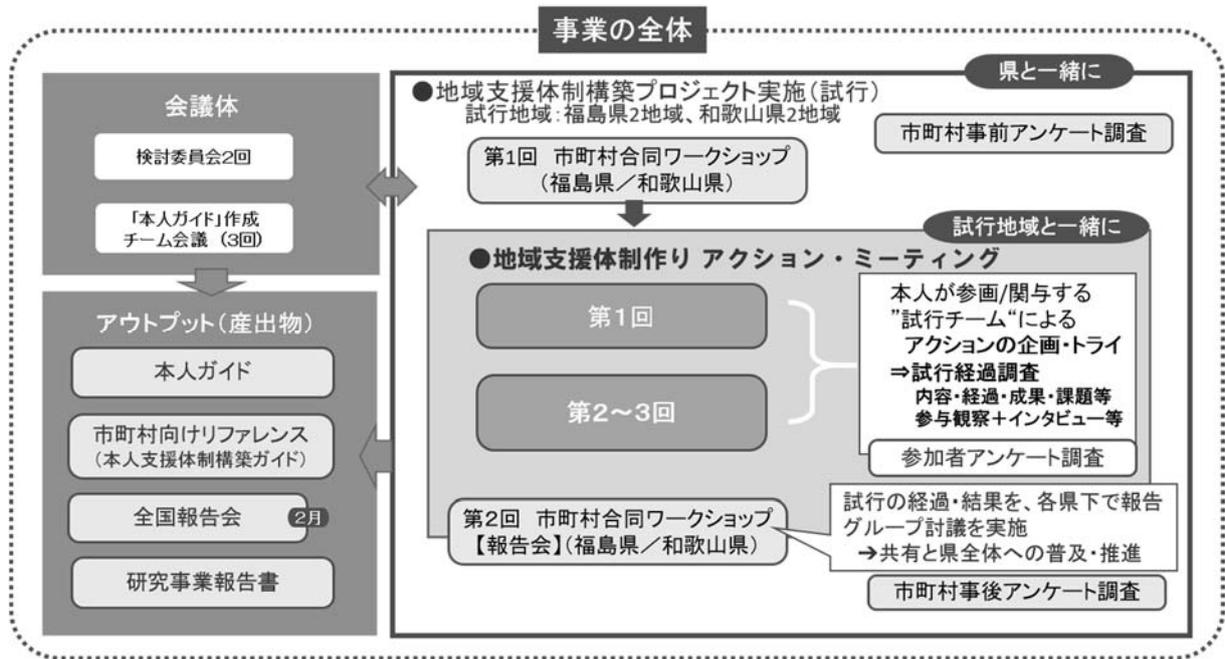
■試行地域を対象とした試行経過調査

参与観察、インタビュー、映像記録

■アンケート調査

①試行地域参加者アンケート調査

②試行地域の県内市町村認知症施策担当者へのアンケート調査



○報告会の開催

本事業の取組と成果を全国に速やかに普及を図るために報告会を開催した。

2) 年間スケジュール (全体)

	平成29年4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業実施内容				●第1回委員会の開催(7/16)	●本人ガイド作成チーム会議(1回目 8/5)	●作成チーム会議(2回目 9/2)
					●県WS(1回目): 福島 9/12	
				支援体制構築プロジェクト試行の準備		
	10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
事業実施内容	●県WS(1回目): 和歌山 10/6				●第2回委員会の開催(2/10)	●チーム会議(3回目・委員会と合同)
	4地域で本人支援体制構築プロジェクト実施(試行)を実施				●●県WS(2回目): 和歌山 2/16、福島 2/22	
				本人ガイドの作成		
					支援体制構築プロジェクト推進ガイドの作成	
						●全国報告会(2/26)
			事業進捗状況報告書の作成		報告書の作成	成果物の印刷・配布

3) 検討委員会・研究体制と開催経過

検討委員会では主に、本事業の全体的な進め方や、本人ガイド（仮称）、診断後すぐからの支援体制を構築するための一連の方策（プロジェクト）のあり方、調査方法と調査実施結果等について検討した。

[検討委員会構成] *は検討委員長（計9名・敬称略・五十音順）

氏名	所属・役職
栗田 圭一*	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 自立促進と介護予防研究チーム 研究部長
川村 雄次	日本放送協会 広報局制作部 チーフディレクター
鈴木 森夫	公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事
永田 久美子	認知症介護研究・研修東京センター 研究部長
藤田 和子	一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事
古川 歌子	町田市いきいき生活部高齢者福祉課 地域支援係 統括係長
前田 隆行	NPO法人 町田市つながりの開 理事長
前田 知恵子	宮城県保健福祉部長寿社会政策課 地域包括ケア推進班 技術主査
山崎 英樹	清山会医療福祉グループ 代表

[研究体制（事業実施体制）]

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター	研究部長	栗田 圭一
認知症介護研究・研修東京センター	研究部長	永田 久美子
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター	研究員	宮前 史子
認知症介護研究・研修東京センター	客員研究員	小森 由美子

○研究協力

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ

○オブザーバー

厚生労働省	老健局総務課認知症施策推進室	室長補佐	川島 英紀
厚生労働省	老健局総務課認知症施策推進室	専門官	延 育子

【開催経過】

○第1回検討委員会

日時：平成29年7月16日（日）14時～16時30分

場所：東京八重洲ホール

内容：・診断直後に役立つ「本人ガイド（仮）」について
・試行地域での取組の進め方、今後の進め方について

○第2回検討委員会 ※本人ガイド作成チーム会議（第3回）と合同

日時：平成30年2月10日（土）13時～16時

場所：東京八重洲ホール

内容：・本事業の試行地域展開で得られたこと
・地域展開で得られたことを全国で活かしていくための推進のあり方
・「本人ガイド」・「市町村ガイド」および報告書について

4）本人ガイド作成チーム会議の設置と開催経過

本人ガイド作成チーム会議では、「本人ガイド」のあり方、内容、活かし方についての検討を行った。メンバー構成と開催経過は以下の通り。

[本人ガイド作成チーム会議 構成] （計12名・敬称略・順不同）

氏名	立場	所属・役職
中田 哲行	本人	みらいの会
福田 修一	本人	DAYS BLG! はちおうじ
長澤 かほる	家族・ケアマネジャー	レビー小体型認知症サポートネットワーク東京
二木 美津子	行政／試行地域	福島県西会津町健康福祉課
千葉 静香	行政／試行地域	福島県郡山市保健福祉部地域包括ケア推進課
馬谷 愛	行政／試行地域	和歌山県広川町住民生活課
谷口 泰之	行政／試行地域	和歌山県御坊市市民福祉部介護福祉課
庄司 彰義	行政／障害者支援	大阪府岸和田市福祉部 障害者支援課
大谷 るみ子	認知症地域支援推進員	大牟田市認知症ライフサポート研究会
間瀬 由紀子	地域型疾患センター・ 看護師	国立市在宅療養相談室／昭島オレンジドア支援者
徳田 雄人	まちづくりNPO	NPO法人認知症フレンドシップクラブ
永田 久美子	研究者	認知症介護研究・研修東京センター研究部

【開催経過】

○第1回本人ガイド作成チーム会議

日時：平成29年8月5日（土）13時30分～16時30分

場所：東京八重洲ホール

内容：
・本人ガイドーどんな場で、どんなタイミングで入手がよいか
・本人ガイドの活かし方

○第2回本人ガイド作成チーム会議

日時：平成29年9月2日（土）13時30分～16時30分

場所：東京八重洲ホール

内容：
・本人ガイドの目的・方針・形態、対象者、内容、タイトル
・市町村自治ガイドについて

○第3回本人ガイド作成チーム会議 ※第2回検討委員会と合同

日時：平成30年2月10日（土）13時～16時

場所：東京八重洲ホール

内容：
・本事業の試行地域展開で得られたこと
・地域展開で得られたことを全国で活かしていくための推進のあり方
・「本人ガイド」、「市町村ガイド」および報告書について

●第1回検討委員会



●第2回検討委員会・

本人ガイド作成チーム会議（第3回）合同



*検討委員会、本人ガイド作成チーム会議ともに、本人が参画。

5) 地域支援体制構築プロジェクトの試行と調査

2 県 4 地域が共通スキームをもとに各地域に応じた企画を練り展開（詳細は後述）。

[取り組んだ地域]

福島県：郡山市、西会津町

和歌山県：御坊市、有田圏域（有田市、有田川町、広川町、湯浅町）

[実施経過]

(1) 試行する 2 県での市町村合同ワークショップの開催

試行プロジェクトのスタート時、及び最終段階で開催（各県 2 回、全 4 回）

2 回目は、各県の試行地域の取組の報告会を兼ねて開催した。

- 福島県 第 1 回：平成 29 年 9 月 12 日（火）／郡山市民文化センター
第 2 回：平成 30 年 2 月 22 日（木）／郡山市役所 正庁
- 和歌山県 第 1 回：平成 29 年 10 月 6 日（金）／和歌山県勤労福祉会館
第 2 回：平成 30 年 2 月 16 日（金）／和歌山県勤労福祉会館

(2) 試行地域でアクションミーティングの開催とアクションの展開

■郡山市

- 第 1 回：平成 29 年 11 月 28 日（火）10：00～12：00
郡山市音楽文化交流館 1 F 大ホール
- 第 2 回：平成 29 年 12 月 22 日（金）10：00～12：00
郡山市役所 正庁
- 第 3 回：平成 30 年 1 月 18 日（木）13：30～15：30
郡山市総合福祉センター 5 F 集会室

■西会津町

- 第 1 回：平成 29 年 10 月 19 日（木）13：30～15：30
西会津町役場 2 F 会議室
- 第 2 回：平成 29 年 12 月 15 日（金）グループ別で開催
①10:00～12:00:包括・行政・居宅系、
②13:00～15:00:包括・通所・入所系
道の駅よりっせ 2 F
- 第 3 回：平成 30 年 1 月 23 日（火）13：30～15：30
道の駅よりっせ 2 F

■御坊市・有田圏域（合同開催）

- 第 1 回：平成 29 年 10 月 24 日（火）13：30～15：30
御坊市福祉センター 4 F 会議室
- 第 2 回：平成 30 年 1 月 9 日（火）13：30～15：30

御坊市役所 5F会議室
第3回：平成30年1月31日（火）13：30～15：30
御坊市役所 5F会議室

〔試行に関する調査〕

地域支援体制構築プロジェクトの試行経過と並行して、下記の調査を実施した。

（1）試行経過調査

2県4地域それぞれの試行経過にそって、話合いや活動、実施しての意見等に関して、参与観察及びインタビューを実施。

映像も含め情報を記録・収集した。映像記録としてDVDを作成した。

（2）アンケート調査

①プロジェクト試行地域の参加者調査

施行した4地域のプロジェクトに参加したメンバーを対象に、アンケート調査を実施。

第3回目のアクションミーティング終了時に、会場にてアンケート票を配布、会場にて回収した。

②試行地域の県内市町村の認知症施策担当者調査

■プロジェクト試行の前段階での調査

第1回市町村合同ワークショップ開催前アンケート調査

県担当者を通じて、管内市区町村の認知症担当部門へ調査票送付（電子ファイル）をメール添付にて送付、メールにて回答を得た。

■プロジェクト試行最終段階での調査

第2回市町村合同ワークショップ参加者アンケート調査

第2回市町村合同ワークショップに参加した認知症施策担当者、ワークショップ会場にて調査票を配布、回収した。

6）報告会の開催

本事業の報告会を下記のとおり開催し、北海道から沖縄まで全国各地から参加申込があった。報告会終了後に、参加者を対象にしたアンケート調査を実施した（当日資料の一部は、資料編）。

日時：平成30年2月26日（月）10：30～15：30

場所：有楽町朝日ホール（東京）

参加者：認知症の本人、家族、介護・看護・医療、
研究者、報道、行政など 全214名

第2章 結果

1. 地域支援体制構築プロジェクトの試行結果

1) 地域支援体制構築プロジェクトの試行および調査の概要

本人が診断後によりよく暮らしていくための支援体制を構築していく試みとして、試行地域（2 県 4 地域）において、共通の推進スキーム（下記参照）をベースに、地域ごとに地域特性や現状を踏まえて自主的に取組み方を企画し展開した。

【試行した共通の推進スキーム】

* 本人ガイドの本人の視点、本人のより良い暮らしの考え方をベースにしながら

1. 県による市町村合同ワークショップの開催

- ・ 試行事業を実施する県が、全市町村に呼びかけて開催
- ・ 試行地域の取組み前後に開催（計 2 回）
※事業を試行地域だけのもの終わらせず
全市町村に取組の趣旨・内容・実績を共有・普及を図る

2. 試行地域での展開

- ・ 「アクションミーティング」を継続開催（3 回シリーズ）
各地域で本人の声をもとに、やってみたいアクションを具体的に話しあい、できることからアクションを始めていく。
- ・ そのためのアクションチームを結成
各地域で、エリア単位等で、参加するメンバーを募ってチームを創る
- ・ アクションチームの主体的な取組を市町担当者が促進・後押し
アクションミーティングを活動のエンジンとしつつ、その間も自発的に動いていくように

※アクションの重要な要素として「本人ミーティング」を企図し、声をアクションに反映する

本人同士のつながり・話し合い・声を活かした連携・協働を実際に展開しながら、本人が地域でつながりによりよく暮らしていくための地域支援体制づくりを進める。

* アクションミーティングについて（ワークショップ配布資料より）

本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

目的

認知症の一人ひとり（本人）が、よりよく暮らしていけるように、
わがまちで取組めそうな活動（アクション）を、一緒に話しあおう。
動き出そう。

◆ これからやることは、とってもシンプル！

- ① 本人が望むことを一つからでも：本人視点で、小さなことから
- ② 一人ではなく、一緒に：みんなで楽しく、力をあわせて
- ③ 考えて(悩んで) ばかりいないで、ちょっとやってみよう

本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

意義 ①

本人が望むことを一つからでも：
本人視点で、小さなことからアクション

⇒ 本人が望む、いいひと時を過ごせると、本人が想像以上に
生き生き暮らせる（底力を発揮、自信回復、安定 等）

⇒ 家族や地域の人、専門職の意識が前向きに変わる



本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

意義 ②

一人ではなく、一緒に：
みんなで楽しく、力をあわせて

⇒ 仲間が増える：仕事でも、ふだんの暮らしでも

⇒ 楽になる、心強い、一人ではできないことをやれる

⇒ 中身のある連携支援（地域包括ケアシステムに



本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

意義 ③

考えて(悩んで) ばかりいないで、
ちょっと、やってみよう

⇒ やってみることで、新たな発見・つながり・手がかりが見つかる

⇒ みんなで(小さな) 成功体験、・自発的な取組が広がる



(1) 今年度取組んだ試行地域(2県4地域)

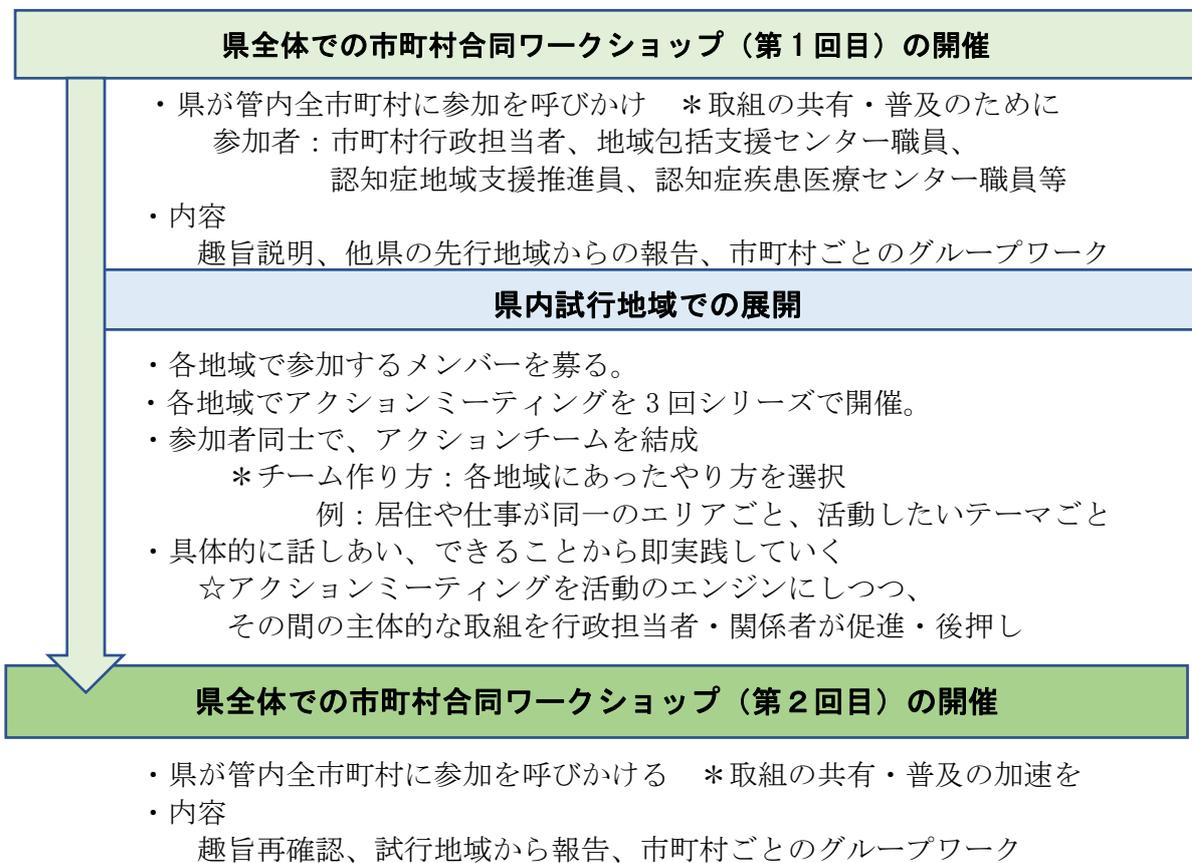
福島県 : 郡山市、西会津町

和歌山県: 御坊市、有田圏域(有田市、有田川町、広川町、湯浅町)

【これらの地域で実施した理由】

- ① 本人ミーティングの開催意向があった。
- ② 本人視点での地域支援体制作りの展開を模索中で、本事業趣旨に賛同。
- ③ 今年度内で終わらずに、次年度以降の継続意向があった。
- ④ 県が、試行地域を入口に県内市町村に拡大したい意向があった。

(2) 展開のステップ



(3) 実施した調査: 試行経過にそって、以下の調査を実施

○試行経過調査

- ・ 合同ワークショップおよびアクションミーティングの討議経過の参与観察(映像記録を含む)、行政職員・参加メンバーの聞き取り調査
- ・ 参加者が話し合った内容を、共通シートを通じて収集・集約

○アンケート調査

- ① 4地域のプロジェクト参加者に第3回目のアクションミーティング時に
- ② 2県の認知症施策担当者にプロジェクトスタート時と最終段階

2) 試行経過の結果（試行経過調査）

(1) 試行地域における試行過程の状況

【福島県】

①県全体での市町村合同ワークショップ * 県:59市町村

	第1回	第2回
日時	平成29年9月12日（火） 13:00～16:30	平成30年2月22日（木） 13:30～16:30
場所	郡山市民文化センター 集会室	郡山市役所 正庁
対象者	市町村認知症施策担当者ならびに地域支援推進員等の地域支援関係者 (1市町村あたり2～3名程度)	左に同じ
参加者	25市町村63名、県庁2名	26市町村・県保健福祉事務所、78名、県庁2名
プログラム * 構成は 2県共通	<p>1. 認知症の人やその家族の視点を重視した、支援体制づくりに取り組もう! ～暮らしやすい地域を、楽に、楽しく、築いていくために～ * 導入：取組のねらい・方針・視点の共有 地域支援体制構築プロジェクト研究班</p> <p>2. 実際に取組み始めた地域の体験を参考にしよう * 動機付け：必要性・やる気の喚起、実現可能性、手ごたえ・面白さをリアルに伝える 若生栄子・今田愛子・佐藤好美（宮城の認知症をともに考える会） 片桐由紀（仙台市保険高齢部地域包括ケア推進課）</p> <p>3. わが市町村でできることを一緒に話し合おう * チームを作り始動するスイッチをいれる：立場、職種を越えて一緒に本人視点で考え、「やってみよう・やってみよう」という共通意識を醸成 <グループワークの内容> 1) 取組みや体験を聞いて参考になったこと</p>	<p>1. はじめに 1) 本取り組みの目的と意義 2) 本取り組みの全体的な経過</p> <p>2. 取り組み地域からの報告 1) 郡山市チームから 2) 西会津町チームから</p> <p>3. 本人の視点に立った地域づくりにむけて 1) 「わが町でできること、やってみたいことを話しあおう」 (ミニ・ミーティング) 2) 今後に向けて 試行地域の関係者、県担当者から呼びかけ アンケート記入</p> <p>* 動いてみたことで、生まれたこと 発見、手ごたえ、課題の共有 * これからという地域への動機づけ * 継続的取組をナビゲーション</p>

	<p>2) 自地域でも取り組んだみたい ことは</p> <p>3) 一緒に取り組んでみたい人は</p> <p>4) 取組むために知りたいことは</p> <p>5) グループワーク発表 (全体共有)</p> <p>4. あなたの町でも一緒にアクション! ～地域支援体制構築プロジェクトを進めていこう～ *実際に動き出す後押し</p> <p>5. まとめ：今後の展開について</p>	
--	--	--

<第1回 福島県市町村合同ワークショップの様子>



●近県で実際にとりくんだ地域から報告



●市町村/近隣地域でグループワーク

<第2回 福島県市町村合同ワークショップの様子>

試行地域から取組み報告：短期間に集中的に取り組んだことで、各地域それぞれの特徴を活かした具体的なアクションや発見、成果が生まれた



●郡山市



●西会津町



●グループワーク

わがまちでもこんなことをやってみたい、こんなことから始めたい。
試行地域以外の市町村からも様々な声があがった。

②福島県内での試行地域の実施経過

アクションミーティングをエンジンに、その間にアクションを展開

*企画は、共通スキームを参考に、各地域が地元事情を踏まえてそれぞれが立案

*進捗状況・その時々状況に応じて、進め方を臨機応変に調整

		郡山市	西会津町
第1回	日時	平成29年11月28日(火) 10:00~12:00	平成29年10月19日(木) 13:30~15:30
	場所	郡山市音楽文化交流館1F 大ホール	西会津町役場 2F会議室
	参加者	56名	24名
	内容等	◆オリエンテーション アクションミーティングの目的と意義、進め方 ◆アクションプランを話しあってみよう ・グループ(チーム)ワーク:10グループ ・各グループ(チーム)間共有(話し合い内容のミニ発表)	◆オリエンテーション アクションミーティングの目的と意義、進め方 ◆アクションプランを話しあってみよう ・グループ(チーム)ワーク:4グループ ・各グループ(チーム)間共有(話し合い内容のミニ発表)
第2回	日時	平成29年12月22日(金) 10:00~12:00	平成29年12月15日(金) ①10:00~12:00/包括・行政・居宅系 ②13:00~15:00/包括・通所・入所系
	場所	郡山市役所 正庁	道の駅よりっせ 2F
	参加者	43名。古殿町からの参加を含む(自主参加)	24名
	内容等	◆第1回アクションミーティングのふりかえり ◆わが町でできることを一緒に話し合おう ~ 第1回からの継続ミーティング ~ <グループでの話し合い> ○アクションプランを進めていこう	◆第1回から今日までの経過 ◆これからのプラン (2グループごとに、ヒアリング・意見交換)
第3回	日時	平成30年1月18日(木) 13:30~15:30	平成30年1月23日(火) 13:30~15:30
	場所	郡山市総合福祉センター5階 集会室	道の駅よりっせ 2F
	参加者	46名	24名
	内容等	◆第2回アクションミーティングのふりかえり	◆第2回アクションミーティングのふりかえり

	<p>◆アクションの具体プランを固めよう ～第1回、第2回からの継続ミーティング～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人ミーティング、できることからはじめよう ・本人ミーティングを行うことで、見えてくること・見たいこと ・本人ミーティングを本人にとってのよりよい暮らしに活かしていくために大切だと思うこと <p>☆開催後、市担当者と研究班にて打合せ</p>	<p>◆アクションの具体プランを固めよう ～第1回、第2回からの継続ミーティング～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人ミーティング、できることからはじめよう ・本人ミーティングを行うことで、見えてくること・見たいこと ・本人ミーティングを本人にとってのよりよい暮らしに活かしていくために大切だと思うこと <p>☆開催後、町担当者と研究班にて打合せ</p>
--	---	---

【参考データ】

郡山市	西会津町
<ul style="list-style-type: none"> ●人口 : 325, 646 人 ●65 歳以上高齢者人口 : 81, 663 人 ●高齢化率 : 25.1% ●要介護認定率 : 18.0% ●日常生活圏域 : 20 地域 ●地域包括支援センター 計 18 か所 委託による地域包括支援センター 17 か所 直営による基幹型地域包括支援センター 1 か所 (平成 30 年 1 月末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ●人口 6, 558 人、世帯数 2, 694 ●高齢化率 44.7% ●後期高齢化率 27.8% ●独居世帯 666、高齢者のみ世帯 437 ●介護認定率 19.0% (平成 30 年 1 月 1 日現在) <p>※介護認定率は平成 29 年 9 月現在</p>

< 2 地域での取組の様子 >



●郡山市

※郡山市では、近隣町も参加



●西会津町

【和歌山県】

①県全体での市町村合同ワークショップ * 県:30市町村

	第1回	第2回
日時	平成29年10月6日(金) 13:00~16:30	平成30年2月16日(金) 13:30~16:30
場所	和歌山県勤労福祉会館(プラザホープ) 2階 多目的室	左に同じ
対象者	市町村認知症施策担当者ならびに認知症 地域支援推進員等の地域支援関係者 (1市町村あたり2~3名程度)	左に同じ
参加者	25市町・2振興局60名、県庁3名 若年性認知症支援コーディネーター2名	19市町村、5振興局43名
プログラム * 構成は 2県共通	<p>1. 認知症の人やその家族の視点を重視した、支援体制づくりに取り組もう! ~暮らしやすい地域を、楽に、楽しく、 築いていくために~ 地域支援体制構築プロジェクト研究班</p> <p>2. 実際に取り組み始めた地域の体験を参考にしよう 「なじみの集まりを、本人同士が語り合 い、声を活かす場に 育育広場のとりくみから」(香川県綾川町 チーム) ・志度谷 利幸(ほっと飲伝え隊) ・志度谷 久美(育育広場副リーダー) ・塩田 哲也(綾川町健康福祉課長) ・増田 玲子(地域包括支援センター)</p> <p>3. わが市町村でできることを一緒に話 し合おう: <グループワーク> 1) 取り組みや体験を聞いて参考になった こと 2) 自地域でも取り組んだみたいことは 3) 一緒に取り組んでみたい人は 4) 取り組むために知りたいことは</p>	<p>1. はじめに 1) 本取り組みの目的と意義 2) 本取り組みの全体的な経過</p> <p>2. 取り組み地域からの報告 1) 御坊市チームから 2) 有田圏域チームから</p> <p>3. 本人の視点に立った地域づくりに むけて 1) 「わが町でできること、やって みたいことを話しあおう」 (ミニ・ミーティング) 2) 今後に向けて 取り組んだ関係者、県担当者から呼 びかけ</p> <p>アンケート記入</p>

	<p>5) グループワーク発表 (全体共有)</p> <p>4. あなたの町でも一緒にアクション! ～地域支援体制構築プロジェクトを進めていこう～</p> <p>5. まとめ: 今後の展開について</p>	
--	--	--

<第1回 和歌山県市町村合同ワークショップの様子>

(本人)
 診断後、絶望し最悪だった。
 この1年でものすごく変わっ
 いろいろやれる。
 面白いですよ!!
 (本人の言葉におおきな拍手)



実際にとりくみを始めた地域から (香川県綾川町チーム)



市町村ごとでグループワーク

- * 自地域の本人と一緒に参加した市もあった (県が市町村に本人参加を呼びかけた)。
- * その本人がワークショップに参加した他地域の本人 (今回は綾川町) と出会う機会になった。
⇒本人同士が出会うことの大事さを、市担当者が実感。

＜第2回 和歌山県市町村合同ワークショップの様子＞

●取り組んだ地域から

アクションミーティングの開催の合間に、グループで自主的に集まるなど短期間中に濃縮なやりとりや取組がなされ、新たなつながりも広がった。



●とりくんだ地域の報告：他地域の担当者が真剣に聞き、活発な質疑応答



②和歌山県内での試行地域の実施経過

アクションミーティングをエンジンに、その間にアクションを展開

*企画は、共通スキームを参考に、各地域が地元事情を踏まえてそれぞれが立案

*進捗状況・その時々状況に応じて、進め方を臨機応変に調整

*御坊市が動きだし、それに広川町が続き、それに有田市、有田川町、湯浅町が加わり、「有田圏域」として動き出した。

		御坊市	有田圏域
第 1 回	日時	平成29年10月24日(火) 13:30~15:30	
	場所	御坊市福祉センター 4F会議室	
	参加者	35名	
	内容等	<p>◆認知症の人の視点を重視した地域支援体制づくりに取り組もう！</p> <p>1) これからの地域支援体制づくり</p> <p>2) 本人視点にたった地域支援体制づくりの様々な</p> <p>3) 話しあおう、動きだそう ~アクションミーティングの進め方~</p> <p>◆わが町でできることを一緒に話し合おう ~ アクションミーティング ~</p> <p><グループワーク> ○アクションチームづくり ○アクションプラン</p> <p>◆今後のアクションミーティングの展開について</p>	
第 2 回	日時	平成30年1月9日(火) 13:30~15:30	
	場所	御坊市役所 5F会議室	
	参加者	36名	
	内容等	<p>◆第1回アクションミーティングのふりかえり</p> <p>・御坊市のこれまでの取り組みの経過 ・有田圏域のこれまでの取り組みの経過</p> <p>◆わが町でできることを一緒に話し合おう 第1回からの継続ミーティング</p> <p><グループワーク> ○アクションプランを進めていこう</p>	
第 3 回	日時	平成30年1月31日(水) 13:30~15:30	
	場所	御坊市役所 5F会議室	
	参加者	41名	
	内容等	<p>◆アクション報告</p> <p>・有田圏域のこれまでの取り組み経過、御坊市(日高圏域)のこれまでの取り組み経過</p> <p>◆グループワーク ~わが町でできることを一緒に話し合おう~</p> <p><第1回、第2回からの継続ミーティング></p> <p>○アクションプランを進めていこう (ミーティングシートにそって)</p>	

【参考データ】

御坊市 平成 29 年 4 月 1 日現在	有田圏域 平成 29 年 1 月 1 日現在 (要介護者認定数・率は平成 29 年 3 月末現在)				
		有田市	湯浅町	広川町	有田川町
<ul style="list-style-type: none"> ●人口 24,106 人 ●65 歳以上人口 7,242 人 ●高齢化率 30.0% ●要介護認定者数 1,681 人 ●要介護認定率 23.2% ●認知症日常生活自立度Ⅱ以上 1,022 人 ●独居高齢者数 2,199 人 ●第 6 期介護保険料 5,790 円 ●日常生活圏域 6 圏域 ●地域包括支援センター数 1 (直 営) 	人口	29,250 人	12,500 人	7,310 人	27,130 人
	65 歳以上 人口	9,264 人	4,137 人	2,289 人	8,403 人
	高齢化率	31.7%	33.1%	31.3%	31.0%
	要介護認定 者数	1,839 人	755 人	429 人	1,705 人
	認定率	19.7%	18.3%	18.4%	20.2%
	地域包括支 援センター	各 1 か所 (直営)			

<アクションミーティングの様子>



- 取組の途中経過も報告しながら、アクションのこれからを話しあう

◇3回のアクションミーティングでの話し合い経過【アクションミーティングシートより】
御坊市2グループの例（構成：居宅介護支援事業所、地域包括支援センター）

**本人支援の体制づくりのための
御坊市・広川町アクション・ミーティング**

第1回：平成29年10月24日（火）

1 本人だけでなく家族や周囲の人にも話を聞いてもらうことはできるのか？
（本人が参加しているのか？と聞き取りたいのか？）

- ・ * * * の疾患センターには、ご本人が一人で来られている
「変わったらやれやれと親（本人）」
→最近、家族がついて来られている（内容を聞いてこれなくわかってきているため）
 * * * 病院にも→先生の呼びかけが来ている
 →「レ」の個別に申し込んでいる
 【家族（CMでもある）の声】
 認知症疾患医療センターに相談→受診する
 ↑
 ・支援者側の代表相手→支援につまづいた時、専門職に相談する。
 「包括ケア」→CMに相談してつなげる、包括内で相談したり、
 リーダー事業所に相談したり、
 ・当事者・家族はご本人に相談しづらい方が多いように思う。
 ・本人の声 →「（認知症）にはから薬の処方さえ自分で相談する。
 「自分が認知症かどうかわからない」
 「直すつもりよ！！」（ひとつとしてあげて）薬の処方、
 →人へ話をしあひだりをする

※他、裏面に記載あり

チームメンバー（名前・立場・所属）

グループ2

【記入なし】



2 自分たちのチームで取り組むべき課題を本人や家族へどうアプローチする……

【記入なし】



**本人支援の体制づくりのための
御坊市・広川町アクション・ミーティング**

第1回：平成29年10月24日（火）

◎18m道路を歩いて * * *まで行ってしまったことがあるが、何とか誰にも聞かずに帰ることができた。
＜本人の声＞
「いつも通っている道だけど、わからん時がある。長いこと歩いている時がある」
「何かおかしいわ」
郵便配達していたので、この辺の道はよく分かる
「かくすってことはようせん。聞かれたらすぐ何でも言うよ」
「わからん様になってきたら、知ったところでわからん様になってくる」
「町内だったら帰ってこれるよ！！」
「段々相談とできること少なくなってきた。もう今は1人しかないわ」
「自分に自信ないわ」←「ハーモニカ教えてくれる時（ミニチュア？）（友人）は自信満々やで」
（* * * 氏）四つだ一緒に作った人

◎通院は（本人）一人で来ても、Dr. の話を聞いてこれない人が多い。
＜本人の声＞
「段々頭悪くなってきたから、よう覚えてやれん……」
「娘がついて行ってくれたらありがたい」 →「聞いてもらえる、報告してもらえる支援が必要だと感じる。（ほしい）」（家族、支援者側の声）
「最近では病院についているが……一人ではなかなか大変、他に手伝ってくれる人や支援があれば……」（家族の声）
「病院にも連携室あるも……」（支援者の声）

◎ * * * ボランティアに受診内容を聞いてもらう支援をしてもらえると良い
↑
ご本人「聞いてもらえる人に来てもらえたらありがたい」

◎病院の中にもボランティアを配置し、院内案内だけでなく、もう少し拡がった支援をしてあげてほしい ←支援者の声
「一人だったら頼りないから、ついて行ってくれる人あったらありがたい」 ←本人の声
院内案内でとどまっている（現状）
「人に聞きながら、時間がかかっても行かなしようない。でも何とかなつてら！！」（本人の声）
「病院から帰る時、出口がわからんようになる」（本人談）

◎ * * * サロン 以前は支援側、今は利用者。あとをついてくれる人がいないことに困っている（利用者の声）
サロンは30か所ある。

◎サロンやデイは、女性の利用が多い。
男性が気軽に参加できるようなサロン等の集まりの場があれば、「ようしゃべらん人はずっと座っている。気の毒や……」（本人談）

チームメンバー（名前・立場・所属）

グループ2（裏面）

第1回に、本人が参加。
本人の日々の暮らしの話から
出てきた希望をきくところから
スタート。

(2) 各試行地域における試行の実際と結果

①福島県 郡山市

郡山市の取り組みについて



福島県郡山市

郡山市について

【市の概要】

- 福島県の中央に位置
- 鉄道や東北・磐越両自動車道が縦横に交差するなど、交通の利便性が高い。
- 面積：757.20km²

【基本情報】（平成30年1月末現在）

- 人口：325,646人
- 65歳以上高齢者人口：81,663人
- 高齢化率：25.08%
- 要介護認定率：17.95%
- 日常生活圏域：20地域
- 地域包括支援センター
委託による地域包括支援センター17か所
直営による基幹型地域包括支援センター1か所
計18か所



郡山の位置図



案都郡山

(郡山市統計書より)

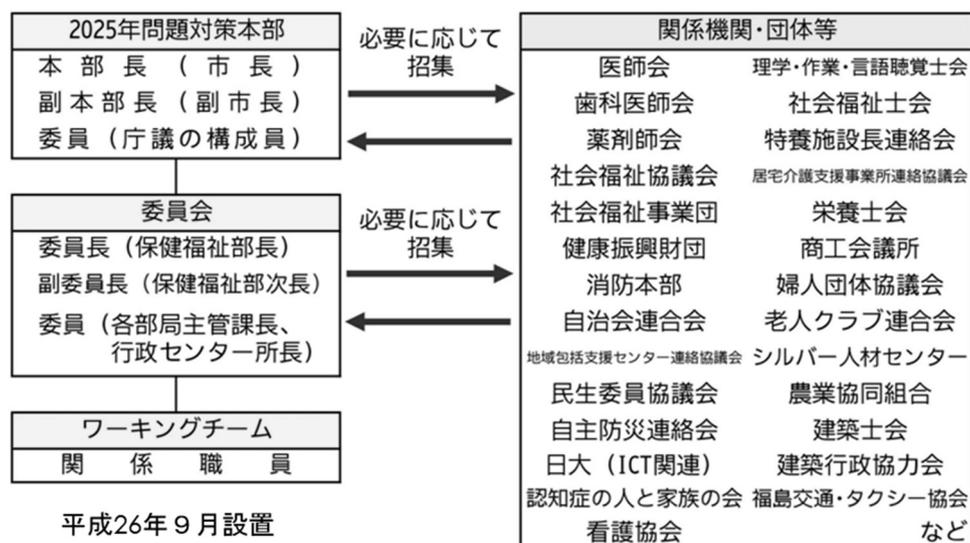
郡山市の65歳以上の認知症の推定有病者

	2015年 (平成27年)	2025年 (平成37年)	2040年 (平成52年)
郡山市人口	326,044人	約322,000人 ※1「郡山市人口ビジョン」 より	約290,000人 ※1 同左
高齢化率	24.88%	30.00% 「H29高齢社会白書」より	35.30% 同左
65歳以上の市民	81,106人	96,600人	102,370人
認知症有病者率	15.20%	18.50%	20.70%
認知症の推定有病者	12,328人	17,870人	21,190人

※1 郡山市人口ビジョンによる2040年人口は、国ワークシートによる推計人口

郡山市2025年問題対策本部

「団塊の世代」が75歳に到達する2025年に向けて発生
が懸念される様々な問題を全庁的に協議



セーフコミュニティ認証

WHO（世界保健機関）が推奨する、けがや事故の予防活動の国際認証。郡山市は、平成30年2月2日に世界で391番目、国内では15番目、福島県内では初となる「セーフコミュニティ国際認証」を取得しました。

当市では地域活動団体、関係機関、行政等が協働により取り組むセーフコミュニティ活動を通じ、市民が安全で安心して暮らすことができるまちづくりを推進しています。



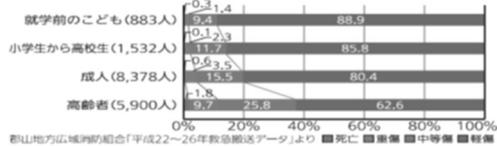
高齢者の安全対策委員会

○委員
高齢者の健康づくりや介護関係団体などから選出された16名

○重点課題
①高齢者の転倒が多い
②高齢者虐待の相談が多い
③認知症の方への対策
④高齢者の交通事故が多い

高齢者重傷度率（病気を除く）

平成22～26年の救急搬送データから重傷度率を見ると、高齢者の重傷度率は、成人に比べ約3倍となっています。



○取り組みの様子

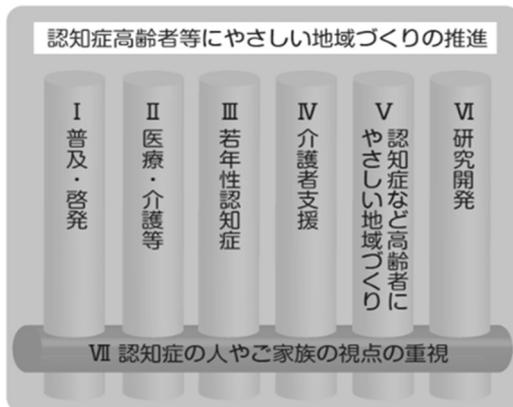


国における認知症施策の推進

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） ～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

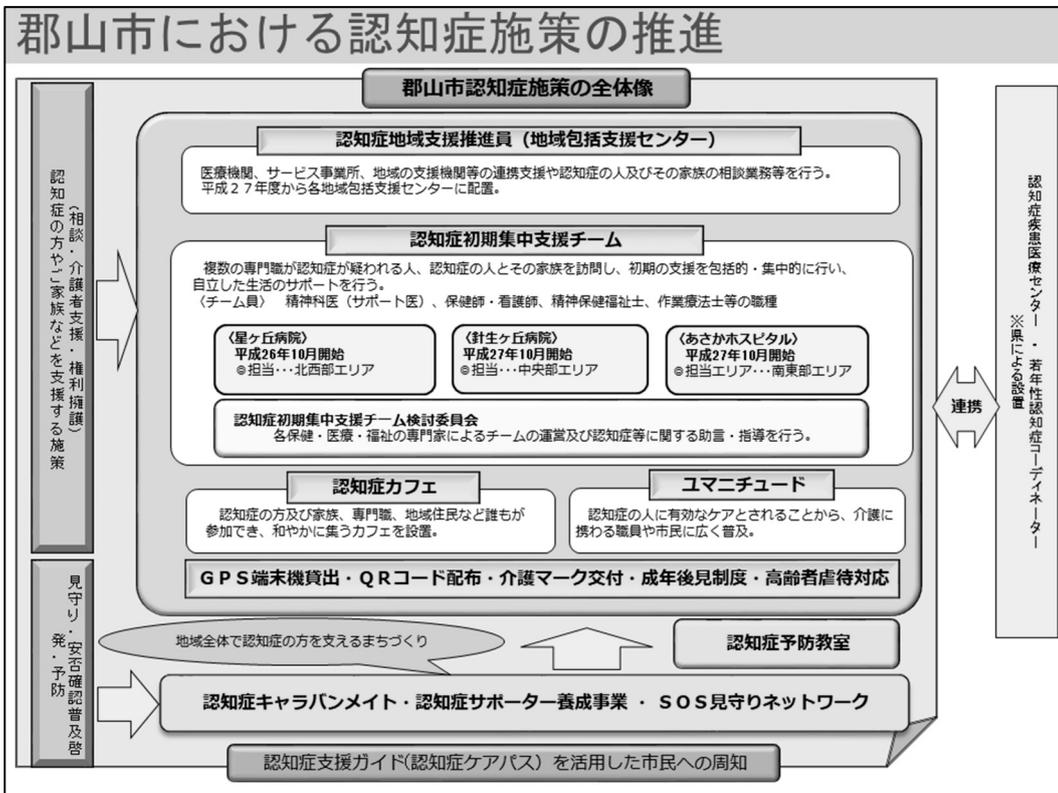
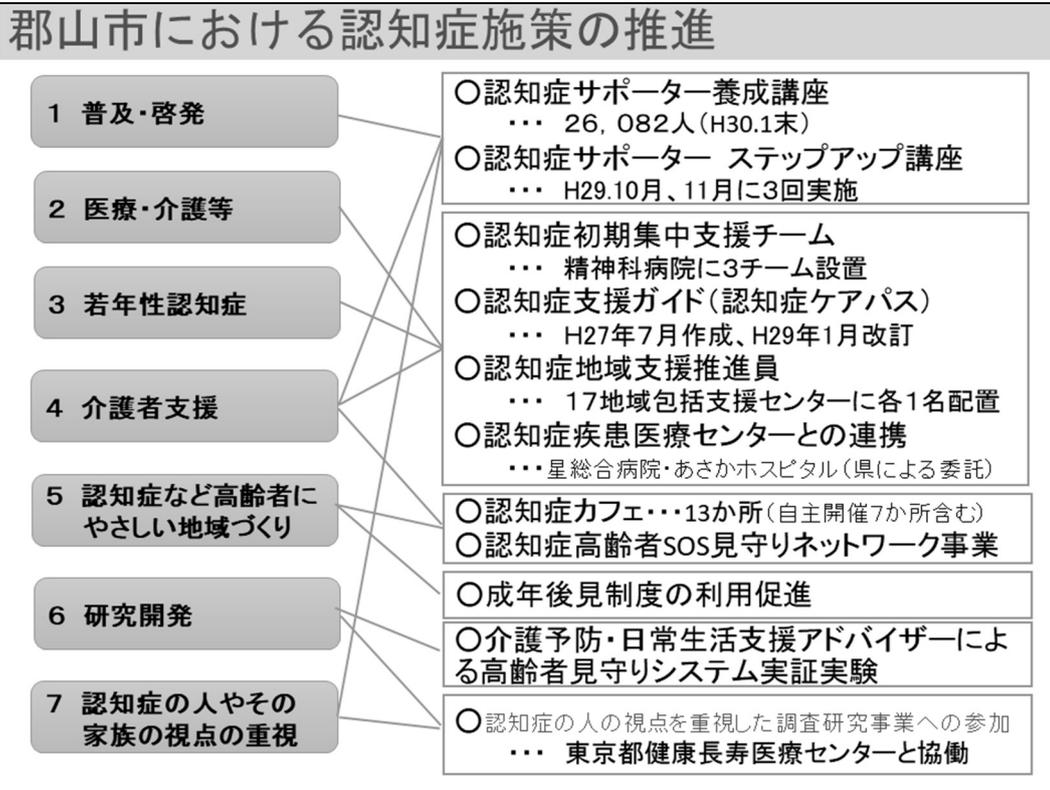
新オレンジプランの七つの柱



「VII 認知症の人やご家族の視点の重視」は、他の6つの柱に共通するプラン全体の理念でもあります。



出典：厚生労働省「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～認知症高齢者等に優しい地域づくりに向けて～」



きっかけ・・・



各種認知症施策を推進しているけど

本人のためになっているかな・・・
本人のところにとどいているかな・・・



本人の声をきいてみよう！本人ミーティングをしてみたい！



でも、どうすればいいんだろう

本人ミーティングについて問い合わせしてみた。
それがきっかけになって、調査研究事業に参加してみよう！

アクション・ミーティング

テーマ

認知症本人の意志を引き出すための アクション・ミーティング

～本人の声を活かす地域支援・地域づくりにむけて～

認知症の一人ひとり(本人)が、よりよく暮らしていけるように、
郡山市で取組めそうな活動(アクション)を、話し合う。

対象者:地域包括支援センター(認知症地域支援推進員)、
小規模多機能型居宅介護、地域密着型通所介護、
認知症初期集中支援チーム、認知症カフェ関係者

第1回:平成29年11月28日(火)	56名出席
第2回:平成29年12月22日(金)	43名出席
第3回:平成30年1月18日(木)	46名出席



今後の活動に結びつくよう同じ地域のメンバーで
グループ編成を行った。(10グループ)

本人の声を聞くこととは・・・

本人の声を聞くために、本人を集めるのではない。
本人が本音を言いやすい雰囲気づくりが大事。
本人ミーティングを急いで開催することはない。



まずは本人の声を聞く側が意識を変えることを浸透させたい
聞く側が本人の声をどう受け止めるかが大事
ゆっくりすすめよう
まずは今すでに活動しているところを見直して、
それをみんなでも共有しよう

取り組みの1つ

アクション・ミーティングに出席した地域密着型通所介護で
スタッフの意識が変わり、地域の人と一緒に芋煮会をした。

地域とつながる

普段みられない
利用者の表情がみれた
声が発せられた



利用者さんも
一緒におにぎり
作り

ここからアクション・ミーティングの
参加者からの報告

アクションミーティングに参加して (郡山北部地域包括支援センター)

地域包括支援センターの職員として参加
(認知症地域支援推進員の兼務)

郡山市で取り組めそうな活動(アクション)
を話し合ってみよう



これから取り組む?

まずは今現在
やっていることは?

すでに“本人の声をひろい” “アクションをおこしていた”事例

84歳 男性 独居

入院中に介護保険申請し、要介護1の認定

現在は要介護2

認知症の診断を受けている。



退院後独居での生活が困難なことから、
県外の子どもの意向で小規模多機能居宅介護事業所
へ連泊のケアプランで利用開始(平成27年より)

普段やっていることでよかった 一人の人として向き合っていたから

本人が県外の娘さんやスタッフに『家に帰りたい』と頻回に話す

「一度帰ってみましょうか」

まずは夕方から翌日の夕方までの一泊

午後から翌日の夕方まで延長してみる

自信がもて笑顔、意欲向上



少しずつ
宿泊（自宅で暮らす）日数を
増やすことができた

「本人・本人たち」に対する 認識（見方や考え方）の変化

本人は支えられる立場ではない

私たちは支援者という立場でない

人と人との出会いを大切にしたい
その人の話を聞きたい。興味があることを知りたい。

相手に向き合う姿勢

- * 本人の意思や声を活発に出せる場にしたい
- * 「話したい！」「集まりたい！」という気持ちになってもらう
という雰囲気づくりが大事
- * 私たちも笑顔で楽しく前向きに取り組める



「本人・本人たち」に対する 認識（見方や考え方）の変化

本人ミーティング
その特徴を知って

形が決まっていなくて
いい

- 支援者という立場に立たない
- 『集める』『声を聞き出す』のではなく
- 何のために集まっているのか？ではなく
「集まりたい！」「話をしたい！」という雰囲気づくり
が大切
- 自ら参加する
- 場所はどこでもいい。
- 一人でもいい。誰とでもいい。



「本人・本人たち」に対する 認識（見方や考え方）の変化

本人の視点にそうこと

支援者として『本人』を
みているのではなく

ひとりの
人間として、
相手に向き合
う姿勢

相手を知りた
いという気持
ち

やさしさをも
って会話がで
きること

つなぐ、
そしてひろがり
をつくっていくこと
特別なことじゃなく
みんな普段から
やっているはず

笑顔で会話が
できること

出会いを
大切にしたい
という気持ち

結論：初心にかえった。目からウロコだった。

星総合病院における認知症に関する取り組み

当院では郡山市、福島県より委託を受け、以下の事業を実施しています。



【郡山市】

- こおりやまオレンジカフェ☆キラリ☆（認知症カフェ）
- 認知症サポーター養成講座
- 認知症サポーター育成ステップアップ講座
- 認知症初期集中支援チーム（星ヶ丘病院）



【福島県】

- 認知症疾患医療センター
- 若年性認知症支援事業（コーディネーターの配置）

アクションミーティングに参加

アクションミーティングに
認知症看護認定看護師と精神保健福祉士が参加

アクションミーティングに参加後、院内で情報共有と相談。
本人ミーティングは既存で運営している身近な認知症カフェで実践して
みるのが良いのではないか

認知症カフェで試行することとした



星総合病院オレンジカフェ☆キラリ☆について

平成27年7月より郡山市の委託をうけ事業開始

第2・4火曜日 11:00~12:30

15~20名参加



- ・スタッフは専門職（認知症看護認定看護師、臨床心理士、理学療法士、精神保健福祉士等）を配置
- ・カフェの開始前は認知症予防体操やミニ健康教室を実施
- ・カフェ実施日には地元農家による新鮮な野菜販売を行う青空市



本人ミーティングをカフェで実践

以前よりカフェ終了後には
カフェ内での利用者の声等を職員間で情報共有していた



カフェ開始前に...

アクションミーティングに参加したスタッフから他スタッフへ
アクションミーティングの取り組みについて説明。

あえて聞き出そうとはせず、カフェの中で本人の思いやニーズと思われるものを終了後に共有したいと周知した。

カフェ終了後、情報共有の場で

〈スタッフ間で情報共有〉

⇒男性の当事者から

「このカフェの人たちでどこかに出かけたいなあ。さくらの時期とか…」

認知症になる前は、様々なところへ外出をしていたらしい

⇒他のスタッフの話から、以前にも同様の話が聴かれていたことがわかる



〈スタッフからの提案〉

さくらの時期になったら、

お弁当をもって病院近くの桜を見に行くなんてできないかな？

アクションミーティングを行ってみて…

〈意識の変化〉

- ・カフェで話していた内容を、共有していたが話すだけで終わりにになっていた。
- ・当事者の意思を反映し、提案していてもいいのではないかと感じるようになった。
- ・支援者側の思いで動いてしまいがちであったことに、気付けた。
- ・当事者からの発信は今までもあったはずだが、意識して聴いていなかったことに気付いた。



アクションミーティングに参加して (安積地域包括支援センター)

本人視点・・・

どうしても、認知症の人と見てしまいがち。

利用者さん・・・

「みんな忙しそうだからいいわよ...」
「世話になってんだもの、我がままなんて言えない」
スタッフが利用者さんの声を出せないように
していたかも・・・

家族に遠慮して、なかなか声を出せなくなっている。

認知症・・・まだ初期だから大丈夫？

本人の声に耳を傾けることはできていたかな・・・。

小規模多機能スタッフ
認知症疾患センタースタッフ
デイサービススタッフ
オレンジカフェ運営スタッフ
認知症の人と家族の会
地域包括支援センター

まずは、
それぞれの現場で
本人の声を聴いてみよう！

声を聴くためには
工夫も必要な・・・

自分たちが関わっている場面で 本人の声を聞いてみよう！



設計図があれば
また何か作れるかな。



姉が編み物やってたの。
もっといろいろ編みたい！



最近忘れっぽくなって・・・
もっともっと
俳句や川柳をやりたいんだ。

オレンジカフェにて・・・

忘れっぽいことがあるけれど、
もっともっと家事がしたい！

家族から迷惑掛けるからって、
好きだったコーラスはやめた。
でもまたコーラスをやりたい！
歌いたい！

家にいても、話相手がいないの。
もっともっと
おしゃべりしたい！

この声をもとに運営スタッフと検討。
来月は歌も歌おう！
ということになりました。
みなさんの声を形にしていこう！



デイサービスの運営推進会議から・・・



凄くない！問題ないない！
来年はもっと早くから
一緒にやっばい。



公民館周辺の草むしり



「草むしりやってみっかい？」
の一言から始まりました。
やり始めるとやめられない！
夢中になれて楽しかった！



小規模多機能さんにて



みんなでお料理
楽しい！



お茶の先生と一緒に・・・



こういう時って
おしゃべりたのしい！



あるグループホームで・・・

周囲の音が気になるのか
不穏状態が続いたBさん。

職員も対応に疲弊・・・

本人のことを考えてみよう！



あるグループホームで・・・

【本人の好きなこと】

テレビを見ること。
コーヒーを飲むこと。

フロアでも出来ているけれど...
本人の居室に、本人専用のテレビコーナー作成
大好きなコーヒーを水筒に！

テレビ台は
段ボールで手作り！

不穏状態がなくなりおちついた！
水筒の開け方もできるようになった！
自分の居場所ができた。



あるグループホームで・・・

不穏状態という部分にばかり
目が行っていた・・・

本人の理解、本人の声を
大切にすることに
気付いた！



あるオレンジカフェで・・・

出会いとつながり・・・



若年性認知症の男性の方と同じテーブルで・・・

その方の声を聴く
アンテナを高く！

これからも、本人の声を集め・・・

- それぞれから本人の声を持ちより、
アクションミーティングの開催
- そして、本人ミーティング開催へ



支援者と当事者でなく・・・ 人と人とのつながり！

横並びの関係で！

大人な集まりにしよう！

今の超高齢化社会について語ってみようか...

認知症について語ってみようか...

うまくいったこと、失敗したこと。ネタを集めて、

「Q&A」を作ってみようかな。

いろいろなアイデアが出ています。



ワクワク
するね！

カラオケ
ボックスで！

馴染みの
食堂で！

同じ趣味の
仲間と！

歌を
通して！

美味しい
ものと一緒に。

今後の地域支援体制構築に どのように役立つか・・・ 郡山市ではこのようなことを目指しています！

他事業所の活動を知ること
自分自身の業務を
見直すきっかけになる

「本人の声を聞く」ことを
地域に広めていくことができる

1人の方の支援を拡散させることで
本人視点の意識へ変えることができる

今後の地域支援体制構築に
どのように役立つか・・・
郡山市ではこのようなことを目指しています！

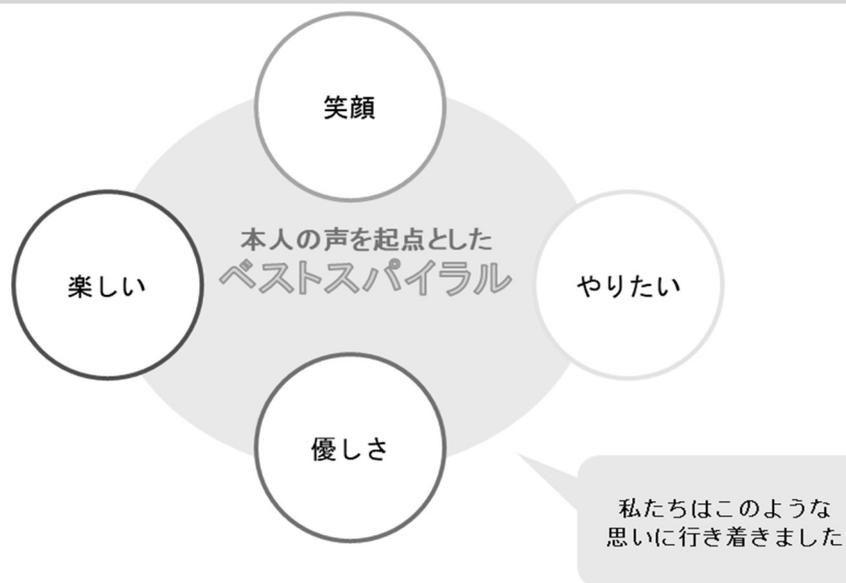
その人のできることを
地域に知ってもらうことが
できる

地域の人々の認知症の
理解・意識の変化

本人と本人、
本人と地域がつながる

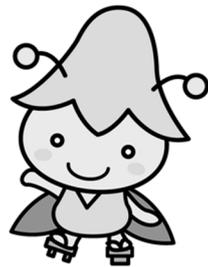
地域に本人の力を活かす
きっかけ

今後の地域支援体制構築に
どのように役立つか・・・



② 福島県 西会津町

西会津町における認知症の人の視点を重視した支援体制づくりの取組みについて



西会津町役場 健康福祉課福祉介護係 二木美津子
西会津町介護老人保健施設憩の森 中島 愛
西会津町居宅介護支援センター 伊藤 健治
西会津診療所 医療介護相談員 新田 幸恵

西会津町の概要

西会津町は東西の距離が17.55 km、南北34.5 km、面積が298.13km²あり、その約85%は山林である。

人口6,558人 世帯数2,694
高齢化率44.46% (H30.1.1現在)
後期高齢化率27.78%
独居世帯666、高齢者のみ世帯437
介護認定率19.0% (H29.9月)





経過①

- 平成29年9月 5日 町内の介護サービス事業所等の関係者が参加する
会議（高齢者サービス調整会議）で、事業の説明
をし、町で研究事業に協力していく事を周知
- 9月12日 福島県市町村合同ワークショップ参加
- 9月28日 アクションミーティング開催通知を町内の介護サ
ービス事業所・診療所・社協・町保健師等に出し、
参加者を推薦してもらう
- 10月 3日 福島県市町村合同ワークショップの結果を、高
齢者サービス調整会議で報告し、アクションミ
ーティングへの参加協力を呼びかける

経過②

- 平成29年10月19日 第1回アクションミーティング開催
24名の参加があり、4グループに分かれ、事業の趣旨について
説明を受け、アクションプランを検討した
(入所施設系、通所・短期入所系、在宅サービス系、
医療機関・行政職員系の4つに分かれた)
- 11月 1日 第2回目の開催通知を出し、アクションプランの
実行を促す
- 12月15日 第2回アクションミーティング開催
第1回ミーティング以降の経過報告
- 12月28日 第3回目の開催通知を出し、プランの実行を促す
- 1月23日 第3回アクションミーティング開催
わかったことや、今後に活かせそうなことについて話し合った

アクションプランの概要



グループ	アクションプラン
1 (入所施設系)	本人が会いたい人を聞き、施設に来てもらって、お茶のみを設定する。
2 (通所サービス系・老健)	デイの利用者に、どういことがしたいか、話を聞く。
3 (在宅サービス系)	K自治区で、認知症の人3人くらいと、その他民生委員、区長、商店の人などに集まってもらい、話を聞く。
4 (医療機関・行政職員系)	社協に委託しているミニデイサービスに出向き、話を聞く。



1 グループの結果について

- 他事業所と同じグループだったので、再度集まって話し合うことができなかった。
- 施設内では座る席が決まっていたが、この前、席を変えたら、話が「どこの自地区？」なんて話が弾んでいた。まずは施設内でできることをやってみるのもいいのかなと思った。
- 会いたい人を聞いてみたら、自分の地区の人と答えた人は、楽しそうにこんな人もいたと話してくれた。写真もみせてくれた。遠方の家族と答えた人は、さびしそうだった。

1 グループの結果について

- その後、同じ地区の入所者とお茶飲み会を会議で提案した。おやつの時間にミニサロンをしようとなった。でも、話ができる人が1名入院になり、開催には至っていない。
- 出身や嫁ぎ先の一覧を作って、午前中の30分だけでも集まりの時間を作ろうとしている。暖かくなったら、同じ1グループの3施設で集まりたいと思う。

◆今後本人の声をどのような場面や機会に活かそうか (1グループ)

- ・ 家族へ働きかけ面会に来る回数を増やす
- ・ 地域の行事を聞いて本人を連れて行き参加する。

◆地域づくりに活かしていくためのアイデア・工夫 (1グループ)

- ・ 地元の人に外出の支援を依頼する
- ・ 話し相手に区長や民生委員に施設に来てもらう

2 グループの結果について

- 11/17 第1回打ち合わせ
- 11/21 デイケアの利用者で、自分の思いを伝えられる人5人を集めて、「どうということがしたい？」と話を聞いた。花（あさがお）作り、門松作り、俳句つくりと答えた人が2人いた。そして俳句の会に入っている人もいたので、俳句つくりをやってみようかとなった。長期入所利用者にも聞き取りをしたが、意思疎通がうまくとれず、デイケアのプランを実行した。
- 11/24 第2回打合せ

2 グループの結果について

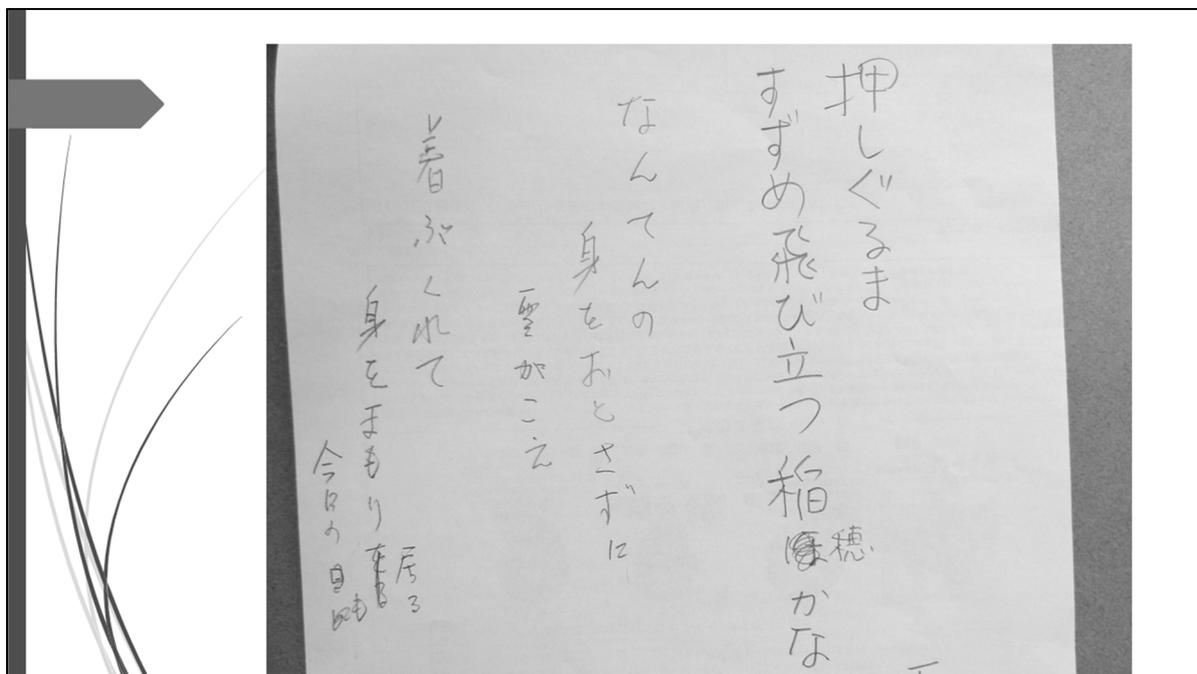
- 11/28 傾聴ボランティアが来る日に、デイケア利用者2名と入所者2名の4人で実施した。最初は静かだったが、そのうち賑やかになった。30分の予定が1時間になった。「季語はこうじゃないか」等、集まったときに話し合うようになった。また作った俳句を評価し合っている様子も見られた。

入所の方がデイケア利用者へ、自分の地区の様子などを聞き、それに対してデイケア利用者が、入所の方に町内の話や近所、知人の話をし、お互いに交流する姿も見られた。

2 グループの結果について

- 12/13 第4回打ち合わせ
- 俳句を短冊に書いて、施設に展示した。それを法人の広報誌に載せることに決まり、広報委員会に提示し、了解を得た。
- 今後、俳句の会をどう継続していくかが今後の課題で、利用者の方は続けたいと言っている。新聞等への投稿も考えられる。





2 グループの感想について

集まって会話することで、利用者の方がとても生き生きとされていた。

入所利用者が字が書けると思っていなかったが、しっかりと字を書いていて、職員が決めつけていたと気がついた。TVの「プレバト見てみる。おもしろいから」と言われる。毎日俳句を作って通所時に持ってきている。

「紙とペン貸して。部屋でも考えてみっから」という人もいた。今まで、そんなことは言わなかった。

2 グループの感想について

運営をどうしていこうかと思っている。
(利用者も含めて一緒に話し合うと
よいと助言あり。)

新聞に投稿すれば、新聞も見るよう
になるかも。認められることで、
自信につながり、生き生きと生活
していければと思う。

きっかけが大事だなと思った。発見も
たくさんあった。中止になった
とき、ある人が「残念だった」と、
とてもがっかりしていた。担当者
会議があった後、手帳に書いている
んだと見せてくれた人もいた。

◆今後本人の声をどのような場面や機会に活かせそうか (2グループ)

- ・俳句の評価を誰かにしてもらったら、もっとやろうと思うかもしれない
- ・掲示の場所を増やす、変えてみる(支援ハウス、診療所など)

◆地域づくりに活かしていくためのアイデア・工夫 (2グループ)

- ・施設の委員会に託すか、アクションミーティングのメンバーで継続していくか?
- ・俳句の会のボランティアの検討
- ・デイサービスの参加も検討
- ・町の俳句の会に参加でき、社会参加につながればと思う

3 グループの結果について

- この集まりを開催する前に、今回の集まりの意図をどう伝えていくか1時間くらい打ち合わせをし、本人へは担当ケアマネから説明した。支援者の一人は社会福祉法人の理事長だったため、包括の所長から説明した。
- 12/5 認知症の方3人（89歳男性・事業対象者、88歳女性・事業対象者、85歳女性・要介護1）と、地域で支えている人、民生委員とスタッフ3名で座談会を実施した。

3 グループの結果について

- 当日は、若い頃やっていたことを聞いた。「ホップやたばこを作っていた」「歴史の本を読むのが好きだ」「前は将棋をしていたけど、今はデイサービスにそういう人はいない」等の話があった。
- 「この人は手先が器用だと言われていたんだ」と、他の人から褒められていた人もいた。みんな近所に住んでいるが、久々に会話をしたようだった。
- それぞれデイサービスに行っているが、地域との関わりは少ないのかと思った。会場までも久しぶりに来たのではないか。会場に貼ってあった若いころの写真をずっと眺めている人もいた。楽しい雰囲気、 「○○ちゃん」と男性が呼ばれていて、地域ならではだと思った。

3 グループの感想について

地域の人とのふれあいを見て、私たちには見せない顔だなあと考えた。地域の人どうして話をすることが、特別な意味を持つことが分かった。

介護サービスの利用で外に出る機会があっても、いい顔をするのはこういう集会所に来た時なんだなあと考えた。こういう場を自分たちでセッティングできればいいけど、そこまでの力はない。男性は「デイサービスには行っているけど、あそこは死にぞこないが行っている」と言っていた。

3人が会うためには、段取りが大変だなと思った。地域とのつながりは大事だなと思った。

家から出る事が少なくなり、今回会場に集まったことは良かったのかな。送迎は必要になるが、こういう集まる場があるといいのかなと思った。

◆今後本人の声をどのような場面や機会に活かそうか (3グループ)

- ・将棋など趣味を一緒にできるような集まりを開催
- ・昔話をする会の開催
- ・同じ時代を生きた方の交流会

◆地域づくりに活かしていくためのアイデア・工夫 (3グループ)

- ・地域の方々に声をかけ、将棋のできる方を集める
- ・地域で会いたい人を聞き、集まってもらう
- ・ぶらサポ（社会福祉法人の事業）とタイアップし、地域の会いたい人が集まれるようにする

4 グループの結果について

- 11月初め 3人のメンバーが集まり、質問内容を再度確認し、聞き取りの日程調整を行った。11/24 3名、11/30 3名で対応することにした。質問する際のマニュアルを作成。
- 1日目：利用者10名（自立4名、認知症の症状有り6名）に実施。
2日目：利用者12名（自立2名、認知症の症状有り9名）に実施。

4 グループの結果について

質問①「これからも、これだけは続けてやりたいと思っていることは？」

質問②「認知症という言葉に対して、みなさんはどのようなイメージを持っていますか？」

質問③「もしかして、認知症かなあと思う時や、人に言われて気になったり、ドキッとしたことはありますか？」

質問④「認知症は発見されやすくなっているが、もし、認知症と言われたら、はっきり教えてもらいたい、自分は知らないでいたいと思うか教えてください」* 2日目のみ

4 グループの結果について

- ミニデイサービスに来ることは楽しい、ずっと来たいとみなさん話されている。
- 「認知症にはなりたくないなあ」「認知症にならないようにしている」「認知症にならないように励ましてほしい」等、物忘れは自覚しつつも、認知症とは思っておらず、またよいイメージも持っていない返答が多かった。
- 中には「何事も忘れんだ。ほんとに何事も忘れんだ。みんないて、ああ、おれ忘れっちまって。」と忘れて困っている様子が伺えるような返答もあった。また「同じことを何回も言うので変だなと言われる」と自分の変化をはっきりと自覚されている方もいた。
- 質問④に対しては、「言われたくない（3人）」「はっきり教えてほしい（4人）」と答えが分れた。

4 グループの感想について

本人は自覚している。「物忘れする」という言葉で表現しているが、実施した後、集団の中で本音が聞けているのかなと疑問に感じた。

今回のメンバーは集団では聞きにくい人だった。本音は聞き取れなかったかも。自分の仕事の時に何気なく聞いた方が本音が聞きやすいと思う。

「認知症ってどんなイメージ？」と聞いたときに、イメージという言葉の意味が伝わらない。例を出すとそれと同じような内容に集中してしまうし、本音をもっと時間をかけて聞きたかった。ミニデイの支援員が聞くと、また答えも変わってくるかもしれない。これだけ認知症になりたくないと言っているのに、認知症予防をやっていかないといけないと思った。また、認知症になっても「安心していい日々をすごしていける」と思ってもらえるような働きかけや地域づくりをしていく必要がある。

4 グループの感想について

認知症になりたくないというのは、どういところから思うのかなと感じた。本人がどういう立場にいるのか理解しなければ。

ミニデイサービスは、同じことを何回言っても非難されることがない。だから居心地がいいのかな？参加したらやめたくない。ああいう雰囲気のところを地域にあればいい。

◆今後本人の声をどのような場面や機会に活かそうか (4グループ)

・「認知症になりたくない」という声から、認サポで助け合いの事例を出し、イメージアップを図ってはどうか。

◆地域づくりに活かしていくためのアイデア・工夫 (4グループ)

・老ク、サロンの認サポで、症状が強くなる前の説明をし、理解してもらおう。

・本人の声を若い世代へどう伝えるか（「若い者に怒られる」という声があった）若年性認知症の理解が進めば、若い人も身近に感じれるか。生徒の保護者への認サポや、ケーブルテレビの活用

「本人・本人たち」に対する認識の変化（感想から）

「字が書けると思わなかった」
「紙とペン貸してなんて、初めて言われた」
自分たちもできないと決めつけていたのかなと気がついた。思っていた以上に出来ることが分った。

介護サービスを利用して、外出しているとはいえ、いい表情をするのは、地元の人とふれあっている時なんだなあ。

本人支援のためには、地域での様子を知る事が大切だと思った。

施設に入所すると、地元の人たちが今、どうしているのか、本人は気になっている。

「本人・本人たち」に対する認識の変化（感想から）

本人は認知症だとは思っていないが、「物忘れする」という表現がよく聞かれ、自覚していることが分った。

認知症になりたくないという思いが強いことが分った。

本人を起点として考えてみる・取り組むことで、今後の地域支援体制構築にどのように役立っていくと考えるか

- 本人のやりたいことが、叶えられると、本人はもちろん、職員も楽しいそうである。それを見ていると、応援しようという気持ちが、事業所全体に広がり、行政も何か力になれないかなと考えさせられる。

(民生委員や区長等へ、今回の取組みを報告し、施設の入所者は地元の人と話している、地元の様子を知りたがっていることを伝えていく等)

本人を起点として考えてみる・取り組むことで、今後の地域支援体制構築にどのように役立っていくと考えるか

- 本人の声を起点に、本人の視点にたつて事業を振り返り、よりより事業に改善していくきっかけとなる

(「認知症にはなりたくない」「認知症にならないようにしている」という声から、認知症になっても安心して生活を続けられるという気持ちになれるように、認知サポの内容を、変えていこうと話合っている。認知症になってもこんな風に生活できていると伝えていこうという話をしている)



**本人の声を聴く努力を、
ふだんあたりまえにしていきたい。
(本人が声をもっと出せる関わり、場作りが必要)**

③ 和歌山県 有田圏域（有田市・湯浅町・広川町・有田川町）

近隣市町、病院・医師も一緒に本人と ともにつくる地域の支え合い

有田圏域（1市3町）/和歌山県

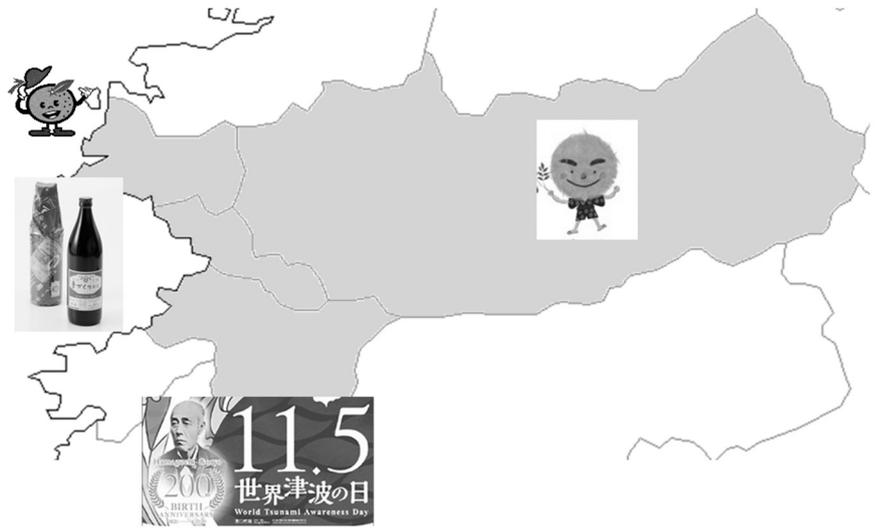
和歌山県有田圏域 市町の概要



	有田市	湯浅町	広川町	有田川町
人口（人）	29,250	12,500	7,310	27,130
65歳以上人口（人）	9,264	4,137	2,289	8,403
高齢化率（%）	31.7	33.1	31.3	31.0
要介護認定者数（人）	1,839	755	429	1,705
認定率（%）	19.7	18.3	18.4	20.2
地域包括支援センター	各1か所（直営）			

平成29年1月1日現在
（要介護認定者数・率は平成29年3月末現在）

有田圏域の紹介



『地域で支えあい認知症を乗り越える』

周田が認知症を理解し、適切な対応を心がけることができれば、認知症の方もその家族も住みなれた町でいつまでも自分らしく生きていける。
 少しの優しさでいい。人を思いやる心は人なら誰でも持っているもの。
 その優しさという薬で地域が一つになって誰もが安心して生きていける広川町を目指します！

きっかけ・・・

平成29年10月6日（金）
和歌山県合同ワークショップ

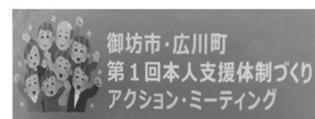


- 本人ミーティングとは？
- なぜ本人視点の支援が必要か？を知る

○有田圏域（有田川町・湯浅町・広川町・有田市）から参加

平成29年10月24日（火）
市町村合同アクションミーティング（in 御坊市）

- グループミーティング
有田川町、広川町、有田市



どうやって本人や家族にアプローチすれば……

- ・「もの忘れ外来」が2ヵ所できた（有田市）
- ・本人ミーティングについてDrから勧めてもらえないか？
- ・広川町で本人ミーティングを開催していく予定、有田川町、有田市でも開催していきたい
- ・「本人ミーティング」を持ち回りで開催して、有田圏域で協力し合いができる？

・有田圏域（有田川町・湯浅町・広川町・有田市）は1市3町で
 「認とも」（認知症啓発イベント）を通じてこれまでも協働してきた！



「認知症と共（とも）に生きるまちづくり」

「認とも」イベントの目標として、**当事者参加**を挙げていたが、なかなか繋がっていなかった。「本人ミーティング」をきっかけに**当事者の声を活かしたイベント**に繋がるのでは？



「本人ミーティングも有田圏域で
 協力し合いながらやってみよう！」(^^)!

・**圏域で協力、持ち回りで開催**

⇒他市町村へ行く事で、**参加者の楽しみにつながるのでは？**

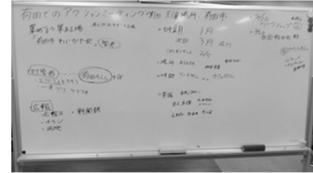
⇒**お互い相談しあえる！開催に向けたハードルを下げる**ことができる！？

無理なく、楽しく、楽に！ (^_^)

平成29年11月9日（木）（in 有田市立病院）

有田圏域合同（有田川町、湯浅町、広川町、有田市） アクションミーティング

- 本人ミーティングとは？ なぜするのか
これまで参加できなかった職員と情報共有
- 御坊市の取り組み事例を紹介いただく



- 今後の本人ミーティング開催予定について
⇒まずは、有田市で1月に開催！（地域交流カフェにて）

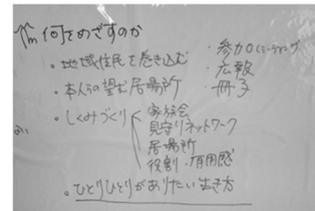
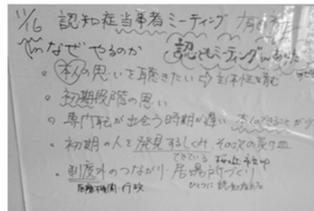


平成29年11月16日（木） 第1回有田市アクションミーティング メンバー：市立病院・社協・包括

- 「なぜやるか」「何を目指すのか」確認、情報共有

・もの忘れ外来ができ、認知症の方と早期に出会う仕組みはできたが、
そのあとの受け皿となる支援の仕組みがない？ **初期の段階から専門職**
が関わる機会が少ない

・一人一人の方がどういった関わりを望まれているのか、どういった地
域になればいいのか、「声」を聴ききたい など



平成29年11月16日（木）
第1回 有田市アクションミーティング

- 「認ともミーティング」と命名
- 案内 「どこで」（もの忘れ外来、ケアマネ、包括、体操教室など）
「だれが」声掛けするか役割分担 チラシが必要？

「寄り添うことができればきっと
自分たちにももっとできる事はある」
という前向きな思いから、有田市での
本人ミーティング企画チームを
「チームYDK！」と命名
Y（やれば）D（できる）K（こ）！
「自分たちはやればできるこ！」



平成29年11月22日（水）
1人目の参加者

- ・ ボランティアをされていた方で、最近様子が気になると社協から包括へ相談あり
- ・ 包括職員にて訪問
もの忘れ外来を受診されていた事が分かる



「認ともミーティング」について案内
⇒ 参加について了承いただく（*^-*）

企画段階から参加者の意見を聴きたい！

企画段階からの参加を声かけ ⇒ OK

**⇒次回アクションミーティングに参加予定でしたが、当日別
件で用事があったとの事で参加はならず・・・(；_；)**

平成29年12月7日（木）

第2回有田市アクションミーティング ーチームYDK!ー

メンバー：市立病院、社協、医師、保健所、包括



平成30年1月11日（木）
第3回 有田市 アクションミーティング！
ーチームYDKー 開催前、事前打ち合わせ



- ・参加状況の確認
- ・テーブルの配置 各グループ5～6人を想定
参加者、ファシリテーター×1、記録×1
- ・ミーティングのテーマ
参加者に話したいテーマをカードに記入してもらう
⇒カード式、ゲーム感覚で楽しみにつながる！？
- ・スクリーン用意
説明内容や、参加者の発言を映し出す

当日の流れ

- 1 受付
- 2 自由に座る、名札へ記名
- 3 オーダー

～ミーティング開始～

- 1 あいさつ
 - 2 座席確認（本人のみ or 家族、友人と同席）
 - 3 自己紹介（名前、出身、これまでしてきた仕事）
 - 4 テーマに沿った意見交換（カード式）
 - 5 参加者からの感想&次回（広川町）案内
- 終了
- 6 お気軽相談コーナー（希望者）



平成30年1月18日(木) 14:00
 「認ともミーティング」当日!

地域交流カフェに集まろう
認ともミーティング
 2018年1月18日(木)
 14:00~

どんな人が参加するの?
 認ともご主人、ご家族、ご友人など、みんな
 で集まって、誰さんの思いを話しませんか?
 有田市長以外の参加費も大歓迎です。

参加者募集! (申込不要)

※お気軽相談コーナー※
 社会福祉士や有田市立病院もの忘れ外来の
 山田医師・登壇者講師がいます

場所 地域交流カフェAGALA

住所 有田市箕原3-2 若地園 (駐車場6台)

参加費 なし (+ドリンク等の注文は各自負担ください)

問い合わせ先: 有田市市民交流センター 電話: 0737-63-1111



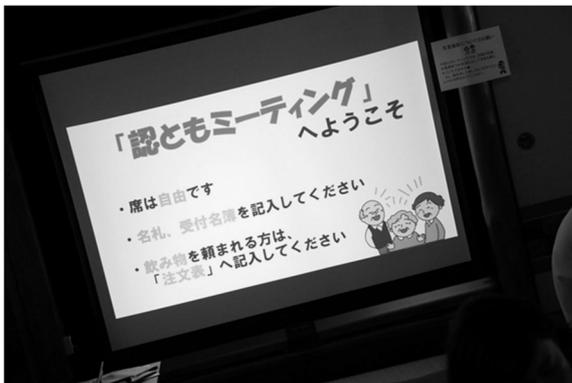
受付



好きな席へ

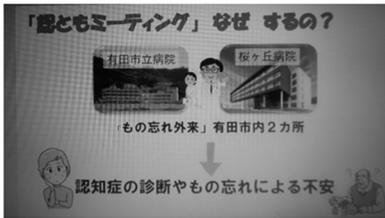
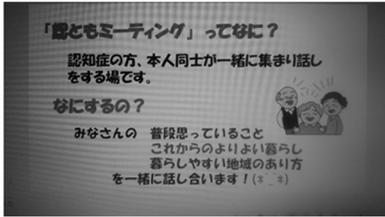


それぞれの席でオーダー



スクリーン設置！





ミーティングの流れ、目的を共有

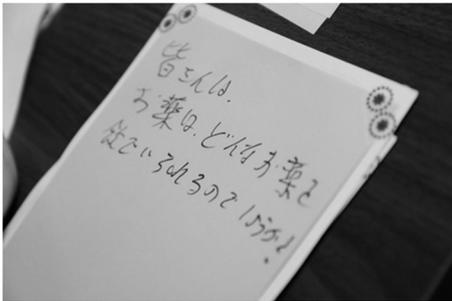
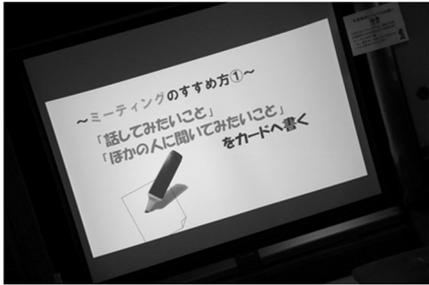
座席について

質問

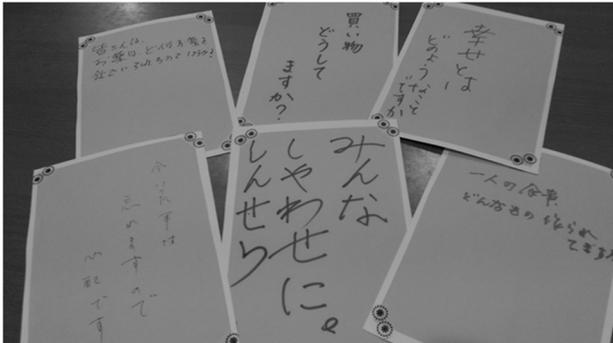
- ① ご家族さん、ご友人と別々に座る
- ② ご家族さん、ご友人と一緒に座る

どちらがよいですか？

② “参加者の声” から 「ご友人、ご家族と一緒に座る」ことに



「話したいこと、聞きたいこと」をカードへ記入！



参加者の書いたテーマ

用意したテーマ



それぞれのテーブルでミーティングスタート！



「今言うてくれたことを忘れ
ます、もう認知症の始まりか
な」

「体操教室が少ないんよ、
週に2回あったらな」

「洋裁が好き、
80歳でこける
までやってた
んよ」

「花づくり好
き、裏に小さ
なところある
んよ」



「この頃は、
体操も認知症
の忘れんよう
にする体操と
かもあるで」



「温泉へ行きたい」（ご家族）

「趣味は手で作る細工（船の模型）」

「ギターを始めた、介護施設へ訪問へ行こうと思って」

「デイサービスで一日中座っている。皆が座っている。皆が楽しめる内容にしてほしい」

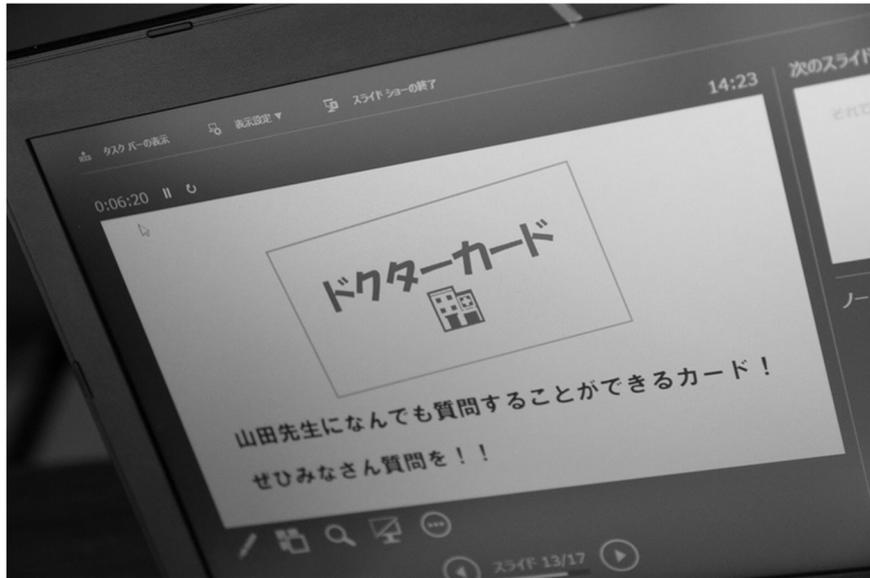
「朝起きて粥食べてコーヒー飲んで。自分が健康でいること（が幸せ）。妻も健康でいることが幸せ、みんなが幸せになってほしい」

「自分が幸せだと思えることが一番」

「薬を飲んだかどうか忘れてしまう。どうしたらいいのか」

「水1つ汲んでくれる人がいない。何もかも一人でしなければならない」





**座席の配置
各市町で固まっていた…
移動も難しい…**

**カードのテーマから
全体でインタビュー形式で質問**

**「普段やっていること、好きなこと」
「ドクターカード」**

医師から参加者へ質問！



「病気があってもなくても、もの忘れがあったとしても、どうやったら幸せに生きられるか？」

「がまん！（笑）気のもちよう」
「泣いて、笑うこと、わろてんかを見る！」
「苦勞の人生ら絶対ないさけ」
「その日のことはその日で忘れる」
「ええように考えるようにする」

感想

『こうしてみんな寄って楽しく過ごさせていただくのが一番ええこと』

『こうして男性女性が集まって互いに意見出して、みんなが発言するのが一番本人にとって活性化する。認知症の人だとその人によって発言できることを聞きだせるようにしてほしい。自分の思ってることをほり出したからになれる（すっきりする）』

『ほんまによかったな』



○参加者 12名
ご本人6名、ご家族3名、ご友人3名

○スタッフ 17名

○相談コーナー利用者 2名
(ご家族、相談のみ)



平成30年1月25日（木） ふり返りの会

良かった点・反省点

- ・本人の発言が少なかった
⇒ご家族、ご友人と一緒に座ったことも影響
隣のテーブルとの間隔が近く、ざわついてた
スタッフの人数も多すぎた？
- ・次回からは企画段階からの本人参加を！
- ・参加者から「こういった機会が必要」という言葉が聞けた

～振り返りの会の反省～

開催内容の良かった点、反省点の話に終始してしまい、「声」をどう活かすかという話ができなかった(；－；)



○これまでの取り組みを通して

①「本人・本人たち」に対する認識（見方や考え方）の変化

- 「本人の声（気持ち・希望・考え）を聞く」ということを意識づけられた。
→今までは、本人の声をこちらで想像したり、先に家族から聞いてしまっていたが、事業を計画する段階から、意識して「本人の声を聞く」ことを考えることができた。
→事業だけでなく、普段の業務でも自然と「まず本人の声はどうか」を意識することが出来ている。
- 病院でも「本人の声」を元に、各市町村の情報集約、提示など行っていたが、今回の取り組みをきっかけに、その大切さに改めて気づく事ができた

○これまでの取り組みを通して

①「本人・本人たち」に対する認識（見方や考え方）の変化

- ぴあサロン（認知症の方と家族の交流会）や普段の支援でも「本人の想いは？」
「本人の希望は？」と以前よりも『本人の声』をより意識するようになった
- 相談業務に携わってはいるものの、実はゆっくりと本人の声を聴く機会が無かったと思います。この事業を通じて改めて本人の声を聴け、支援のあり方を考える事ができた。
- 「認ともミーティング」という場を持ち、参加者から「こういった場が必要」「外へ出て話す機会が欲しい」という実際の声の聴けたことで、機会を求めている方があると気づく事ができた。

○これまでの取り組みを通して

②今後の地域支援体制構築に向けて役だったこと

- 今回、さまざまな立場（民間事業所、社会福祉協議会、病院、行政 等）が一緒になって本人を起点とした取り組み（本人ミーティング）を企画・実施したことで、それぞれが普段の業務に戻ってからも意識して「本人の声を聞く」ことが出来ている。
- 個々の立場で聞いた「本人の声」を、行政が集約し「地域の声」として受け止めることで自地域に必要なものを作っていく（地域支援体制構築）ことが出来ると思う。
- 行政主導の考え方ではなく、地域に必要な資源について具体的に見えてくると思う。

○これまでの取り組みを通して

②今後の地域支援体制構築に向けて役だったこと

- 認知症について「自分のこと」として考えるきっかけとなり、それぞれが自分にできることをみつけ、そのつながりが広がっていくことで「認知症になっても大丈夫」という意識につながっていく
- 1地域でなく圏域として開催していく事で、多くの方の意識の変化に繋がる
- 企画段階から他機関が意見交換して関わった事で、チーム力が上がった

本人ミーティング以外での協力

有田圏域の公立病院の立場から

有田市立病院

有田圏域唯一の公立病院（157床）
平成29年6月より、非常勤医師による
もの忘れ外来（週1回）を開始



診断を行う病院

≡症状が軽度の人・重度の人、
様々な患者さん本人の声を聞ける場所

診断直後の患者さんに対して、何か出来ないか

患者さん本人の声から

- ・ 本人の声『地域包括支援センターって何するところ？』
⇒有田圏域の各地域包括支援センター案内チラシを集め、患者に配布
⇒【派生】現在、各市町の認知症関係イベントのチラシも
診察時に配布 ・ ポスター院内掲示
- ・ 本人の声『家の近くで、予防体操とかしたい・・・』
⇒有田市の介護予防教室のMAPを使い、医師が説明・誘導
⇒現在、各市町に介護資源MAP作成依頼
- ・ 本人の声『車の免許がなくなると困る』
⇒病院が免許返納した受診者に、地域のデマンドバス
（コミュニティバス）チケットの支援



認知症疾患医療センターでない病院でも、いろいろ出来る

③ 和歌山県 御坊市

本人の視点から始まった地域づくり ごぼう総活躍のまちづくりに向けて



和歌山県御坊市

御坊市について

- 紀伊半島海岸部のほぼ中央部
- 総面積：43.91km²
- 日高川を境に河北、中央、河南エリアに生活圏域
 河北：地元の方と移住の方が混在。
 中央：官公庁や商業施設が集中。
 河南：農業や漁業が盛ん。2世帯同居が多く残る
- 昼夜間人口比率：113%



平成29年4月1日現在

総人口	65歳以上人口	高齢化率	要介護認定者数	要介護認定率
24,106人	7,242人	30.0%	1,681人	23.2%
認知症日常生活 自立度Ⅱ以上	独居高齢者数	第6期介護保険料	日常生活圏域	地域包括支援 センター数
1,022人	2,199人	5,790円	6圏域	1（直営）

アクションミーティング実施

本人視点に立って地域を考えるためにどうすればいいか？アクションミーティングを実施。

第1回 平成29年10月24日  本人が参加！

第2回 平成30年1月9日

第3回 平成30年1月31日

市内を日常生活圏域で分けて3チームのアクションミーティングがスタート！

本人視点で医療連携を
考える

本人の声から医療連携を考える

当事者を交えたアクションミーティングから 出た医療との連携の課題

本人の声

- （大きな病院へ行くと）いつもどこへ行ったらええんかわからへん。帰りも出口わからへんから迷う。
- だんだん頭悪くなってきて先生の話が覚えられへん。
- 1人やったら頼りないから誰か一緒についてきてほしい。

**これって、1人の悩み事でなく、
とても大事なことじゃない??**

本人の声から考えたアクション

本人視点で病院に行ってみる！

受診に同行してみて、本人の視点から病院がどう見えているのか見てみる必要があるのでは？アクションミーティングに参加していた本人と家族に同行することの了解いただく。

病院にも協力をいただき、院内での本人の様子の撮影を許可。

本人視点で医療現場を確認

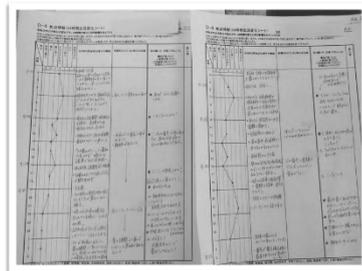
- 本人・家族の了承のうえ、受診に同行し、本人の院内での様子を確認。
- 一番不安そうな表情だったのは、診察後から総合受付で会計をして処方箋をどうするかというところ。
(同行した包括職員もわからない)



さらにアクションミーティングを重ねて
本人が通院している病院の地域医療連
携室担当者もアクションミーティング
に参加してもらう



診察室まで歩くが不安な様子



診察時の様子をセンター方式の
D4シート（24時間生活変化シート）に記録



本人視点で確認したことを共有

- 状況を病院の地域医療連携室担当者に報告。



「ご本人さんからの意見を聞く機会があまりなかったので、参考にいたします。」
院内での案内ボランティア等を検討してくれることになった。

認知症の人だけではなく、誰もが安心して
受診できる病院になればいいね！

やりたいことを
本人とともに実現し、
運転“しなくていい”生活へ

本人との関わり～本人ミーティングへ

- 民生委員から「最近、近所の男性が朝から車に乗って出かけるみたいやけど、事故とか起こしたら・・・仕事もしていないはずなのにどこへ？」
- 後日、自宅訪問するも本人不在。
- 妻「毎日、仕事に行くって車乗って出て行くんですよ。だから私も弁当作って持たせているの」

どこへ行っているのだろうか？

早朝に家を出るタイミングで会いに行こう！



車は傷だらけ・・・

運転中の視線や、ブレーキのタイミング等
どんな感じなんだろう？気になるけど・・・

※本人・家族に写真使用了承済み



本人の「仕事場」



乱雑に物が置かれている

仕事場まで行くために車が必要



**仕事場を変えれば、車は不必要？
介護認定を受けて、認知症対応型
デイサービスへ繋がられないか？**

本人との関わり～本人ミーティングへ

- 要介護認定を受けていただき、要介護1と認定。
- 認知症対応型デイサービス管理者に相談。
- 「事業所に手づくりのお地蔵さんがあるのですが、その祠を作っていただけませんか？」

**本人「ワシがみんなの役に立てるんやったら、
どこへでも行くよ！」**

自分の「居場所」 → 地域で活躍！



使い慣れた道具を持参して作業



お地蔵さんのほこら作り



デイサービス内で本人ミーティング



手づくりのお地蔵さん

スタッフの気づき → 本人の思い

●ほこら作成中に別の利用者たちが「これ完成したら“餅まき”やな」と盛り上がった。

●スタッフは聞き逃さず、包括に報告。「本人たちが餅まきやるって盛り上がってます」



それ、本人ミーティングやん！

本人ミーティングってこれだ！

●行政として

本人ミーティング実施のために、企画・運営・実施をどうするか悩んでいたが・・・

●認知症デイの様子を見て

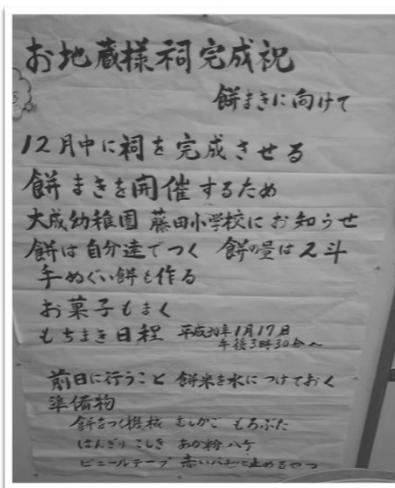
ここに毎日、本人が集まってるやん！

特別なことしなくても、ここがまさしく本人ミーティングの場になってる！

「餅まきミーティングの記録を残しておいて！」とスタッフに依頼

本人ミーティングは特別な場ではない！

ほこらが完成したら餅まきしたい！！



記録の清書は別の利用者が作成

餅まき実現のために、デイ利用者の本人たちが会議をして計画。

つきたての餅を撒きたいから、当日の朝から餅つきしよう！

杵と石臼でやる？（職員提案）

しんどいから、機械でええわ（本人たち）

本人本位！

地域密着型サービス事業所運営推進会議にて

- 事業所の地域密着型サービス運営推進会議にて、本人ミーティング実施したことを報告。
- 参加した住民から「もち米足りる？うちにあるから持ってくるよ」と協力の申し出。

本人ミーティングをきっかけに
地域とつながり、地域の人々が活躍！



介護福祉課長も駆けつけ、認知症の人たちと
ともに餅づくりに参加





多くの住民とともに完成を祝い餅まき開始



今日から「新居」に引っ越しです

民生委員の「心配」から餅まき実施まで

本人と出会い、ほこら作りが始まり、「餅まきしたいなあ」の声で、多くの方（多様な立場）との出会いがあり、様々な「活躍」が発生。

本人を中心に、
地域が繋がり始めた



「本人・本人たち」に対する
認識（見方や考え方）の変化

アクションミーティングを通じて

1人の当事者との関わりを通じてアクションミーティングを重ねることで、参加者含め、行政も本人の暮らす地域を見るようになった。

そして、本人たちを支援するという視点ではなく、よりよい暮らしとは何かを考えるようになった。

人間、一生勉強！

自分たちが認知症の方たちから教わるのがたくさんある。

しかし、本人たちも「若者から色々教わりたい」と思っている。

常に新しいことを取り入れようとしている！
だから、「ともに生きる」ことが重要である。

本人を起点として考えてみる・
取り組むことで、今後の自地
域の地域支援体制構築にどの
ように役立つと考えるか。

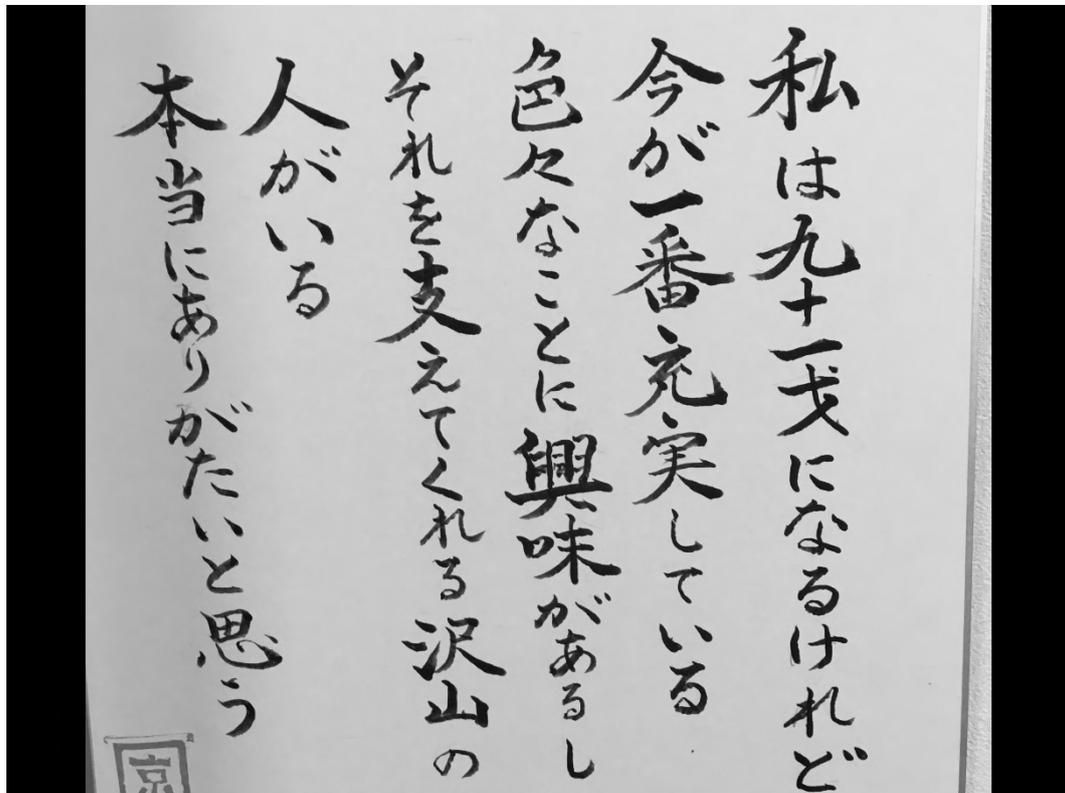
本人視点から医療現場を見て

- 認知症だから、高齢者だから、ということではなく、自分たちが大きな病院で受診する際もシステムがよくわからずに不安になることがある。
- 誰もが不安なく受診できるようにするにはどうすればいいか。「認知症の人のために」ではなく、認知症の本人とともに自分たちも一緒に考えることで、安心して医療サービスを受けることができるのではないか？

空白期間を介護サービスが埋めた？

本人と出会った当初、認知症があっても介護サービスに繋がらない、いわゆる「空白の期間」だった。（と私たちが思い込んでいた）その空白を、介護サービスが解消してくれた。

「空白の期間」を解消するためには、必ずしもインフォーマル資源を開発しないといけないことはない！ということをもとに、本人と事業所から教わった。



3) 試行地域におけるアンケート調査結果

(1) 試行地域の参加者アンケート調査結果

「地域支援体制構築プロジェクト」を試行した4地域のプロジェクト参加者を対象に、第3回アクションミーティング終了時アンケート調査を実施した。

地 域	アンケート回答数
郡山市（福島県）	40
西会津町（福島県）	19
有田圏域（和歌山県） （有田市、湯浅町、広川町、有田川町）	9
御坊市	21
その他（御坊市近隣市町）	3
全 体	92

1. 認知症の人の地域支援体制づくりやその活動を充実させていく上で、「本人の声を聴くこと」の大切さについて、あなたの意識に変化があったか。

ほぼ全員が、「本人の声を聴くこと」の大切さに、「気づいた・認識が深まった」と答えている。

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	92		59		33	
①以前はあまり意識していなかったが、その大切さに気づかされた	16	17.4%	12	20.3%	4	12.1%
②以前から大切と感じていたが、その重要性についての認識が深まった	75	81.5%	46	78.0%	29	87.9%
③以前も今も、あまり大切と感じていない。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	1.1%	1	1.7%	0	0.0%

2. 「本人ミーティング」(本人の声を聴く機会、本人同士が集まり話しをする場)は、地域支援体制づくりやその活動に役立つと思うか。

ほぼ全員が、「大いに役立つ」「役立つ」と答えている。

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	92		59		33	
①大いに役立つ	49	53.3%	26	44.1%	23	69.7%
② 役立つ	42	45.7%	32	54.2%	10	30.3%
③あまり役立たない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④役立たない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	1.1%	1	1.7%	0	0.0%

3. 「本人ミーティング」を行うことで、どのようなことに役立つと思うか
(「2」の①・②の回答者)

「周囲の人や支援者、行政職員が気づけなかった本人の思いを知ることができる」が最も多く 9 割を超える。「今ある事業や取り組みを、本人によりあったものに改善をはかれる」が 68.1%、「人が本音を表せ、意思を伝える力を高められる」、「本人にとってこれまで足りなかった新たな事業や取り組みづくりにつながる」が 6 割を超える。

複数回答	全体		福島		和歌山	
	91		58		33	
①診断直後や初期段階の本人が、仲間に出会い、早期に前向きになれる	46	50.5%	31	53.4%	15	45.5%
②本人が本音を表せ、意思を伝える力を高められる	58	63.7%	36	62.1%	22	66.7%
③本人が声を聴いてくれる支援者に早期につながる事ができる	46	50.5%	28	48.3%	18	54.5%
④本人が、本人にとって必要な支援、サービス(医療・介護・福祉)に、「空白」なく、つながるきっかけになる	54	59.3%	35	60.3%	19	57.6%
⑤周囲の人や支援者、行政職員が、気づけなかった本人の思いを知ることができる。	83	91.2%	52	89.7%	31	93.9%
⑥今ある事業や取り組みを、本人によりあったものに改善をはかれる	62	68.1%	38	65.5%	24	72.7%
⑦本人にとってこれまで足りなかった新たな事業や取り組みづくりにつながる	57	62.6%	36	62.1%	21	63.6%
⑧その他	6	6.6%	3	5.2%	3	9.1%

4. 「アクションミーティングは、地域支援体制づくりや活動に役立つと思うか。

全員が、「大いに役立つ」(47.8%)、「役立つ」(52.2%)と答えている。

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	92		59		33	
①大いに役立つ	44	47.8%	25	42.4%	19	57.6%
② 役立つ	48	52.2%	34	57.6%	14	42.4%
③あまり役立たない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④役立たない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5. 「アクションミーティング」はどのようなことに役立つと思いますか

「自分だけではできなかったことに取組めるきっかけが生まれる」が、78.3%と最も多く、「地域の多様な人たちの取組やアイデアを知ることができる」が、72.8%。「地域の多様な人たちと本人視点にたって一緒に話しあえる機会になる」(69.6%)、「地域の多様な人たちとの新たなつながりが生まれるきっかけになる」(68.5%)とつづく。

複数回答	全体		福島		和歌山	
	92		59		33	
①地域の多様な人たちとの新たなつながりが生まれるきっかけになる	63	68.5%	41	69.5%	22	66.7%
②地域の多様な人たちと本人視点にたって一緒に話しあえる機会になる	64	69.6%	42	71.2%	22	66.7%
③地域の多様な人たちの取組やアイデアを知ることができる	67	72.8%	38	64.4%	29	87.9%
④自分の考えや取組を振り返り、改善していくきっかけになる	52	56.5%	34	57.6%	18	54.5%
⑤自分だけではできなかったことに取組めるきっかけが生まれる	72	78.3%	43	72.9%	29	87.9%
⑥認知症の人の早期からの地域支援に具体的に取組むきっかけができる	44	47.8%	30	50.8%	14	42.4%
⑦その他	3	3.3%	2	3.4%	1	3.0%

6. アクションミーティングの開催の仕方への提案

<他に声をかけたい人（立場・職種等）>

福島県	郡山市	行政センターの職員（保健師等）が参加して頂けると各行政単位で動くことができるのではないのでしょうか？
福島県	郡山市	地域の独居高齢者に関わる民生委員など
福島県	郡山市	町内委員、民生委員
福島県	郡山市	居宅介護支援事業所
福島県	郡山市	医療の場のスタッフ、薬局
福島県	郡山市	クリニックの Dr（地域）
福島県	郡山市	医師
福島県	郡山市	理容室、美容室など、地域に根ざした店員さんなど
福島県	郡山市	病院、会社
福島県	郡山市	近所の方や友人、主治医など関係している医療スタッフ
福島県	郡山市	認知症に関わる方すべてに理解してもらい、協力してもらいたい。地域の人たちにも。
福島県	郡山市	銀行やコンビニ、利用者様が行ったことがある場所の方にも参加して頂ければよいと思う。
福島県	郡山市	近所の知人、友達、商店（近所の知っている）の人
福島県	郡山市	オレンジカフェを活用し、参加を促し、当人同士でお話ししてもらおう。
福島県	郡山市	地域のお店
福島県	郡山市	医療関係者、社協など
福島県	郡山市	各行政センター
福島県	郡山市	地域の開業医（Dr）
福島県	郡山市	介護職員
福島県	郡山市	居宅のケアマネジャー、地区の人、医療
福島県	郡山市	民生委員、医療機関（外来Ns）
福島県	郡山市	デイサービスの職員
福島県	郡山市	民生委員、老人会等、地域の方
福島県	郡山市	地域のカフェやレストランなどで、行政（福祉系）の方に参加して、声をきき、楽しんでいく中で、話をしたい。
福島県	郡山市	医師

福島県	郡山市	介護相談員、民生委員、老人会の人など
福島県	郡山市	町内会など、ご近所の方々
福島県	西会津町	サロンなどで顔知り同士で話をしたらよいかと思いました。
福島県	西会津町	事業所であれば、長の方
福島県	西会津町	作業療法
福島県	西会津町	民生委員さん等にも声をかけ、必要性を知ってもらおうと、こちら側からも声をかけやすくなると思う。
福島県	西会津町	地域の方々の理解も必要と思うので、民生委員の方などに声をかけてもよいのではないのでしょうか。
福島県	西会津町	区長、民生委員
福島県	西会津町	民生委員、区長、サロンの主催者
福島県	西会津町	民生委員、自治区長等
福島県	西会津町	自治区長、民生委員等、地域の人
福島県	西会津町	自治区長、民生委員
福島県	西会津町	民生委員や食改、健康運動推進員、保健指導員
福島県	西会津町	サロン支援者、主催者、民生委員
福島県	西会津町	地域の人（自治区長、民生委員、等）
和歌山県	御坊市	場合により、本人と本人を取り巻く人
和歌山県	御坊市	交通機関の方や、本人様に関わる他職種、仕事に関わらない立場の方も参加いただければ嬉しいなどと思っています。独自に気にしてくれたり、見守ってくれてたりという事が最近あったので。
和歌山県	御坊市	市職員（他の部署）
和歌山県	御坊市	看護師
和歌山県	御坊市	デイサービスの職員がヘルパーなど、生活の場合に多くかかわっている人。
和歌山県	御坊市	地域の方（住民）
和歌山県	御坊市	民生委員、区長さん、地域の子どもたち
和歌山県	御坊市	地域の人
和歌山県	御坊市	地域の民生委員
和歌山県	御坊市	社協、シルバー人材、退職したOB等（時間に余裕のある方）

和歌山県	御坊市	病院関係者（個人医院含む）
和歌山県	有田圏域	本人、ケアマネジャー、サービス事業所
和歌山県	有田圏域	デイサービス等、サービス事業所の職員、介護職、相談員
和歌山県	有田圏域	町づくり担当課（行政）、民生委員
和歌山県	有田圏域	医療や福祉に関わりがない民間の人
和歌山県	有田圏域	農業関係者
和歌山県	有田圏域	民生委員、訪問介護
和歌山県	有田圏域	当管内からもケアマネやデイの職員に参加してもらえたらいいと思う。
和歌山県	その他	社協の方、地域にいる支援者の方
和歌山県	その他	民生委員、地域住民、当事者、家族

<参加しやすく、参加して楽しい集まりになるためのアイデア>

福島県	郡山市	成功事例のつみあげ
福島県	郡山市	イベントと組み合わせる（ただし、それ一色にせず、ブースをつくり、それを楽しむ人、お話を楽しむ人と、その人ごとに楽しめるように。だからといって、スペースを区切ることせず）
福島県	郡山市	興味をひかれるような（具体的でないですが）イベントを併せて実施する。
福島県	郡山市	話し合いだけでなく、イベントを行いながらだと参加しやすいのではないか。
福島県	郡山市	興味のある方が集まれるような広報。当事者へも計画の時から参加してくれるなども必要か。
福島県	郡山市	参加のみで楽しいと思える行事
福島県	郡山市	顔なじみの人がいると参加しやすいと思うので、ミーティングの声かけをした人も一緒に参加する。
福島県	郡山市	趣味のつながり、同じ楽しいと感じれるようなもの。
福島県	郡山市	食事会、ストレッチ
福島県	郡山市	おいしいものを食べる。簡単なことでもよいので、何か作業を一緒に行ったり、歌を歌ったりすることで、自然に会話がうまれると思います。
福島県	郡山市	送迎支援。趣味の会（本人の特技を活かす、共通の趣味、楽しみ）
福島県	郡山市	地域性や本人の趣味などが同じであれば、話が盛り上がり、楽しめると思います。
福島県	郡山市	お茶やカフェ等で行ってみると、もっとくだけた話し合いができるのでは？
福島県	郡山市	共通の業務を行っている者同士

福島県	郡山市	同じ境遇・趣味等があれば、同じ目線で物事を見て、本人が自分の言いたいことを言える良いキッカケになると思います。
福島県	西会津町	色々な人たち（立場と職種別）ともっと話せる集まりができれば、もっと違う考え方も出てくるのかと思う。
福島県	西会津町	もっと興味のある方がいると思いますのでもっと同じ考えの方と集まっていたらいいと思いました。
福島県	西会津町	今回のような形で良いと思います。
福島県	西会津町	お茶会のような気軽な雰囲気。あまり多人数になりすぎない。
福島県	西会津町	お茶会議、団体ごと
福島県	西会津町	食事をしながら話しあうのもいいと思います。
和歌山県	御坊市	楽しい、ワイワイするような集まりがあればいいのかなと思います。会議っぽくない方がよいのかなと思ったり。
和歌山県	御坊市	自由なアイデア。自分だったら・・・どんな楽しいことできるかな？と考える。
和歌山県	御坊市	喫茶店のようなところで、好きな飲み物を飲みながら、リラックスして。バーベキューで。紀州鉄道で。
和歌山県	御坊市	公民館、ロマンシティー、ガスト
和歌山県	御坊市	やきいも交流会から、探索訓練につなげる
和歌山県	御坊市	皆が楽しめるゲーム性のある物がよいと思われる。
和歌山県	御坊市	月の中旬頃開催の方がケアマネは集まりやすいです。
和歌山県	有田圏域	本人参加→声から皆で企画！
和歌山県	有田圏域	型を作らず、声をすい上げれる雰囲気作りが一番だと思います。
和歌山県	有田圏域	できるできないは別として、あったらいいなを話し合う。
和歌山県	その他	座談会形式で行う（気楽に話しながら、茶話会のように）

7. 「アクションミーティング」に参加したことで、所属またはグループで取り組もうと思っているアクション

福島県	郡山市	本人が何をやりたいかきき、またこのグループで集まる
福島県	郡山市	認知症カフェの場において、本人の望みやニーズを聴くだけでなく、意識をして、把握していく。
福島県	郡山市	・外来で診断を受けた人をオレンジカフェにつなげる、聞く場をつくる ・外来で診断を受けた人を地域包括につなげていく→共通認識できたらいいな
福島県	郡山市	本人ミーティング、本人の活躍の場
福島県	郡山市	デイサービスにて、年忘れ会のビデオ上演会をご家族にもお誘いをかける。

福島県	郡山市	デイサービスにてご家族様に来て頂けるような行事を行う。その中でご本人の家族の思いをきければと思う。
福島県	郡山市	オレンジカフェの中での本人の希望のききとり
福島県	郡山市	デイサービスなど関わっている当事者の方々から声をきく（やってみたいことなど）。それをもとに本人ミーティングにむけ、具体化していく。
福島県	郡山市	3回のアクションミーティングをほぼ同じメンバーでグループ討議ができたので、このグループメンバーでぜひ「まずはやってみよう！」という気持ちで取り組みたいと思いました。
福島県	郡山市	本人の声を、ご家族を通さずに本当の気持ちを聴いてみる。
福島県	郡山市	オレンジカフェの内容を再検討し、アクションミーティングにつなげていけるか。オレンジカフェに誘う。
福島県	郡山市	利用者と一対一（少人数）で話す時間を増やして、なるべく本音を聞けるようにしてみたい。
福島県	郡山市	既存のカフェを通して、本人たちの声に耳を意識して傾けていきたい。
福島県	郡山市	4月から5月に、6グループメンバーでまずは1回でもいいから行う予定。場所：おおきホームアンダンテ。
福島県	郡山市	ビデオ上映会、チラシを配る
福島県	郡山市	認知症カフェのさらなる認知。チラシの見直し、時間設定の見直し。
福島県	郡山市	オレンジカフェで本人・家族同士で参加して、話ができるように、まずはやってみたい。
福島県	郡山市	地区のOBの方（役員の人）に集まっていたら→やってみようかという話になった。ただ、いつやろうか・・・。
福島県	郡山市	オレンジカフェをきっかけに、本人ミーティングにつなげていく。まずはオレンジカフェに誘うところから広げていく。
福島県	郡山市	所属やグループではありませんが、私の隣人が、物忘れが強くなっているので、生活に支障をきたしているところがあれば、できることをしたいです。
福島県	郡山市	まずは既存の住民の集まり場やオレンジカフェ等に積極的に顔を出して、情報収集から始めたいと思います。
福島県	郡山市	研修会で話し合ったこと、他のグループからの情報を自分の職場に持ち帰り、共有する。現在実施している自主開催のカフェから少しずつ認知症の方の思いをきいてあげられるよう、身近なところから取り組んでいきたいと思う。
福島県	郡山市	オレンジカフェに参加（介入）して、吸い上げていく。
福島県	郡山市	田舎の地域なので、畑の収穫などを通したつながりなどからはじめる
福島県	郡山市	同じ趣味や興味がある方に毎回テーマをしぼって集めていく。自然に盛り上がるのでは。
福島県	郡山市	対象者の選定。他地区の対象者の情報交換。
福島県	郡山市	ご家族や本人を楽しく会話してもらえそうな場をつくる。（イベント企画）
福島県	西会津町	俳句の会を少しずつ広めて継続させていきたい。そのためにはいろいろな人にやっていることを知ってもらおうと思う。
福島県	西会津町	現在行っている事を自分たちグループのみで考えることはむずかしいので、所属でも考えていきたい。
福島県	西会津町	地区ごとに利用者様にあつまっていただき、話し合いをしていただき、本人た

		ちの情報を話していただく。
福島県	西会津町	日々業務にて忙しくしているところもあるため、本人の声を聞くために本人が私たちに話しかけやすい雰囲気づくりから行っていきたい。
福島県	西会津町	事業所の枠を超えて、交流していきたい
福島県	西会津町	今回、試行した俳句
福島県	西会津町	ぶらサボ食堂を利用、サロンに参加できるように
福島県	西会津町	プラサボひだまり食堂とタイアップし、当事者たちが集まり楽しめる機会の情報提供をしていく。その前にもっと当事者の声を聞いていく努力をしたい。
福島県	西会津町	地域での顔をみるため、地域のサロンに参加するぶらサボとの連携
福島県	西会津町	・認サボの学習内容の追加 ・40～50歳代の知認・普及活動
福島県	西会津町	様々な地域で本人の声を聞く機会をまずは持つ
福島県	西会津町	認知症サポーター養成講座の内容を見直す。西会津のアクションミーティングで行ってきたことを伝えるのはいいことだと思ったので。
和歌山県	御坊市	以前より本人の気持ち、声をしっかりと聞き取りたいな一と思いつつ、日々関わらせて頂くよう、意識していました。本人がやりたい事、ワクワクするような事に着目しながら、やってみなければわからない！でこれからは動いていけたらな、と思います。
和歌山県	御坊市	市職員（とくに若手たち）と楽しくやってみたい。
和歌山県	御坊市	本人の声を医療機関へ伝えていく。声をその時だけのものにしない。
和歌山県	御坊市	今回、聞いたことを関係部署に伝えて、検討する機会を持ちたいと思います。
和歌山県	御坊市	認知症のご本人と障害の息子さんと暮らしている。糖尿病があるが服薬ができなくなってきた。近所の商店に買い物にいき、間食が多い。誰かの声かけ・見守りが必要になってきている。
和歌山県	御坊市	地域で認知症の人が笑顔をもって暮らしていける場所づくりをとりくむ→「スターチスサロン」
和歌山県	御坊市	特にありませんが今3グループで話し合っている同窓会の準備で必要なことがあれば協力していきたいと思います。
和歌山県	有田圏域	集いの場づくり（本人の声を参考に）。自分達で決めない！
和歌山県	有田圏域	・「旅行に行きたい」「温泉に行きたい」という思いを叶える支援 ・囲碁好きの方と、囲碁大会が少なく残念に思っている方をつなげるアクション
和歌山県	有田圏域	ケアマネの業務をこえて、地域や当事者一人ひとりを利用者ではなく、1人の同じ立場の人として接している。
和歌山県	有田圏域	他分野へのアクションを行い、福祉関係以外への理解を広げる。
和歌山県	有田圏域	各市町単位で多職種が参加したアクションミーティングも実施してみたい。
和歌山県	その他	地域のキャラバンメイトさんと何かできれば、と考えている。詳細は今後調達予定。
和歌山県	その他	今日話し合ったことを職場に持ち帰り、今後の対象者との関わりにつなげていきたい。

和歌山県	その他	まずは本人の声を拾えるよう、地域事情の把握から行う。関わりのきっかけづくりを重視する。
------	-----	---

8. 「アクションミーティング」に対する感想・意見

福島県	郡山市	皆でアイデアを出し合う大切さの共有、【読み取り不明】だと思う。
福島県	郡山市	基本的なことにきづかされました。本人の視点で何ができるか常に考えながら、疾患センター、初期集中支援チームとしても動いていきたいと思えます。
福島県	郡山市	「本人の視点に立つ」ということの大切さを改めて理解できました。本人の声を引き出すためのスキルも大切なのかと思いました。
福島県	郡山市	最初はできるかと思いましたが、声のかけられそうな方からやってみたい。
福島県	郡山市	他の介護施設の「おにぎり作り」「いも煮会」行事は参考になった。あまり構えないで、取り組む必要性を感じる。
福島県	郡山市	具体的な例をたくさん知りたいです。
福島県	郡山市	できることを考えると、前述になりますが、男性の本人の方が仲間づくりができるような場づくりができると良いなと、御坊市の映像をみて思いました。
福島県	郡山市	いろいろなアイデアが出て、とても楽しかった。やりたい、やろう、と思えるようなアクションミーティングになりました。
福島県	郡山市	また研修会を開催してほしい。アクションミーティングの理解を深めたいです。
福島県	郡山市	あまり堅苦しく考えずに、トライしてみたいと思いました。
福島県	郡山市	オレンジカフェの重要性を再認識できた。(本人が自覚していない) 自分の気持ちを表出できる場が必要。
福島県	郡山市	他グループの話より、いろいろな考えがあると思いました。
福島県	郡山市	小さいことから始めて、なるべく継続できるようがんばりたいなと思いました。
福島県	郡山市	その人本人が安心して楽しめる場所が多くなると良いと思います。本人同士が会える、働く、という場所をつくるという永田先生の話がよいなと思いました。
福島県	郡山市	開催していることをもっと市民に公表してほしい。
福島県	郡山市	「アクションミーティング」といった考え方があることを知ることができて、良かったということが素直な意見です。ありがとうございました。
福島県	郡山市	最初はどんなことなのだろう？とわからなかったが参加していく中で、実際どうしようと具体的に話せるようになった。
福島県	郡山市	最初はイメージできませんでしたが、話合いを重ねていくことで、現在取り組んでいるところからでも活動していく、やってみるということが重要であることがわかりました。
福島県	郡山市	個人より背景をみてしまうことがありますが、本人の声を聞き、それを活かすための場の場をつくることから始まっていくのだと実感しました。
福島県	郡山市	自分の視点を変え、新たな発見につながって良かったです。
福島県	郡山市	以前はあまり気にしていなかったのですが、認知症の方と話をして、さらっと流していたように思い、少し反省の気持ちと、あらためて大切な事、実感しました。
福島県	郡山市	大変勉強になりました。
福島県	郡山市	どうしても家族よりに相談を受けることがある。本人の意思を大事にしていきたい。

福島県	西会津町	地域全体に、認知症についての理解を広げていくことが必要と感じた。
福島県	西会津町	アクションミーティングに参加して、利用者さんがとても生き生きし、笑顔で取り組まれている姿をみて、少しずつ人数も増し、地域とのつながりに活かされたらいいと思いました。
福島県	西会津町	職員が思いや応じていたこと以上に、本人たちは前向きで、楽しまれ、できないと思っていた以上にできることにおどろきました。
福島県	西会津町	地域とのつながりを思うと、施設側は考えにつまりがちになるが、逆に施設を知ってもらえる機会ととらえて、行動することが大切だと思った。
福島県	西会津町	入所施設にとっては地域との関わりが少なく、アクションを起こすことも難しく感じた。
福島県	西会津町	今後業務していく中で役立てていきたいと思います。
福島県	西会津町	認知症の方の思いを聞き、その人にあった支援・アクションを起こしていくことが大切だと思った。楽しく暮らせるように支援していきたいと思う。
福島県	西会津町	グループで活動したことで役割分担や一緒に考えながら取り組みました。今回の機会がなければこのような取組みをすることもなかったと思うので、大変貴重な機会をいただけたと思います。
福島県	西会津町	その方の支援のためには、地域での様子を知ることが大切だと思った。
福島県	西会津町	本人の声をどうききだすか、技術等助言がほしい
福島県	西会津町	「聞き取り方」をどうすればよいか、「聞き取った」内容を・・・(途中?)
福島県	西会津町	自分たちが地域に出向くきっかけとなり、その方が地域で生活してきた思いを感じたり、関係性を知り、本当の顔を見れたことが、一番の社会資源だと思った。
福島県	西会津町	思っていたよりも事務量は増えましたが、やってよかったと思います。
和歌山県	御坊市	様々な意見、考え方を知ることができ、良い時間でした。みんなで話し合い、話題を共有することで大きなアイデアになり、アクションを起こすことで新たな情報、本人の思いを知ることができるので、自分としても勉強になりました。
和歌山県	御坊市	前向きにどうしていけばいいかを話し合える場は楽しくワクワク感じています。
和歌山県	御坊市	様々な職や立場の方が集まって、一人の方について考えることで、いろいろな角度から意見が出ていて、勉強になりました。本人の思いを大切に、家族の方の支援もしながら、よりよく地域で暮らせるようにはどうすればいいのか考えることが大切だと学びました。
和歌山県	御坊市	もっと気軽に、楽しくやってみたいと思います。
和歌山県	御坊市	集まって話をするのが楽しい。楽しく話をするので思いがけないアイデアが生まれるということを知りました。
和歌山県	御坊市	今回初めて参加させていただきました。本人の気持ちを大切にすることを再確認できました。
和歌山県	御坊市	大がかりなことだけでなく、ちょっとしたこと、でもアクションを起こせば、思いがけないことが起こる。検討ばかりしてはだめだ。
和歌山県	御坊市	今回、2人の事例についてチームでアクションをおこし、取り組み始めたが、チームで「本人の声」を聴きながら、暮らしやすい地域づくりを考えていくきっかけになった。
和歌山県	御坊市	本人の声をしっかりと聴き、地域で暮らしていきやすい環境や空間づくりをしていく原動力になっていく事になっていくと思います。
和歌山県	御坊市	本人の声をもとにメンバーとともに話し合っていくことによって、いろいろなアイデアが出てきて、とても勉強になりました。

和歌山県	有田圏域	本人視点、自己決定、尊厳の保持や「ひとりがりたい生き方」ができるきっかけとして必要だと思えます。
和歌山県	有田圏域	今まで意識していなかったことが本人の意志を聞いていることにつながっていることに気づいた。今後はそれを意識しながら関わるようにしていきたい。
和歌山県	有田圏域	具体的なこと等、自分の中で整理できていないことも多いですが、一緒に取り組める仲間と今後を考えていきたいと思えます。
和歌山県	有田圏域	とても振り返りを行え、気づきなど他の参加者の意見をきいて実感している。
和歌山県	有田圏域	本人視点の重要性を理解することができました。本人の声を直接聞く機会をもてたことがよかった。
和歌山県	その他	改めて本人の声の大切さを認識した。また、本人ミーティングは形にこだわらなくても開催可能であるとの気づきがあった。
和歌山県	その他	本人の声の大切さに改めて気づかされたと思えます。

(2) 試行地域の県内市町村認知症施策担当者へのアンケート調査結果

①第1回市町村合同ワークショップ 開催前アンケート調査結果

プロジェクト試行の前段階において、県内の全市町村の認知症施策担当者を対象に、認知症施策での本人視点重視の状況、および診断直から初期段階に関する市町村としての支援の現状等について調査を実施した。

<福島県>

実施期間 8月21日～9月6日 (第1回開催日:9月12日)

実施方法 県担当者を通じて、管内市町村の認知症担当部門へ調査票(電子ファイル)をメール添付にて送付、メールにて回答

対象数 59市町村

回答数 36市町村

<和歌山県>

実施期間 8月22日～9月29日 (第1回開催日:10月6日)

実施方法 同上

対象数 30市町村

回答数 30市町村

1. 認知症施策の推進には「認知症の人(以下、本人とする。)の視点」の重視が重要とされているが、貴自治体での現状はどうか。

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①自治体の認知症施策の基本方針として「本人の視点の重視」を掲げ、事業を進めている。	6	9.1%	4	11.1%	2	6.7%
②自治体の基本方針には掲げていないが、事業の実施においては「本人の視点」を重視して進めている。	15	22.7%	7	19.4%	8	26.7%
③自治体の基本方針や事業の実施において、まだ具体的には「本人の視点」を重視するに至っていないが、認知症施策の担当部署内では「本人の視点」を重視することへの共通理解が図られている。	28	42.4%	15	41.7%	13	43.3%
④認知症施策の担当部署内で、「本人の視点」を重視することへの共通理解が図られているとはいえない。	17	25.8%	10	27.8%	7	23.3%

2. 認知症の診断直後や初期段階の本人が必要としていることを把握するために、下記のような取組をしているか。

複数回答	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①認知症施策担当者が診断直後や初期段階の本人の声を直接聴く機会をつくり、本人が必要としていることの把握に努めている(今年度実施予定を含む)。	11	16.7%	7	19.4%	4	13.3%
②市町村で配置した認知症地域支援推進員が本人の声を聴き、本人が必要としていることに関する情報を、認知症施策担当者に届ける流れ(仕組み)をつくっている(今年度予定を含む)。	15	22.7%	11	30.6%	4	13.3%
③自治体が本人自身への聞き取り調査を実施し本人が必要としていることを把握している(今年度予定を含む)。	7	10.6%	3	8.3%	4	13.3%
④自治体が本人自身へのアンケート調査(聞き取り以外)を実施し、把握している(今年度予定を含む)。	2	3.0%	2	5.6%	0	0.0%
⑤その他、診断直後や初期段階の本人が必要としていることを把握する取組をしている	10	15.2%	3	8.3%	7	23.3%
⑥診断直後や初期段階の本人が必要としていることを把握する取組はしていない。	38	57.6%	21	58.3%	17	56.7%

3. 診断直後や初期段階の本人を地域で支援していくための、下記のような地域での話し合いの機会を、行政として作っているか。

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①本人が参加し、地域の多資源（行政職、専門職、住民、企業等）が、診断直後や初期段階の地域支援について一緒に話し合う機会を作っている。	1	1.5%	0	0.0%	1	3.3%
②本人は参加していないが、本人の視点の重視をしながら、診断直後や初期段階の地域支援について、地域の多資源と一緒に話し合う機会を作っている。	6	9.1%	4	11.1%	2	6.7%
③診断直後や初期段階の地域支援について、地域の多資源と一緒に話し合う機会を作っているが、本人の視点を重視した話し合いになっているとは言えない。	6	9.1%	3	8.3%	3	10.0%
④診断直後や初期段階の地域支援について多資源と一緒に話し合う機会を作っていないが、行政職と専門職、住民、企業等のいずれかが一緒に話し合う機会を作っている。	16	24.2%	7	19.4%	9	30.0%
⑤診断直後や初期段階の地域支援について地域で話し合う機会はこれまでなかったが、今後は作る予定。	28	42.4%	18	50.0%	10	33.3%
⑥診断直後や初期段階の地域支援について地域で話し合う機会はこれまでなく、今後も予定はない。	9	13.6%	4	11.1%	5	16.7%

4. 診断直後や初期段階の本人同士が、仲間と出会いお互いで話し合える場（本人ミーティング）があるか。

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①前年度までに、すでにある。	2	3.0%	0	0.0%	2	6.7%
②今年度からスタートする（予定を含む）。	4	6.1%	3	8.3%	1	3.3%
③来年度からスタート予定。	5	7.6%	4	11.1%	1	3.3%
④予定はない。	42	63.6%	16	44.4%	26	86.7%
⑤本人ミーティングについてこれまで知らなかった	13	19.7%	13	36.1%	0	0.0%

5. 診断直後や初期段階の本人向けに、本人自身に役立つ情報等をわかりやすくまとめた冊子等を本人に配布しているか。

複数回答	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①自治体（行政や地域包括支援センター等）が配布している。	14	21.2%	9	25.0%	5	16.7%
②医療機関が配布している。	5	7.6%	2	5.6%	3	10.0%
③自治体や医療機関以外が配布している	1	1.5%	0	0.0%	1	3.3%
④「本人向けの冊子等」は、特に配布していない。	42	63.6%	24	66.7%	18	60.0%
⑤わからない/把握していない。	8	12.1%	4	11.1%	4	13.3%

6. 認知症の診断直後や初期段階の本人が、地域の中で暮らしやすくなるための下記のようなつながりや支援の状況はどうか。

1) 診断直後、診断をした医師/医療機関が本人に地域で相談できる場を紹介している

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①定着してきている	6	9.1%	3	8.3%	3	10.0%
②ケース数が増加している	9	13.6%	2	5.6%	7	23.3%
③少数だがケースが見られる	17	25.8%	9	25.0%	8	26.7%
④まだほとんどない	5	7.6%	1	2.8%	4	13.3%
⑤よくわからない/把握していない	26	39.4%	19	52.8%	7	23.3%
無回答	3	4.5%	2	5.6%	1	3.3%

2) 診断直後や初期段階に、本人がじっくり話し合える専門職につながる事ができる

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①定着してきている	7	10.6%	6	16.7%	1	3.3%
②ケース数が増加している	8	12.1%	2	5.6%	6	20.0%
③少数だがケースが見られる	13	19.7%	2	5.6%	11	36.7%
④まだほとんどない	20	30.3%	14	38.9%	6	20.0%
⑤よくわからない/把握していない	15	22.7%	10	27.8%	5	16.7%
無回答	3	4.5%	2	5.6%	1	3.3%

3) 診断直後や初期段階で、本人がじっくり話し合える仲間（本人）につながるができる

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①定着してきている	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②ケース数が増加している	1	1.5%	1	2.8%	0	0.0%
③少数だがケースが見られる	2	3.0%	1	2.8%	1	3.3%
④まだほとんどない	42	63.6%	22	61.1%	20	66.7%
⑤よくわからない／把握していない	18	27.3%	10	27.8%	8	26.7%
無回答	3	4.5%	2	5.6%	1	3.3%

4) 診断直後や初期段階で、本人が地域で活動できる場につながるができる

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①定着してきている	1	1.5%	1	2.8%	0	0.0%
②ケース数が増加している	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③少数だがケースが見られる	7	10.6%	3	8.3%	4	13.3%
④まだほとんどない	36	54.5%	18	50.0%	18	60.0%
⑤よくわからない／把握していない	19	28.8%	12	33.3%	7	23.3%
無回答	3	4.5%	2	5.6%	1	3.3%

5) その他、診断直後や初期段階の本人に関する支援として注力している取組がある

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①定着してきている	2	3.0%	2	5.6%	0	0.0%
②ケース数が増加している	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③少数だがケースが見られる	4	6.1%	0	0.0%	4	13.3%
④まだほとんどない	41	62.1%	23	63.9%	18	60.0%
⑤よくわからない／把握していない	14	21.2%	7	19.4%	7	23.3%
無回答	5	7.6%	4	11.1%	1	3.3%

7. 貴自治体で、診断直後や初期段階の本人の視点を重視した支援を展開していく上で、施策担当者として今後やってみたいことはあるか。

複数回答	全体		福島		和歌山	
	66		36		30	
①行政の認知症施策担当者自身が、認知症の本人に会って話しをよく聴いてみたい。	21	31.8%	8	22.2%	13	43.3%
②認知症の本人同士が集まって話し合う機会(本人ミーティング)を開催/継続したい。	20	30.3%	9	25.0%	11	36.7%
③認知症の本人に役立つわかりやすい情報(冊子等)を本人に配りたい。	20	30.3%	14	38.9%	6	20.0%
④地域の多様な立場の人が一緒に集まって認知症の人の地域支援について話し合う機会を作りたい。	41	62.1%	26	72.2%	15	50.0%
⑤医師や医療職員が、認知症の本人視点について学ぶ機会を作りたい。	16	24.2%	5	13.9%	11	36.7%
⑥介護職員が、認知症の本人視点について学ぶ機会を作りたい。	25	37.9%	12	33.3%	13	43.3%
⑦住民が、認知症の本人視点について学ぶ機会を作りたい。	42	63.6%	25	69.4%	17	56.7%
⑧行政の認知症施策関係部署の職員が、認知症の本人視点について学ぶ機会を作りたい。	26	39.4%	12	33.3%	14	46.7%
⑨他自治体で認知症の本人視点を重視した施策を展開している好事例を知りたい	48	72.7%	25	69.4%	23	76.7%
⑩その他	2	3.0%	1	2.8%	1	3.3%

②第2回市町村合同ワークショップ開催後アンケート調査結果

プロジェクト試行の終了段階に各県で第2回市町村合同ワークショップを開催。
参加した市町村の認知症施策担当者・関係者を対象に、プロジェクト試行地域の報告を聞いての感想、および地域支援体制づくりの方策としてのアクションミーティングの開催意向等に関する調査を実施した。

<福島県>

実施日 2月22日

実施方法 ワークショップ終了後、会場にてアンケート調査。当日回収

回答数 69名

<和歌山県>

実施期間 2月16日

実施方法 同上

回答数 35名

1. 本日のワークショップに参加しての感想（該当するものすべて）

複数回答	全体		福島		和歌山	
	104		69		35	
① 診断直後や初期の人の地域支援体制作りを進めていく上で本人の声を聴く重要性を（再）認識した。	76	73.1%	54	78.3%	22	62.9%
② 地域支援体制作りは、本人と共に一緒に進めていく必要性を（再）認識した。	77	74.0%	54	78.3%	23	65.7%
③ 自地域の地域支援体制作りを本人視点で見直し・強化していく必要性を（再）認識した。	63	60.6%	42	60.9%	21	60.0%
④ 自分自身が、本人視点を重視した取り組みをより深めていく必要性を（再）認識した。	69	66.3%	43	62.3%	26	74.3%
⑤ 地域支援体制作りを、一人の人（の暮らし）を基点に進めていく必要性を（再）認識した。	51	49.0%	33	47.8%	18	51.4%
⑥ 地域支援体制作りを、より多様な人たちと一緒に進めていく必要性を（再）認識した。	73	70.2%	50	72.5%	23	65.7%
⑦ 地域支援体制作りを、より地域に根差して進めていく必要性を（再）認識した。	61	58.7%	46	66.7%	15	42.9%

2. 本日の情報や報告等を通じて、診断直後や初期段階の認知症の人の地域支援体制作りの一環として「本人ミーティング」を実施したいと思ったか。

回答数	全体		福島		和歌山	
	104		69		35	
① 次年度に実施する計画があり、「本人ミーティング」を地域支援体制作りに活かしていきたいと思った。	18	17.3%	10	14.5%	8	22.9%
② 実施計画はないが、次年度に「本人ミーティング」を実施して、地域支援体制作りに活かしていきたいと思った。	38	36.5%	27	39.1%	11	31.4%
③ 「本人ミーティング」を実施してみたいと思うが、次年度はまだ難しいと思った。	30	28.8%	22	31.9%	8	22.9%
④ 「本人ミーティング」を実施してみたいと思わなかった。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤ その他	10	9.6%	7	10.1%	3	8.6%
無回答・無効（複数回答のため）	8	7.7%	3	4.3%	5	14.3%

◇その他の例：

- ・ふだんの会話の中から本人ミーティングをおこなっていきます ・自然な集まりの場で
- ・既存の独自事業をアレンジしてできるのではないかと ・地域にあった形で 等

3. 本日の情報や報告等を通じて、診断直後や初期段階の認知症の人の地域支援体制作りの一環として「アクションミーティング」を実施したいと思ったか。

回答数	全体		福島		和歌山	
	104		69		35	
① 次年度に実施する計画があり、地域支援体制作りに着実に進めたいと思った。	17	16.3%	10	14.5%	7	20.0%
② 実施計画はないが、次年度に「アクションミーティング」を実施したいと思った。	44	42.3%	31	44.9%	13	37.1%
③ 「アクションミーティング」を実施してみたいと思うが、次年度はまだ難しいと思った。	28	26.9%	19	27.5%	9	25.7%
④ 「アクションミーティング」を実施してみたいと思わなかった。	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤ その他	7	6.7%	5	7.2%	2	5.7%
無回答・無効（複数回答のため）	8	47.1%	4	5.8%	4	11.4%

◇その他の例：

- ・アクションミーティングの前に、その土台として関係機関の、認知症というより、高齢者福祉に対する共有の場が必要だと思った。
- ・既存の独自事業をアレンジしてできるのではないかと。
- ・できることは協力したい 等。

4. アクションミーティングや本人ミーティングに関して、もっと知りたいこと

<おもな声>

- ◆ 本人ミーティングに参加している本人や家族から、本人ミーティング実施後の本人の変化やよかったことなど聞いてみたい。
- ◆ ちょっとした気づき、感じたことなど、様々な意見をもっと聞きたい（その後など）
- ◆ 困難があったことなど（本人の拒否など）
- ◆ 他地域の事例

- ◆ 本人（対象者）の把握方法をいろいろ考えている。軽度の方の情報がなかなかつかめない。（中度・重度の方は家族や地域の人から情報が入る。相談として受ける時点では、中・重度の人が多い。）
- ◆ 本人ミーティングに参加してもらえる当事者さんをどうすれば見つけれられるかが先ず課題

- ◆ アクションミーティングを行う際、この事業についてどのように説明するか（使った資料）など
- ◆ デイの事業所や社協さんなど、周辺の関係者にどのように協力してもらうか。
- ◆ 上司の巻き込み方

- ◆ 取り組みの様子や発表をきき、答えはお互いの思いの共有にあると気づいた
- ◆ 「ブレない」姿勢が何事も大切、と改めて感じた

5. 県の市町村合同のワークショップを、来年度も開催が必要だと思うか。

(回答数)	全体		福島		和歌山	
	104		69		35	
① ぜひ必要	35	33.7%	20	29.0%	15	42.9%
② 必要	59	56.7%	40	58.0%	19	54.3%
③ どちらでもない	5	4.8%	5	7.2%	0	0.0%
④ 必要でない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤ その他	2	1.9%	2	2.9%	0	0.0%
無回答・無効（複数回答のため）	3	2.9%	2	2.9%	1	2.9%

2. 「本人ガイド」および「市町村ガイド」の作成

1) 「本人ガイド」の作成

(1) 「本人ガイド」作成の目的

認知症の診断を受けた人や初期段階の人が、その後をよりより暮らしていくために役立つ本人向けのわかりやすいガイドを作成する。ガイドを通じて、(早期)診断後に本人が必要とするものにつなげられない「空白の期間」の解消を図り、初期の地域支援体制構築を推進していく。

(2) 作成の方法

- ①認知症の本人、医療・介護専門職、支援や地域づくりに取り組む関係者、11名からなる作成チームを設置し、検討委員会の提案(下記の参考資料を参照)も踏まえて、「本人ガイド」の必要性やあり方、内容、表現、活かし方等の検討を行った。
- ②①をもとに作成された試案をもとに、「本人ガイド」作成チームメンバーからの意見を収集・整理し、「本人ガイド」最終案を作成した。
- ③「本人ガイド」最終案に関して、検討委員、本人ガイド作成チームメンバー、および各自が関係している本人・家族から意見を集め、それらを反映して完成版とした。

【参考資料】第1回検討委員会で委員(本人)からの提案資料

2017年7月16日

診断直後に役立つ本人ガイドについて

日本認知症ワーキンググループ

共同代表 藤田 和子

■本人ガイドの前提として

- 診断をされても、本人は本人です。急に、自分ではなくなって、「認知症の本人」になるわけではありません。
- ただ、診断された時、本人も家族も衝撃が大きく、気持ちの整理ができない状態です。これからどうなるんだろう、と。
- 診断されたばかりの、こうした状況を医療者や関係者に、まず、もっと真剣に理解してほしいです。話をきいてもらって気持ちをうけとめてもらえれば、認知症とともに生きる希望がみえてくるのではないのでしょうか。
- ただし現実には、診断された直後に、気持ちを受け止め、生きる希望を見出せるよう出会いを得られないまま、落ち込み、具合が悪くなっていく人がとても多くいます。

- こうした状況を少しでもなくしていくために、診断直後に本人自身がこれから希望をもて、地域の中で「希望をみいだせるような出会い」につながれるような読み物/ガイドがあってほしいです。

■本人が必要としているガイドとは

- ①本人が診断を受けいれ、どのように認知症とともに生きていくか、がみえるように
 - 衝撃を和げ、前向きになれるようなものを
 - 診断をされても、本人は本人であることを、本人に気づいてもらえるものをこれからどう生きていけるか、明るい見通しがもてるものを
 - ・最初に希望をもつことで、それからの暮らしは大きく変わっていくこと（当事者体験）を伝える。
 - ・希望をもって認知症とともに暮らしている本人に出会うことも大事です。
- ②自分のこれからの暮らしに役立つ情報をわかりやすく
 - 診断を受けた後、その病院で可能な支援や情報だけでなく、自分に役立てることができる地域にあるすべての情報がほしいです。
 - ・自分たちでこうした情報を集めるのは、診断されたばかりの状態では大変です。
 - ・あらゆる情報がほしいけれど、膨大な量の役所資料を紙でもらうだけでは、理解することがむずかしいです。
 - ・一人ひとりの必要に応じて、自分まるのこれからの暮らしのために役立つ情報を、ガイドを手がかりとして、わかるように伝えてくれる人につながるしくみがほしいです。

■本人ガイドの活かし方について

- 診断された後、切れ目なく、自分にとって必要な次のステップにつながるように診断を受ける病院は、最初の入り口です。この最初の入り口（たまたま言った病院）でガイドを手にする事ができて、その人にとって必要な、情報や人や場につながるように。
- 本人が本人ガイドを活かしていけるように
 - ・自分たちにとって本当に必要な役立つ情報が得られれば、これからの生活を考え抜いていくことができる。
 - ・入口だけでなく、その後に出会う相談や様々な機会ガイドを活かして、本人がこれからを考え、必要なことにつながるように
- 本人ガイドを通じて、本人以外の様々な立場の人が、本人の思い、何を必要とし、どこにつながっていけばいいかの理解を深めるために活かしてほしい。

(3)「本人ガイド」作成過程での論点と主な意見

①なぜ、「本人ガイド」が必要か：背景と必要性

- 診断された時の衝撃の大きさ：「診断されるということ」を真剣に考える必要性
 - ・ 頭が真っ白になった。これからどうしていったらいいかわからず相当長く、落ち込みが続いた。
 - ・ 一緒に診断を聞いていた家族のことがむしろ心配で平気を装っていたが、内心はものすごいショックだった。
 - ・ 認知症かも…とは思ったが、いざ診断されてみると、世界が一変したように感じられた。
- 診断の直後、次へ進める情報が欠けている：その時期に本人が求めている情報を
 - ・ 診断されて、後は何もなかった。先のことが見えず、悪いことばかりを考えてしまった。
 - ・ 検査とか薬のことといわれても自分はどう生きていけばいいのか、肝心なことがさっぱりわからなかった。
 - ・ 診断を受けて病気の説明はうけても、認知症を受け入れられず、セカンドオピニオン、さらに次と、病院を変える人がいる。
- 本人なりに情報を探している：役立つ情報がみつからない、えられない
 - ・ 診断を受けたその足で本屋によったが、介護や病院の本ばかりで、その時に役立つ本がなかった。
 - ・ 図書館やネットで調べたが、病気や症状とか介護の話だけ。
 - ・ 不安にさせると悪いので家族にも言えない、人に言えない。自分でなんとかしなければと、いろいろ調べてみたが、家族の介護とか病院や介護施設の情報ばかり。
 - ・ 地域包括支援センターがあることがわかっていってみたいけど、介護のリストだけ渡された。
 - ・ 役所に相談に行って、まだ介護が必要でないが、といったら、もっと進んでから来て下さいと。
- 今溢れている情報は本人には絶望的：希望の持てる情報を切望している
 - ・ 見つけた情報を読めば読むほど、落ち込んだ。
 - ・ いろんな症状やどう進行して悪くなっていくかが書かれていて、自分もそんなになってしまうのかと、絶望的になった。
 - ・ 認知症になったら、もう相手にされてないか、と。本人向けのものがない、そのことがショックだった。
- 診断直後の落ち込みの深刻さ：落ち込み期間を最小にする必要性
 - ・ 診断された後、暗い毎日。辛い日々が続いた。その間に、気持ちの面でも、体調もどんどん悪くなった。
 - ・ 今は元気を取り戻した。今思えば、診断されて落ち込んでいたあの頃が最悪だった。
 - ・ 元気に過ごしている人のことを知って、それがきっかけで立ち直れた。自分はラッ

キーだったけど、落ち込んだまま悪くなっている人がたくさんいるはず。

・一人でも多くの人が、長く悩まずに自分なりの暮らし方をみつけられるように

■診断を受けようか迷い先送りにしがち：診断に行く一步を踏み出すきっかけとして

・今回は診断直後の人を対象とするが、診断に辿り着けていない人が多い。今回のガイドを通じて、診断されても大丈夫、こうやって元気にやっていけるんだ、と少し先がみえて、受診に行くなど、前に進めるように

→ガイドの最初のところで、診断を受ける前の気持ちにも触れ、「その後」の大事さを伝える

→このガイドは、そういう人にも活かしてほしいことを「市町村ガイド」の方で示していく

②どんなガイドが必要か：ガイドのあり方や内容、表現の仕方等について

【どういう方針でガイドを世に出すか：ガイドのあり方】

■同じ立場から次に続く人を応援するものを

・専門職などが解説したものでなく、本人が本人のことばで伝えるものを

■希望がもてる、それが少しでも実感できるように

・本人が診断を受けいれ、どのように認知症とともに生きていくかが、「見える」ように

■大事なメッセージを最初に強く伝える。

・診断をうけても自分は自分、そのままでもいいんだということが強く伝わるように。

・「当たり前で暮らす」ことが現実になるように

■かしこばらず、手にした人が力を抜いて、自分に立ち戻れるようなものに

【ガイドを手にする人に、何を伝えたらいいか（掲載する内容について）】

■いろいろな知識や情報が必要だが、診断を受けて動揺している人に、あれもこれも情報では本人に届かない。本人のその時の気持ちになって、その時にまず必要なことに絞って、シンプルなものに

■あれが言い、これがいいという情報に溢れている

・それらにふりまわされてしまいがち

・うまくやればいいが、そうはいかず、そういう情報でかえって落ち込むことも

・その人にとって大事なこと・必要なことはさまざま。そのことを伝える

・自分がやりたいことをやるのが大事だと伝える

■本人自身の偏見を取り払うもの

・診断を受けた当時、自分が認知症について悪いイメージしかもっていなかった。

悪いことばかり考えて、押しつぶされそうになった

■認知症になっても、できることや可能性がたくさんあること、希望を伝えたい

■夢があり、チャレンジしていける、そのことを伝えたい

- 診断後の落ち込みを体験した中から立ち直って元気にくらしている実例を
- 本人が前向きに生きている実際や姿、メッセージを
- 前向きに生きられるようになった人の「きっかけ」を教えてもらい、それを伝える
- 認知症の人一人ひとりさまざま。多様な年代、ちがう状況の人、別の地域の人の実例を
- 元気になってからの前向きなことばかりでなく、辛い現実の体験を経てきている仲間がいることを
- 仲間と出会い、話し合う大切さを伝える。本人ミーティングについても
- 本人なりの体験や暮らしてきた中での知恵や工夫を
- 自分の生き方、暮らし方、人とのつながりなど、大事な情報に自分なりに気づいて書いておくこと、伝えて話しあう大事さを。
- 医学的なことの情報も必要だが、一人ひとりの病名や状況によって、必要な情報の内容も量も大きく異なり、中途半端になる。知りたいことを気軽に聞けるつながりをつくる大切さをしっかり伝えることの方が大事。
- 地域の役立つ情報を。たくさんの情報より、まずは町には応援する人がいること、どこにつながればいいのかポイントをシンプルに
- 友人たちから、「お前を見捨てない」と言われて涙がでた。ちょっと勇気を出して身近な人に言うことの大事さ、味方になってくれる人が案外いることを。
- 今あるサービスであわないものもある、必要なサービスがなくても諦めずに、自分から提案していけることを伝える
- 本人が自らの権利を知り、それを求めることを、エンパワーするものに

【表現の工夫や伝え方で配慮すべきこと】

- 本人が語りかえるようなものに
- 数名でいいから日々の様子が分かる写真をいれ、それに具体的なメッセージをつける
- 本人が傷つくことばや表現がないように
- わかりやすいものを(専門用語とか、難しい説明、言いまわしがないように)
- 重苦しくなく、明るい感じのもの
- 本人が手にとってうれしいようなデザイン
- 冊子とかを見る気持ちの余裕がない人もいる。手にとって見たくなるもの、気軽によめるものを
- 断片的な情報でなく、一人がどう体験してきて、生きてきているか、自分のこれから先の希望や歩み方をイメージしやすくなるように、数人でいいので物語として

【関係者にも役立つものに】

- 本人と同時に、ガイドを目にした家族や、医療・介護関係者、地域の人、認知症への人への見方や関わり方とかを変えていくきっかけになるものに。
- 家族に向けた情報も必要。
 - 確かに家族向けに必要だが、それは家族向けに丁寧に作った方がいい。
 - このガイドは、あくまでも「シンプルに本人のために」「本人から本人へ」という方針で焦点を絞った方が、本人に読み進めてもらいやすく、ガイドの意義が高まるのでは。

③本人が手にしやすい、本人に渡しやすいガイドにするために

【タイトルや表紙に「認知症」をいれるかどうか】

*この点が大きな課題として議論された

- 入れない方が渡しやすい
- 明確な診断を受けてない人、受けたが受け入れられていない人にも、読んでもらいたいので入れない方がいい
- 方針や内容が、認知症以外の障がいのある人にも読んでもらい役立つモノになったと思う。行政の立場からは、いろんな人に渡せるといいので、入れない方がいい。
- 地域性によっても違う
- 抽象的なタイトルでは、関係者に共有しにくい。
- 入れないと、誰のためのものかあいまいになって、必要な人に届かない、せっかくのガイドが埋もれてしまって活かされなくなる恐れがある。
- 一目で、認知症の本人のためのもの、とわかるものが必要。
- 診断を受けて情報が欲しいと思っている人に届くように、認知症と入れた方がいい
- 最終的に、入れることに着着。入れ方の工夫をする。

認知症という言葉も入れつつ、キャッチコピーで希望が持てる、やわらげるように

*タイトルではなく、サブタイトルに入れる

タイトル：本人にとってのよりよい暮らしガイド

サブタイトル：一足先に認知症になった私たちからあなたへ

*市町村ガイドに、渡し方や配慮すべきことを記載する。

④「本人ガイド」の活かし方について

【作った「その先」を大切に】

- 配っておしまいにならないように。
- ガイドを作ることも大事だが、配り方や渡し方も大事。ガイドがこれから先、本当に活かされる流れを考え、それを広げていくことが必要。
- どこかに一律に配ればいいわけではない。市区町村の規模や地域性、現状によって、本人に届きやすいルートはそれぞれ違う。

- まずは、市区町村に「本人ガイド」を知ってもらい、各市区町村で診断後の本人にどうしたら届くか、行き届くか、それぞれが診断後の流れを考えてもらう、一つの大事なきっかけになるのでは？

→「市町村ガイド」で、本人ガイドの必要性や意義をしっかりと伝え、本人が手にできる流れを具体的に考えてもらうナビゲーションを。

【まず、本人が活かしていけるように】

- 行政や医療機関で活かしてほしいが、なによりも本人自身が、このガイドを活かしていこう、という点をしっかり打ち出さないと、本人ガイドといっても、結局は、周りから支援される人、今あるものの中でくすぶってしまうことになってしまう。
- 渡しておしまいにならないで、このガイドを見ながら、本人が活かしていけるような話し合いを。
- 本人が診断後に切れ目なく自分にとって必要なステップにつながるように、そこを一緒に考えていこう、一緒につくっていこう、という本人が自分なりに進んでいくことを主にしながら、ここから先を一緒にやっっていこうという関係が生まれるきっかけにしてほしい

【医師、医療機関が活かす】

- 医師が、診察室では聴けない本人の本音や願いに触れるために活かしてほしい。
- 診断後や診察場面で、医師がゆっくり話し合う時間がなくても、まずは本人や家族に「手渡して」ほしい。医師が手渡してくれれば、読んでみようとするだろうし、それで救われる人が沢山いるはず。
- 医師が難しくても、看護師や窓口の人でも、とにかく本人の手に渡るための現実的な人が「誰か」を、これも本人の視点にたって見つけることが大事。
- 医師や医療機関の人たちが、このガイドをもとに、理解や関わり方を改善してほしい。

【行政、地域包括支援センターで、相談役になる人が活かす】

- 本人、家族にとっては、最初の相談がその後を大きく左右する。専門職はもちろん、認

知症について経験が浅い人であっても、「本人ガイド」を本人、家族に渡すことで、最初の時点で、前向きに進む手がかりが得られるようにしてほしい。

- 地域にもよるが、相談窓口の人が、認知症の進んだ人のイメージしかなかったり、本人の声をよく聴いたことがない人も少なくない……。そういう人たちが、「このガイドのような人は、うちの地域にはいない」「渡すのは無理」としてしまわないように。

そういう地域でこそ、このガイドを求めている人がいるはず。

→「市町村ガイド」の方でも、本人の声を具体的に盛り込み、自地域での本人について考えるきっかけをつくり、一人からでも渡していくことを投げかける。

【行政の関連部署、上席の人が活かす】

- 本人が暮らしていくために、警察や交通機関、金融機関、商工など様々な領域の部署の理解や協力がいるが、今やっている講座だと周囲が困る人、支えてあげましょう、というふり発想になりがち。
- まずは、役所の関連部署の人にもこうしたガイドを目にしてもらおうと、あたりまえの、自分たちと同じ、ということを感じてもらいやすいと思う。本当の意味での理解の入り口に出きると思う。
- 自分たちも本人の身近な一人で、無関係でなく、一緒にやっていくことの必要性をピンと来てもらえると、連携や協働が具体的に進みやすくなる。
- 上司や首長に、本人の声が届いてこれが大事ってわかってもらえると、認知症施策が本当の意味で進む。初期段階の地域支援体制づくりが進むために、そういった立場の人たちにも、本人ガイドを届くといい。

【介護支援専門員や介護サービスの人たちが活かす】

- 今回の「本人ガイド」のような見方や情報に触れることがないまま、落ち込みのまま介護サービスを利用するようになった人も大勢いる。
- ガイドは初期段階の人をまずは焦点にしながらも、介護サービスの利用を考え始めている人やすでに利用している人にも、介護関係者から渡せるといい。そこからでも立ち直って力を出せる人がきつという。

【本人の家族や親戚が活かす】

- 初期の本人の変化に気づけない人、気づけても家族が認知症であることを受け入れられない家族が多く、早期の受診やその後の暮らしが進まない大きな一因。
- 暗く深刻な問題という情報ではなく、認知症になっても元気に暮らしていけるということや地域で暮らしていけることを、今回の「本人ガイド」を通じて家族に知ってもらえると、家族も変わるきっかけになると思う。
- 家族以上に、親戚の影響が大きい地域もまだある。親戚の理解が進んで本人や家族の良き応援者になってもらえるよう、相談機関などでそういう人たちにも目にしてもらえ

るようひと言あると違う。

【地域の住民、町内会、民生・児童委員等が活かす】

- 地域の人たちの影響も大きい。今回の「本人ガイド」は、誰にでも読みやすいと思うので、地域の人たちに知ってもらって、ふだんの中で活かしてほしい。
- 地域の人たちは、見守り手であると同時に、当事者になる可能性が大きい人たち。自分のこれからの備えるためにも今、元気な人に「本人ガイド」を。

【企業の人たちが活かす】

- 認知症の人にやさしい地域づくりのためには、企業の人にも加わってもらうことが不可欠。忙しい人たちでも、この本人ガイドならすぐ読めるので、企業の人にも活かしてほしい。
- まだ働いている段階で発症する人も少なくない。後手後手になってからの対応でなく、まだごく初期のうちに対応できれば、本人も周りも、安心感がずいぶん違うし、就労継続の可能性も広がる。企業が「本人ガイド」のことを知って活かせるようになると、若年性認知症の人も随分、違った経過を辿れると思う。

(4)「本人ガイド」の構成

以上の論点・意見を集約して、以下のような構成とした。

「本人にとってのよりよい暮らしガイド」の構成

総頁	ページ内容
1	表紙
2	このガイドを手にしたあなたへ／新たなスタートを、いっしょに
3	もくじ
4	一日も早く、スタートを切ろう
5	(つづき)
6	これからのよりよい日々のために
7	①イメージを変えよう！
8	(つづき)
9	②町にでて、味方や仲間と出会おう
10	③何が起きて、何が必要か、自分から話してみよう
11	④自分にとって「大切なこと」をつたえよう
12	⑤のびのびと、ゆる〜く暮らそう
13	⑥できないことは割り切ろう、できることを大事に
14	⑦やりたいことにチャレンジ！楽しい日々を
15	あなたの応援団がまちの中にいる
16	わたしの暮らし（こんな風に暮らしています）①
17	(つづき)
18	(こんな風に暮らしています) ②
19	(つづき)
20	(こんな風に暮らしています) ③
21	(つづき)
22	(こんな風に暮らしています) ④
23	(つづき)
24	わたしが大切にしたいことメモ（ガイド利用者が記入）
25	(つづき)
26	わたしのよりよい日々のためのわが町の情報（ガイド利用者が記入）
27	メッセージ
28	奥付

(5) 本人ガイドの最終版

正式名称：「本人にとってのよりよい暮らしガイド」（略称：本人ガイド）

形態（仕様）
○サイズ：210mm×210mm
○頁数：24頁
○全頁カラー印刷



表紙

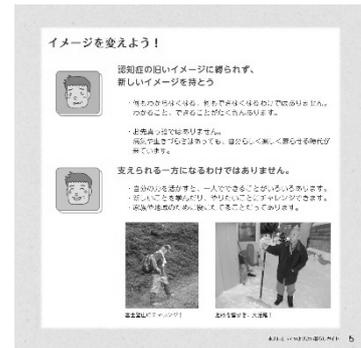
○デザイン・特徴（ページ抜粋）



本人が語りかえる文体で



「もくじ」がメッセージに



辛かった体験、そしてそこを脱出して元気に暮らしていける可能性や工夫を伝える



身近に応援してくれる様々な人がいること、つながりを作っていくことの大切さを伝える



発症してからこれまでの経過、そして、今の暮らし方や思いについての4人の物語



自分が大切にしていきたいことをメモしておくためのページ。自分の今とこれからのために

2)「市町村ガイド」の作成

(1)「市町村ガイド」作成の目的

市町村の認知症施策担当者や関係者が、「本人ガイド」の趣旨を理解しつつ、その普及や利活用を進めていくとともに、本人の視点を重視した初期からの支援体制をスムーズかつ効果的に構築していくための一連の方策をまとめた市町村向けの「認知症地域支援体制づくりガイド（以下、市町村ガイド）」を作成する。

(2) 作成の方法

- ①検討委員会、および「本人ガイド作成会議」で、「市町村ガイド」の必要性やあり方、内容、表現、活かし方等の検討を行い、意見を集約してガイドを作成した。
- ②今年度事業でこのガイド作成と同時進行で実施した「地域支援体制構築プロジェクト（第2章1）」の試行地域の取組やそこで得られた知見、実際に取組んでみた自治体担当者の意見をこのガイドに反映させた。

(3)「市町村ガイド」に関する主な論点と意見

①なぜ、「市町村ガイド」が必要か：背景と必要性

- 市町村の認知症施策担当者は、新オレンジプランで「本人視点の重視」が重要な柱とされていることをわかってはいるが、それを具体化する方策を持っていない場合も多い。
- その方策のひとつとなるのが今回の「本人ガイド」であり、「本人ガイド」のねらいや意義、活かし方をわかりやすく市町村に伝える必要がある。
- 「本人ガイド」ができたことを市町村に紹介しても、他の様々な事業や資材の一つとして埋没してしまうことが予想される。
- 「本人ガイド」を単発で出すのではなく、自治体が今やるべきこととして進めている認知症施策や特に初期段階の地域支援体制構築、地域包括ケアとの関係をわかりやすく示して、それらをうまく進めていくために「本人ガイド」が役立つことを伝える必要がある。
- 今年度の試行地域の結果からも明らかになったように、都道府県が市区町村をナビゲーションしたり、きっかけをつくることによって、市区町村が動きだしやすくなる。「本人ガイド」を直接的に活用するのは市区町村や現場だが、「市町村ガイド」を通じて、都道府県としてもこれからの方向性や何に力をいれたらいいかの理解を高め、市区町村をうまくバックアップしていくことが必要。

②どんな「市町村ガイド」が必要か：ガイドのあり方や内容、表現の仕方等について

【ガイドのあり方、方針】

- 「本人ガイド」と「市区町村ガイド」との関係性や位置づけをわかりやすく説明を

■ 方針や考え方を「本人ガイド」と共通に

* 「本人の声を大切に」

「本人が希望をもってよりよく生きる」

「本人が支えられる一方ではなく、自分の力を発揮しながら暮らす」

「地域の一員として共に楽しみ、支え合って暮らす」

「地域の多様な領域の人たちが力をわせて」 等

■ 発想や関係性を、行政主導から共創・協働へ転換を

「本人ガイド」や今年度のプロジェクトの試行を通じて、これまで行政主導で進めてきたあり方を、本人や地域の様々な人と企画段階から一緒に話し合い、一緒に考えて創り出し、力を合わせてやって行くあり方への転換が生まれていた。この点は、これからとても重要な点。「市町村ガイド」をそうした考え方に根差してつくり、市町村担当者が視野を広げて、認知症の分野から行政としての転換を起こしていけるように

■ 一般論ではなく、地元でできることとして

それらは、一般論で語られると現実とは遠い理想に聞こえ、「うちの町の現実では難しい」となりがち。今年度の試行地域やこれまで取組んできている自治体の具体を盛り込んで、「うちの町でもできるかも」というきっかけづくりを

■ 敷居を低く、一步を踏み出せるように

担当者はやることが山積みの上に、年々新たな施策や情報が増えていて、飽和状態気味。そこに「本人ガイド」や「本人ミーティング」、さらに「アクションミーティング」と言われても負担感ややらされ感が募ってしまう。ガイド全体として、平易で、自分の

市区町村でもできそう、と感じてもらえるように

【市町村ガイドを手にする人に、何を伝えたらいいか（掲載する内容について）】

■ 本人の声

本人の声の大切さを唱えても、(特に規模の大きな自治体の担当者は)実際に本人に会ったことがない、声を聴いたことがないと、本人の声を聴くのは無理と思いきこんでいる人も少なくない。

「本人ガイド」を市町村で普及を図り、その後丁寧に活かしていくためには、行政担当者に声の大切さを実感してもらうことが第一歩。ガイドには、随所に本人の声を。

■ 今やっていることと、「本人の声を聴く」とのつながりを

担当者が日々取組んでいる認知症施策や認知症地域支援体制づくりと、「本人の声」とは別ものとしてとらえてしまい、結びついていない場合も多い。

今年度の試行地域の実例を活かして、本人の声を起点とすると、おのずと様々な認知症の事業や地域支援体制づくりにつながっていく流れをわかりやすく伝える

■ 本人ミーティンとアクションミーティングとの関係性を

「本人ミーティング」と「アクションミーティング」の言葉が似ていることもあり、自治体担当者にはわかりにくく、難しい印象をもたれやすい。市町村ガイドで、その両者の意義や関係性、流れをわかりやすく

■日々の業務の延長線上で、身近にできることとして

本人の視点重視や、(特に初期段階の)地域支援体制構築というと難しく、大ごとにとらえられがち。試行地域の実際取組をもとに、大上段に構えすぎず、日々の業務の延長でできることが様々ある点を具体的に

■敷居を低く、やらされ感ではなく、おもしろさや手ごたえを

今回の試行地域での「ちょっとやってみた」という敷居の低さ、そしてやってみたら具体的につながりや大小様々な成果が生み出されて、担当者が面白くなり、やる気や自信を高めている様子がどの地域でも見られている。そうした点を具体的にガイドに盛り込んで、行政担当者が元気になって力を発揮していくきっかけになるように。

③「市町村ガイド」のネーミングをどうするか

「市町村ガイド」は、「本人ガイド」を行政がよりよく普及・活用していくことを、ひとつのねらいとしている。

そしてその「本人ガイド」は、「空白の期間の解消」「診断直後や初期の認知症地域支援体制作り」を本人の声を大切にしながら本人とともに進めてのための道具である。

これらのことを踏まえて、「市町村ガイド」の正式名称を、以下のようにすることとした。

都道府県・市町村向け

「本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド」

(3) 「市町村ガイド」の構成

以上の論点・意見をもとに、「市町村ガイド」を以下のような構成とした。

「本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド」（市町村ガイド）

総頁	ページ内容
1	表紙
2	(一人ひとりの声)
3	このガイドのねらいと活かし方
4	(写真)
5	目次
6	認知症になってからの日々をより良く暮らせるわが町に ・「旧の方針」から「新しい方針」へ切りかえよう！
8	・本人の声を起点に暮らしやすい町をつくろう ～今ある場や取組を活かしながら、地域支援体制づくりを～
10	・これからの焦点：初期の「空白の期間」の解消を ～本人の声から、“空白”の具体と解消策を見つけよう～
12	本人の声を活かして、わが町の事業や取組をパワーアップ！ ・本人ガイドを地域の中で広げよう！うまく活かそう！
16	・「本人ミーティング」をあなたの町でも！
20	これからの地域支援体制づくりを地元の本人たちとともに ・地域支援体制づくりの全体を俯瞰しよう ：活かしあえるものが豊富にある
22	・地域のひと・つながり・事業等が連動した実効性のある支援体制に
23	・地域の多様な人たちが集い、話し合い、一緒にアクションを ～「アクションミーティング」を支援体制作りのエンジンに～
24	本人の声を起点にやってみました！自分たちの町で、一步一步
25	①郡山市（福島県）
26	②西会津町（福島県）
27	③有田圏域（和歌山県）
28	④御坊市（和歌山県）
29 ～ 55	「本人にとってのよりよい暮らしガイド」 (都道府県・市町村向けコメントあり)
56	奥付

(5) 市町村ガイドの最終版

正式名称：「本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド」

(略称：市町村ガイド)

形態（仕様）
○サイズ： A4 版
○頁数： 56 頁
○全頁カラー印刷



表紙

○デザイン・特徴（ページ抜粋）

まさか自分がなるとは……。なりたくてなったわけじゃない。

おれは、これから、どう暮らしていけばいいのか……。

色々な山坂を越えてここまで来た。これからも……何とか自分でやっていきたい。

うまくは言えないけどいろいろ考えてるんだ。誰か、聴いてほしい。わかってほしい。

特別扱いしないで。一人の大人として普通につきあって。

自分がなってみてわかった。今までの常識、ずいぶん違ってよ。結構、元気で、楽しくやっていけるよ。

まだまだやりたいことがあるんだ。楽しみたい。外に出たい。誰かの役にたきたい。

これから認知症になる人に自分と同じ苦労をさせたくない。次に続く人や町の人たちに体験やいろんな工夫を伝えたい。

この町が好きなんだ。ずっとここで暮らしていきたいよ～。

一日一日がいとおいしい。今日一日がよい日になりますように。

家族が楽になってほしい。笑顔でいてほしい。

一人ひとりの声。
認知症とともに、今日も、この町で暮らしている。
あなたの町の本人の声は……。

これからの焦点：初期の「空白の期間」の解消を
～本人の声から「空白」の長さと経過型を見つけよう～

- 認知症の発生は急激な経過型が多く見られます。
- 一方、本人の希望は、「ゆっくりある程度準備が済んだらいい」という空白期間があり、家族や本人も希望します。
- 特に、失言や徘徊など起きているのが、家族や本人から気づかずに経過型を特定するまでの期間が空白の期間です。
- この期間が長すぎると、本人が家族や社会とのつながりを失い、自分自身の生活も維持することが難しくなります。しかし、本人が気づくのが遅い人では、本人の生活や不安が長くなり、家族や社会とのつながりが途切れてしまう恐れがあります。家族の役割です。
- 「空白の期間」の解消は、本人として家族、そして地域社会とのつながりを確保することです。
- その期間を短くし、家族に適切な支援を求めれば、本人が安心して本人の「声」が聞こえやすくなります。

本人が語る長い経過型の中でみると、初期の「空白の期間」の期間が長すぎる経過型

本人の生活機能

経過型

空白期間

本人が語る長い経過型の中でみると、初期の「空白の期間」の期間が長すぎる経過型

本人の生活機能

経過型

空白期間

本人が語る長い経過型の中でみると、初期の「空白の期間」の期間が長すぎる経過型

地域支援体制づくりの全体を俯瞰しよう:活かしあえるものが豊富にある

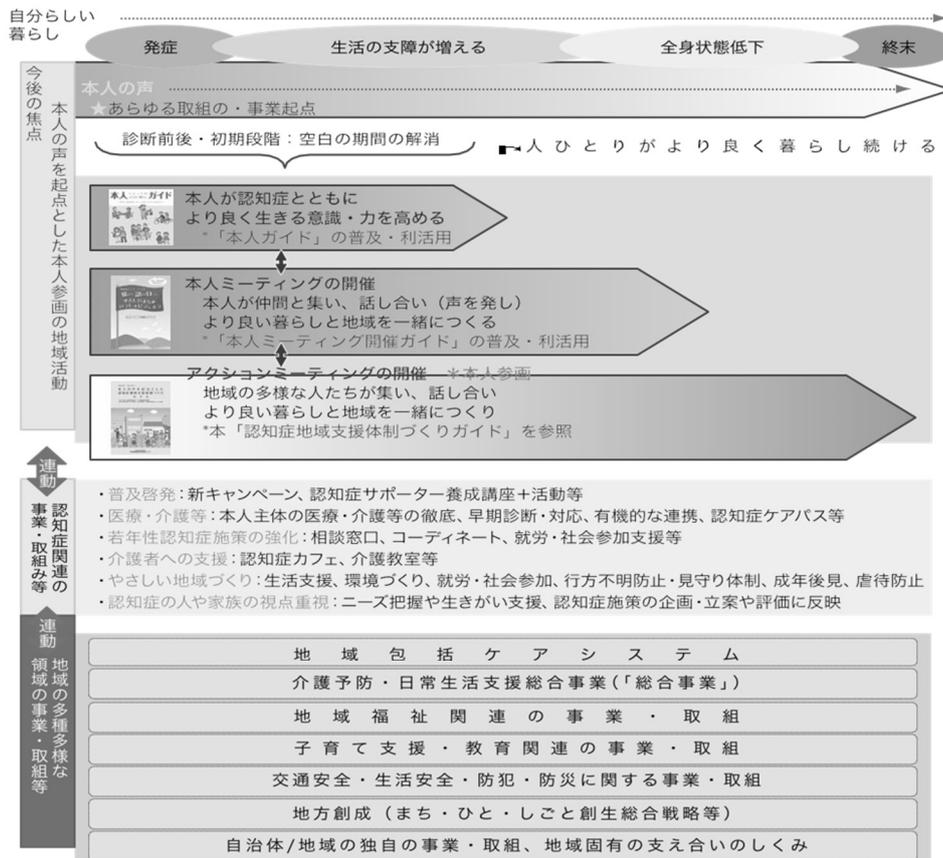
◆ 今後、何に注力して取組を進めていったらいいか、それを明確にするために関連する取組等の全体を整理してみましょう。

- * 本人の視点にたつて、発症前後から最期の時を迎えるまで本人が迎える経過を軸に。
- * 地域支援体制づくりを何のために進めるのか目的を確認しましょう。
- * 地域支援体制づくりの今後の焦点となるのが「本人の声」を起点とする本人参画の地域活動です。
 - ★ そのための方策が「本人ガイド」「本人ミーティング」そして「アクションミーティング」(19)です。
- * 本人(私たちが暮らしていくためには、多様な領域の人びととの関わり・支え合いが不可欠です。これまでの認知症関連の枠内でとどまらず、本人が暮らす視点にたつてわが町を見つめなおし、地域にすでにある多様な領域の事業・取組、地域固有にあるものを(再)発見しましょう。相互に活かしあえるものがきっと見つかります。

【参考:新オレンジプランでは「分野横断の連携」が重要とされています。】

◆ 下記は全体像の雛形です。自地域ならではの全体像を俯瞰し、今後の進め方や連携先などについて話し合ってみましょう。

目的:認知症とともにより良く生きる。そのためのやさしい地域づくり(地域支援体制づくり)



有田圏域(和歌山県)

近隣市町、病院・医師も一緒に、本人とともにつくる地域の支え合い

	有田市	湯浅町	広川町	有田川町
人口	29,250人	12,500人	7,310人	27,130人
65歳以上人口	9,264人	4,137人	2,289人	8,403人
高齢化率	31.7%	33.1%	31.3%	31.0%
要介護認定者数	1,839人	755人	429人	1,705人
認定率	19.7%	18.3%	18.4%	20.2%
地域包括支援センター	各1か所(直営)			

平成29年1月1日現在(要介護認定者数・率は平成29年3月末現在)



有田圏域合同アクションミーティングを開催

- これまでも認知症啓発イベント等で1市3町が協働してきた基盤を活かし、圏域で協力し持ち回りで、「本人が集まり、話しあう機会と場」をつくっていく方針を決める。
- 1市3町の行政、地域包括支援センター、市社協、有田市立病院の医師、県の保健所など「なぜやるか」「なにを目指すのか」を確認、共有するところからスタート。
- 市立病院に物忘れ外来ができ、認知症の方と早期に出会う仕組みはできたが、その後の受け皿がない、初期の段階から専門職が関わる機会が少ない。一人一人の方がどういった関わりを望んでいるのか、どのような地域になればいいのか、先ず、「実際に声を聴くこと」をアクションの目的とした。

先ずは、有田市で本人が集まり、話しあう場をつくる(本人ミーティング)

- 当日、本人6名、本人の友人3名、家族3名が参加。市立病院医師から病気があってもなくても、物忘れがあったとしてもどうやったら幸せに生きられるか？止の問いに、本人たちから、さまざまな声があがる。



この取り組みを通して得られたこと、今後の地域支援体制づくりに向けて役立ったこと

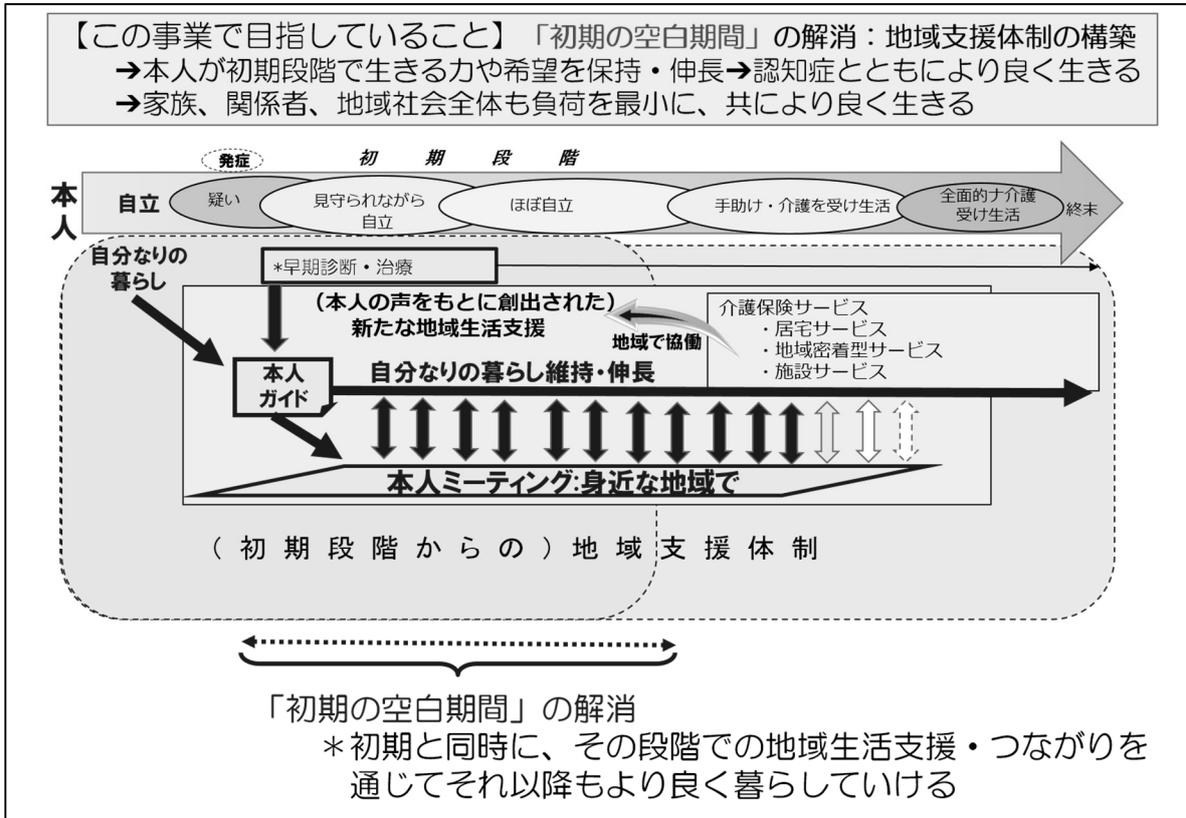
- 今までは、本人の声をこちらで想像したり、先に家族から聞いてしまっていたが、事業を計画する段階から、意識して「本人の声を聞く」ことを考えることができた。
- 病院でも「本人の声」を元に、各市町村の情報集約、提示など行っていたが、今回の取り組みをきっかけに、その大きさに改めて気づく事ができた。
- さまざまな立場(民間事業所、社会福祉協議会、病院、行政等)と一緒に本人を起点とした取り組み(本人ミーティング)を企画・実施したことで、それぞれが普段の業務に戻ってからも意識して「本人の声を聞く」ことが出来ている。
- 個々の立場で聞いた「本人の声」を、行政が集約し「地域の声」として受け止めることで自地域に必要なものを作っていく(地域支援体制構築)が出来ると考える。
- 行政主導の考え方ではなく、地域に必要な資源について具体的に見えてくると思う。
- 1地域でなく圏域として開催していく事で、多くの方の意識の変化につながり、企画段階から多機関が意見交換して関わった事で、チーム力が上がった。

3. 報告会の開催

1) プログラム

時間	内容
10:30～	開会 委員長 栗田 主一／東京都健康長寿医療センター
10:35～	ごあいさつ 厚生労働省 老健局 認知症施策推進室
10:40 ～11:15	1. 事業の背景と目的 ～本人の声を活かして暮らしやすい地域を一緒につくろう～ 委員長：栗田 主一／東京都健康長寿医療センター 委員：藤田 和子／日本認知症本人ワーキンググループ 委員：永田 久美子／認知症介護研究・研修東京センター
11:15 ～11:45	2. 事業で取組んだこと、そして何が起きたか：成果と課題をもとに各地域での展開へ 研究班：永田 久美子／認知症介護研究・研修東京センター
11:45 ～13:00	昼休み <情報交換・ネットワーキング>
13:00 ～13:45	3. 「本人の声を活かす地域づくりに取り組んだ地域からの報告」 1) 福島県 ◆郡山市 市内の全地域包括支援センターがいっしょに土台づくり、本人ミーティングを通じたアクション ◆西会津町 本人の声をもとに、介護保険の利用前からのつながりをつくる、介護事業者がアクションを起こす ◆福島県庁から
13:45 ～14:00	休憩 <情報交換・ネットワーキング>
14:00 ～14:45	2) 和歌山県 ◆有田圏域（有田市、有田川町、広川町、湯浅町、湯浅保健所） ちいさなまちでトライ！ 近隣市町、病院・医師も一緒に本人とともに つくる地域の支えあい ◆御坊市 本人の思いをもとに、本人と多分野の人たちが総活躍のまちづくり。 本人を知り、本人が望むサービスにつなげることで、「運転しない生活」に 導いたアクション ◆和歌山県庁から
14:45～	これからに向けて：本人がより良く暮らしていける地域を、共に築いていくために ～取組んでみた私たち、そして本人たちからリレーメッセージ
15:30	閉会（情報交換・ネットワーキング（～16:00ごろまで））

「本人の声を活かして暮らしやすい地域を一緒につくろう」をテーマにディスカッション



「本人の声を活かす地域づくり」に取り組んだ地域からの報告

●福島県 郡山市



●福島県 西会津町



●和歌山県 有田圏域



●和歌山県 御坊市



これからに向けて：本人がより良く暮らしていける地域を、共に築いていくために

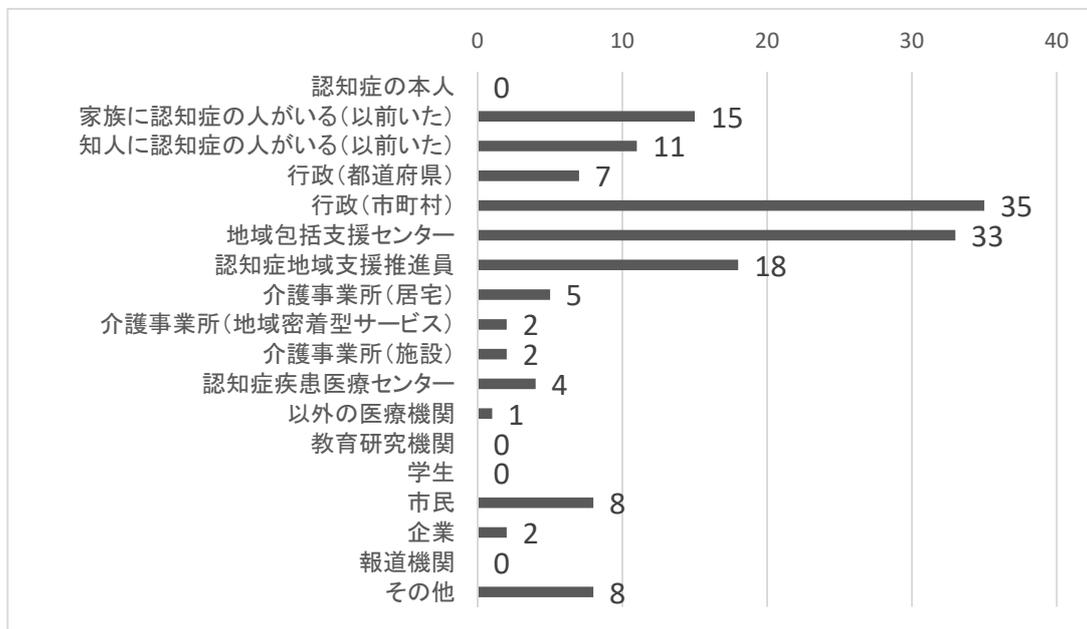


2) 参加者アンケート

当日の出席者は214名、参加者アンケートの回答数は103だった。

<回答者の立場>

(アンケート回答数 103。重複回答)



(1) 今日の報告会を通じて、参考になったことがあったか

(回答数)	103	
① おおいにあった	60	58.3%
② あった	38	36.9%
③ 特になかった	1	1.0%
無回答	4	3.9%

<寄せられた声(主ななもの)>

「とりあえずやってみよう」と思って「やる」こと。本人と一緒に、を合言葉にしたい。	地域包括 ／推進員
①小さなことからでも始めてみよう、少しずつ ②地域のつながりを見つめなおして、つながりたい	市町村
新しくつくるというより、今行っている中にすばらしいものがあるので、本人ミーティングにつながっていくことを行っていきたい。本人の役に立ちたいとも思っている。	市町村
既存の事業を、視点をかえることで、本人の声を意識し、受け取れることが報告会を通して理解できた。	市町村
特別なことを始めようというより、構えずに取り組めるのではないかと感じられた。	市町村
行政として今後どう取り組んでいけばよいのか手探りの状態でした。まずは自分関わっている本人の声をきくことから始めてみたいと思いました。	市町村

できることから、今ある資源を活用して取りくむことが大切だと感じました。	都道府県
日常、私達が関わっている行動の一つが本人ミーティングになっていると思った。	地域包括
できることからすこしずつ、という動きが、まわりもまきこみながら大きな動きにつながっていくことが改めてわかったこと	企業
本人のいない場で、本人の支援を支援者が決めることに、いつも違和感を感じていたので、本人ミーティングのスタイルはすばらしいと思った。	地域包括
自分の立場から認知症の人と「ともに考える」視点の重要性をととても感じた。	市町村
専門職としての意識もあるが、それをおいておいて、当事者とともにその視点で関わっていくことも大事であること。誰のための取組みなのか。	居宅
支援者と当事者という関係でなく、人と人とのつながりというお話があったが、今まではデイサービスの職員という支援者側の思いで動いていたと感じた。	地域密着 ／施設
支援ありきではなく、その人のよりよい暮らしを考えること	その他
空白の時間の意味が本日少しだけわかったように思いました。「本人視点」という視点もきちんと理解できていなかったことがわかりました。	市町村/ 推進員
「空白の時間」この時期にどのように支援をするか、また、本人自身が病気と向き合うことができるかで、その後人生がちがってくる。	市町村/ 地域包括 ／推進員
ご本人の声をよくきくことが原点なんだなと思いました。	推進員
ご本人の思いを話す場に果たして人が集まるのだろうか、という疑問が払しょくされた。	家族/ 地域包括/ 推進員
「本人の声をきく」先入観や自分の考え抜きで、当事者の声を本当の意味で聞いてみたいと思いました。	地域包括
具体的な取りくみを通して、大きく何かに取り組むのではなく、本人達の声をゆっくり聴く時間をつくることからスタートしたい。	市町村
本人の声を聞き出すのではなく、本人同士が出会える場をつくることだとわかった。	市町村
本人の声を聞くことの意味、聞く姿勢、気持ちの持ち方、ゆっくりじっくり重要性を専門職、地域、本人、家族みんなが理解すること。できることからやってみること。	市町村
本人ミーティングをやりたいと思っても、何をやったらいいのか、というイメージがわからなかったのがヒントになった。	都道府県
本人ミーティング、初めて聞きました。今まで悩んでいたこと、少し先が見えた。	市民/ その他
実際に行政（包括）とコラボして地域活動をおこなっているところがとても印象にのこりました。参考にして、地域が元気になるようにつなげていきたいです。	地域包括 ／推進員
既存事業（認知症カフェ）をやるだけでなく、うまく地域づくりに活かしている。	都道府県
車の運転の問題が多くなっている。医療法人の委託包括勤務中ですが、病院で送迎の話がでてくる。ぜひ実現させたいという思いが強くなりました。	家族/ 地域包括/ 推進員
初期の空白期間の過ごし方がいかに大切で、その後要介護の本人も介護者も楽になれるということ、「見守られながら自立」の後に「ほぼ自立」と思えるようになる（藤田さん）、ということに驚くと同時に、たしかにそうかもしれない、そう思えたらきっと前を向けるのだろうと感じた。	家族/ 知人/ 市民

一般市民として具体的に何かできることはないか?と思い出席しました。自分の住む地域へ自身がアクションを起こすしかないのでは?と思いました。まず市のとりくみをきいてみたいと思います。御坊市おもしろかった! 介護度を分け、認知症と認定し……。皆、ふつうの人間!本人ミーティングも普通のこと。思いやりのある、やさしい社会の構築を進めることが基本である。	知人/市民
地域づくりにおける取りくみ。何から手を付けて良いかわからない。方向性も定めにくい。住民主体といっても立ち上がるような人がいない。	地域包括

※認知症カフェでの取り組みや、本人ミーティングに取り組む参考にした、の声が多数。

(2) ご自身の立場で、「今後やってみたい」と思い浮かんだことがあったか

(回答数)	103	
① おおいにあった	45	43.7%
② あった	51	49.5%
③ 特になかった	2	1.9%
無回答	5	4.9%

<寄せられた声(おもなもの)>

目の前にいる人の話をきくところから。	地域包括/ 推進員
自法人の通所者とゆっくり話したい→どう広がるかは不明!でもやってみたい。	地域包括/ 推進員
気になっているご本人(会う事を拒んでいる)にカフェに会いにいきたいです。	推進員
これまで家族の視点でいろいろな相談をうけていたが、まずは今後、本人視点に重点をおいて支援していきたい。	家族/地域 包括/推進 員
サポーターの集いを作ったが、今後どんな活動をしていけるか悩んでいた。本人ミーティングをし、一緒に活動していければと、方向性をつかんだ感じがしている。	家族/地域 包括/推進 員
本人の話をゆっくり聞き、何がしたいか聞く。話すまで待つ。楽しい時間を一緒に過ごす。	居宅
本人の思いやその気持ちを知ることができる場にていくこと	市町村
既存の事業を通じて、本人の声を集め、認知症地域支援推進員とともに現状把握をしていきたい。	市町村
まずは認知症の人の思い、表現しきれない心の声に、しっかりと耳を傾けたい。	家族/知人 /市民
本人が気軽に立ち寄れる居場所づくりをやってみたい。	地域包括
御坊市のような本人ミーティング(特に地蔵のほこらの話)	地域包括
郡山市が実践したようなアクションミーティング	市町村
子どもから高齢者、色々な人が集まっているカフェに、認知症の人が来ている誰も見える場に認知症の人も……。それが理想のカフェ。	市町村

本人視点での取り組みを既に行っている事業所はあると思いますが、そうした取り組みを整理してまとめてこなかったのが、掘り起こしを行うとともに、広げていきたいと思いました。本人ミーティングにつなげていきたい。	市町村
もの忘れ外来や初期集中チームとタイアップしたミーティング。	市町村
既存のサービスにあてはめるのではなく、本人らしい日常をおりこんだ普通の生活を大切にしたい。	地域包括
囲碁、将棋、マージャン。一緒にやってくれる仲間と、場所をつくっていきたい。RUN伴の実行委員にご本人も誘ってみようと思います。	推進員
若年性認知症の当事者を立上げようとしているので、そこに役立てたい。	市町村／推進員
若年性認知症交流会を定期的に行っているのですが、ご本人が何をしたいかを聞いて実現させたいです。認知症に関する会議にご本人がどうすれば入ってもらえるか、考えていこうと思います。	市町村
認知症推進員が名ばかりになっているので、ぜひ今回の取り組みを紹介し、当市でもぜひ本人ミーティングを行いたいと思います。	市町村
集まる場所づくり	都道府県
県の立場で、この取組みをどのように広げていくか、少し悩むところがありますが、引き続き取り組んでいきたいと考えています。	都道府県
県の立場でできることを整理しないと、と思いました。市町村単位と都道府県単位で役割を分けたほうがいいのか、県でまずは本人ミーティングをやってみるか。	都道府県
積極的に地域へ出かけ、地域を住みやすくする役割がはたせたら、と思う。地域資源になりたい。	知人／市民
当事者と一緒に行ってよかったことの報告会。できることをみつけて背中を押していくこと。	家族／知人／ほか医療
今までは行事レクでも、4月だから花見、〇月に外食、と職員の都合を優先して決めていたレクを、本人にどこに行きたいか、聞いてから計画していこうと思う。	地域密着／施設
・認ともミーティングなど、やってみたいと思う ・認知症の方やその家族に必要な地域資源をまとめたいと思う。「とまどいの時期」。本人、家族それぞれに対応を考え、つくってきたい。	家族／その他
1. ミニデイ等に参加の認知症疑いのある方との接し方を変えることを共有する 2. 本人居住地から近くの場所での会合開催の検討	家族／その他
現在、喫茶店を経営しており、2020年で終えようと思っておりますが、その後なんらかの形でかかわっていけたら良いなと思っております。	知人／市民

※本人の声と思いに応える居場所づくりや、アクションミーティング、本人ミーティングへの関心、多数。

(3) 認知症の人の地域支援を進めていく上での「本人の声を聴くこと」の大切さについて、あなたの意識に変化があったか

	(回答数)	
	103	
①あまり意識していなかったが、その大切さに気づかされた。	15	14.6%
②以前から大切と感じていたがその重要性の認識が深まった。	84	81.6%
③あまり大切と感じていない。	0	0.0%
④その他	3	2.9%
無回答	1	1.0%

<寄せられた声>

以前からデイや地域の本人と話をすること、やりたいことを聞いて、ということをやっていたが、まさにそれが重要なのだとわかった。	家族／地域 包括
福祉の業界に入ってまもないですが、行政や関係者がこちらを向いていないと感じていたのですが、やっと当事者と向き合うようになってくれたのだとうれしく思います。	地域包括／ 推進員
本人の意見を聞くのは当たり前のことである。当事者が何を考えているのかを聞き、支援者を信頼してもらえるかが大事。	知人／その 他
認知症でも自分でできることがある（得意なこと）	市民

(4) 暮らしやすい町になるよう、認知症の人と一緒に取り組んでいることがあるか

	(回答数)	
	103	
① 日常的にある	9	8.7%
② 時々ある	13	12.6%
③ たまにはある	24	23.3%
④ 特にない	43	41.7%
無回答	14	13.6%

<寄せられた声（主なもの）>

囲碁を一緒に楽しんでいます	推進員
本人が小学校でのフォローアップ講座に参加し、紙芝居を読んだり、ロールプレイに協力してくれました。	推進員
本人会との連携	市町村／推 進員
へだたりのない関係づくり	地域包括
若年性認知症カフェ、普及啓発	市町村
アルツハイマー月間にチラシ配り	市町村
毎月1回、4か所の月いちCafé（社協主催）。徐々に認知症者とその家族の参加が固定化してきたこと。	市町村
事業としてはまだまだ少ないですが若年性認知症当事者や介護者の会があります。これからとりこんでいきたいと思っています。	市町村

地域の方（ボランティア）と一緒に夏祭りを開催しています。	地域密着／施設
歌のボランティアで時々施設に行っている。地域包括に顔を出すのも試してみたい。（何だか行きにくい。もっと気楽に出入りできる場であれば、うれしいのですが）	知人／市民
すでに私自身も 2025 年問題の対象者なのですが（今年 72 歳）、元気な高齢者が少し困っている高齢者に手を貸す仕組みを作っていたらと思います。	知人／市民
医療受診者とお話しをする、サロンへの参加	その他
【日常的にあるを選択】が、個人情報にかかるので少しむずかしいな、が実感です。	家族／市民
今はまだ目の前の家族への対応に試行錯誤中ですが地域の人と一緒に取り組むことが大切だと思った。	家族／知人／市民

※認知症サポーターや、認知症カフェの活動、も多数。

（５）感想（おもなもの）

当事者の方が笑顔で話をしてくれたこと、感動しました。私のまちでも、このような方が増えるよう職場に帰ったら伝えて、活かされればよいと思いました。	地域包括／推進員
自立→疑い→見守られながら自立→ほぼ自立、という意見がとても目からウロコでした。すごくよく理解できました。ありがとうございました。	市町村／推進員
企画を練って会議にかけて承認されて・・・という長いプロセスを整えなければならぬと思うと、結局何もできなくて・・・。今日は楽しく思いつくことを、できることから本人の思いをもとに・・・ということを感じました。	家族／地域包括／推進員
あたりまえのことなのに、注目していかないと気づかないでいるところでした。	家族／地域包括
認知症の人の個別の支援、一人一人の声に対する支援はすべてができ、すべてが成功するというのは難しいが、小さな成功の積み重ねは重要なんだと思いました。	地域包括
今まで、介護保険の利用で認知症の利用者さん＝お客様「何もさせたらいけない人」と勝手に思っていました。今回、「できることを見つける」「できることはできる」を改めて感じ、今後の仕事の取り組み方を考え直したい。ありがとうございました！！	地域包括
認知症診断後の苦悩の時期に何ができるのか、一人であれこれ悩むより、様々な視点で地域の方々に協力を仰ぎ、つながることで、潜在的なマンパワーを掘り起こしいけると感じる事ができた。	地域包括
本人不在のこわさやあやうさを知ることができました。	地域包括
誰もが生き生きとした地域づくりをしたいし、そうあれば良いなーと改めて心から思いました。自分にできる小さなことも重要だと思いました。がんばります。	市町村
特別なことではないはず。認知症の人も他の障がいをもった人にも、トランスジェンダーの人などにも、同じ人として、同じ目線で、「お互いさま」で助け合える気持ちになれるといいですね。そのためには子供のころからの教育に組み込むことが必要。	市町村
自分は認知症を診断されたけれど、がんばっていきいきしたい、と大きな声でいえる地域にしたいなあと思いました。ありがとうございました。	市町村
とても勉強になりました。地域と連携とか、生活体制整備とか言われて、ほとんど困っていましたが、結果として地域を巻き込めるといいんだと気づきました。	市町村

こうやって考えると、改めて支援ありきで、認知症の本人と取り組んでいないのだと感ずる。	市町村
介護サービス利用になるまでの空白の期間がテーマでした。空白の期間にいる人をどのように把握するかわかりませんでした。有田の報告でヒントを得られました。	市町村
大変興味深い内容でした。自分も何か一歩進んでみたいと思います。本人の思い重視で進めなくてはならないと思った。発症と就労（勤務の継続）について、企業とのすり合わせも必要か。	都道府県
本人ミーティングは、本人を集めないといけない、テーマを決めないといけない、と思っていたが、必ずしもそうではなく、できるところから、というのをきけてよかった。支援者側が改めて気づかされることも、本人ミーティングで見えてくるものの一つだと知り、その目的でやってみるのもいいかなと思いました。	都道府県
地方では人間関係がとても良いと思います。都市ではなかなか難しいこともあります。が病院、先生、地域等で一体となって楽しい時間をすごせるようがんばります。	市民／その他
認知症の人に限らず、人と人として思いをわかり合う事、わかろうとするその姿勢が大切なんだ、話したいことのある人の話すペースに合わせて、耳を傾けたり、だまって待つことを心掛けていこうと思った。家族もまた、気持ちと時間にゆとりをもてるよう、そちらのことも一緒に考えていく必要があると思いました。	家族／知人／市民
関わるスタッフの視点が、当事者の声を引き出せるか否かになることを報告を聞いて思った。「予防」を越えて「認知症になってもだいじょうぶな社会をつくろうよ」（藤田和子さん）、認知症の人本人視点をきちんと受け止めていきたい。御坊市の取り組みは一人の人にきちんと向き合い、実践の成果は大きいと思いました。	家族／知人
「認知症の人と一緒に取り組む」ことができることを知る等、気づきをたくさんいただきました。ありがとうございます。	家族／その他
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の考えによりそう—その人らしい生活とは、周りの方々と考えるプロセスが大切と考えます。 ・生き生きしている人とであい、広がっていくことを体験したい 	その他
自分もできることをやりたくなりました。ありがとうございました。	その他

第3章 考察：「空白の期間」の解消にむけて

1. アクションミーティングの有効性と展開の可能性

1) 「本人の声を起点にした」アクションミーティングの有効性

地域特性の異なる4つの試行地域において、共通スキームをもとにアクションミーティングを開催したところ、いずれの地域でも本人の声の重要性の(再)確認が高率でなされ、参加者がふだん接する人たちの声に関心を高め、耳を澄ますことを地道に行う変化が見られた。

声を本人の情報発信としてとらえて、チームメンバーと共に声の意味や本当に必要なことは何か、深く話し合う変化が起こった。

とらえた本人の声は、非常に些細な願いごとが多く、それを起点にすることで、多彩な地域のつながりやアクションが生みだされ、本人そして関係者がともに活躍したり喜びを共にする共通体験が非常に多く生まれていた。

試行に実際に参加した人たちからは、4地域ともに、アクションミーティングの有効性について非常に高い評価を得ることができた。

Q. 地域支援体制づくりや活動に役立つと思うか

おおいに役立つ	44人	47.8%
役立つ	48人	52.2%
役立たない	0人	

2) アクションミーティングの展開の可能性

こうした回答の背景として、アンケートの記載やインタビュー調査から、以下のことが考えられた。

- ① 上述した、本人そして関係者がともに活躍したり喜びを共にする共通体験
- ② 視点を変えれば日常の中ですぐにでも取組めて手ごたえがえられること
- ③ 自由度が高く個々のアイデアや個性を発揮できること
- ④ アクションミーティングを通じて自職場を活かしたり、身近な地域で本人ミーティングをやれる体験をしたこと
- ⑤ 一人ではなく取組ながらチームや他の参加者とのつながりが深まり、地域の中で普段から支え合える仲間が増えていくこと
- ⑥ 視野や地域の中での活動の場が広がること、など

アクションミーティングを通じて、参加した人達の中にこれらの多様な価値(メリット)が連鎖的に生まれており、参加者が自発的、継続的にアクションを進めていくための素地になっていた。

アクションミーティングスタートして1~2か月の間に本人の声を起点にすることで生まれた動きの例
～地元の受診直後や初期の人にとっても暮らしやすくなる～



病院で…
安心して通院できるよう、
本人とともに確認へ



地域交流カフェで…
認知症啓発イベントで協働してきた
1市3町のさまざまな立場が繋がって、
本人ミーティングを開催



通所サービスの事業所で…
俳句を長年たしなんでいた方から
の声で、俳句の会をひらく



地域密着型サービス事業所で…
芋煮会。地元の方とおにぎりをにぎり、普段
みられない表情や声があがる



認知症疾患医療センターの院内カフェで…

参加者の自発性や継続性は、本人視点にたった地域支援体制づくりが展開し、拡充して
いく上で、非常に重要な要素であると言える。

3) 本人の声を起点に生まれる多資源協働による本人のより良い暮らし

試行地域でのアクションミーティングを通じて、本人の声から見出された不安・不自由・願いごとをもとに、ふだんは一緒に動いていなかった人同士（例：病院関係者と行政・介護職、専門医と介護支援専門員、介護事業者と地域の人、等）がつながり、「ちょっと一緒に動いている」場面が多数みられていた。

その過程で、本人が一人で抱えていた不安、不自由で苦しんでいたこと、あきらめかけていたことなどが解消されている状況が各チームでみられた。

本人の声を起点にすること、ささいなことから多資源と一緒に動いてみることで、こうした非常にシンプルなことを日常的なあたりまえにしていくことが、ささいなようで、診断直後や初期段階の本人にとっては、日々やその後の安心や安定、自立につながる大事な点であり、本人にとって実際に役立つ地域支援体制づくりの一步だと考えられる。

4 地域全体でみると、参加者の立場や職種は幅広く、地域の多様な人たちがアクションミーティングを継続的に実施していくことで、診断前後から初期段階の地域支援を、本人の声を起点に具体的に生み出し拡充していける可能性が大きいことが示唆された。

2. 行政主導から地域共創・協働型への転換の重要性

試行したプロジェクトでは、県や市町は「本人視点の重視」の方針を明確に掲げながら、話し合いの場の提供等の環境づくりに回り、アクションの主体は企画段階から地域で働き暮らす人たちであった。

その関係性の中で参加者は本人の声（必要としていること）に呼応して、できることから素早く、細やかに動くことができ、それら一つひとつが「空白の期間」を埋めることにつながる取組であった。

受診直後や初期段階の支援体制を、本人にとって内実のあるものにしていくためには、地域共創・協働型のあり方を行政が積極的に進めていくことが重要と考えられる。

3. 「本人ガイド」を地域で普及・活用することの重要性

ガイド作成過程で、多数の本人から「次に続く人が同じ苦勞をしないですむように」「こうしたガイドが診断されたときにあったらどれだけ救われたか」という声が聞かれた。

「本人ガイド」を医療機関はもとより、行政や地域の多様な場を通じて地域にいる認知症診断前後の人たちの手元に行き届かせる流れを、各自治体が具体的に検討することが望まれる。「本人ガイド」を対話や地域とのつながり作りに活かすことで、初期の地域支援体制づくりの強力な道具にすることができると思える。

4. 本人が支援体制づくりに参画することの重要性

本事業では、委員会やガイド作成、プロジェクトの開始から報告会までの全過程に多数の本人が参画し、事業が「本人視点」からそれずに多種多数の関係者が結集する上で非常に重要な役を果たした。

本人も自信を高め、さらなる力を発揮していく姿が見られた。

どの地域でも支援体制づくりを進める上で、その一つ一つのステップや場面で本人参画のチャンスをつくっていくことが重要な鍵と考えられる。

今回のアクションミーティングにも第1回から本人が参加したチームがみられ、その後その本人の声から病院での受付や会計等の不安・不自由の改善につながっていった例がみられた。

今後各地でのアクションミーティングの機会に、本人に声をかけ、本人が参加する機会を増やしていくことが、地域支援体制づくりを実のあるものに変えていく大事な一歩と考えられる。

第4章 全体総括

1. 事業を通じて明らかになったこと

◆アクションミーティングの有効性

アクションミーティングは、診断直後や初期段階の本人が必要とする地域支援体制づくりを展開するための有効な方策であり、どの自治体/地域でも実行可能な方策である。

◆行政主導型から地域共創・拳動型への転換の必要性

初期段階の本人は状況やニーズの多様性に富み、実質的に支えていく体制を速やかにつくっていくためには、本人の声をにしやすい地域にいる多様な立場の人たちが自発的な企画・アクションを積み上げていくことが重要である。行政は、アクションミーティングの実施を通じて、地域の人たちとの共創・協働の関係を積極的に作っていく必要がある。

◆「本人ガイド」は地域支援体制づくりの具体的道具

「本人ガイド」を必要としている人が多く、行政はガイドが診断前後の人に行き届く流れの検討が求められる。配布しておしまいでなく、手にした人がそれをきっかけに自分自身の思いを表せる(声を聴く)場面をつくり、その声を起点に地域支援に展開していく流れを生み出していくことができると、本人ガイドが診断前後や初期段階の人にとっての見えにくい壁を解消して、暮らしやすい地域や支援体制を作っていくための重要な道具となっていくと考えられる。

◆本人参画が、内実のある地域支援体制づくりを加速させる

本人が地域支援体制づくりの様々な場面に参画でき、本人が参画することを通じて、多様な立場の人たちが方向性を一つにして

協働する重要な要になること、取組が具体化し、加速していくことが確認された。

周囲の判断で決めつけてしまうのではなく、参画のチャンスをつくっていくこと、参画を通じて

本人の声をより多様な場で聞き、活かしていくことが、内実を伴った体制づくりを加速させていくことにつながると案が得られる。

2. 提言

①都道府県は、市町村合同ワークショップの開催を

市町村がアクションミーティングを通じて、認知症の本人の声を起点とした初期段階からの支援体制づくりを進めていくことを都道府県として推進するために市町村合同ワークショップの開催が望まれる。

*取組地域が、他の地域の呼び水になる。県内外の取組地域とつながり、リレー方式で推進を。

②市町村は、アクションミーティングの継続開催を

地域には、きっかけがあれば、地域支援体制づくりに参画し内実を伴った地域支援を細やかに実施する多様な人たちがおり、アクションミーティングへの参加希望は多い。市町村は、地域の人たちと共創・協働の関係で地域支援体制づくり拡充していくためにも、幅広い人たちに呼びかけてアクションミーティングを継続開催していくことが望まれる。

③市町村は「本人ガイド」を活かして支援体制づくりを

診断前後の人に行き届く流れをつくっていくとともに、ガイドの配布だけで終わらずに、ガイドをきっかけとした対話や地域とのつながりづくり、偏見の解消などに活かしていくことが重要である。

*なお、「地元の本人の声」を関係者と共に集めて、お国言葉での地域版「本人ガイド」の作成も待たれている。

④アクションミーティング、本人ガイド、本人ミーティングの3方策を連動させ本人視点の一環体制を

本人ガイドの普及や活用、本人ミーティングの開催と地域展開等を、行政だけで考えていないで、アクションミーティングを開催して、地域の多様な立場・職種の人達と一緒に考え動き出そう。

本人視点で初期からの一環した体制をつくろう。

⑤体制づくりの企画段階から本人参画を

本人が参画するチャンスをつくり、そこでの本人の声や姿を、本人とともに支援や体制づくりに最大限活かしていこう。

いないようで、地域には行政等からの声かけで力を発揮する人がおり、一人からでも参画を。

＜地域支援体制づくりの全体観＞

目 的：認知症とともにより良く生きる。そのためのやさしい地域づくり(地域支援体制づくり)



資料編

1. 試行ツール及び調査関連シート等（共通）

1) 福島県・和歌山県全市町村アンケート（事前調査）

認知症診断直後等における認知症の人の視点を重視した支援体制構築推進のための調査研究事業

市町村アンケート（回答シート）

I. 貴自治体の概要について

設問1 貴自治体の概要についてご記入ください。

1	市町村名			
2	地方公共団体コード		参照：総務省HP： http://www.soumu.go.jp/denshiiti/code.html	
3	人口		人	平成29年7月1日現在の数値、あるいは最も直近の数値をご記入ください、
4	65歳以上人口		人	
5	高齢化率		%	
6	日常生活圏域		圏域	
7	地域包括支援センター数		か所	
8	内、直営		か所	
9	内、委託		か所	
10	認知症地域支援推進員数		人	
11	認知症施策担当部署名	※主となる担当部署名：		

II. 認知症施策における認知症の本人の視pointsの重視について

設問2 自治体としての方針・共通理解

認知症施策の推進には「認知症の人(以下、本人とする。)の視点」の重視が重要とされていますが、貴自治体での現状はいかがですか。下記の選択肢から一つ選び、「回答番号欄」にその数字をご記入ください。

- ① 自治体の認知症施策の基本方針として「本人の視点の重視」を掲げ、事業を進めている。
- ② 自治体の基本方針には掲げていないが、事業の実施においては「本人の視点」を重視して進めている。
- ③ 自治体の基本方針や事業の実施において、まだ具体的には「本人の視点」を重視するに至っていないが、認知症施策の担当部署内では「本人の視点」を重視することへの共通理解が図られている。
- ④ 認知症施策の担当部署内で、「本人の視点」を重視することへの共通理解が図られているとはいえない。
- ⑤ その他
(⑤の場合)具体的にご記入下さい。

回答番号欄

Ⅲ. 認知症の診断直後や初期段階における本人の視点にたった支援の整備について

設問3 認知症の診断直後や初期段階の本人が必要としていることの把握について

貴自治体では、認知症の診断直後や初期段階の本人が必要としていることを把握するために、下記のような取組をしていますか。下記の選択肢から該当する項目の回答欄に○を付けてください。

【複数回答】

- ① 認知症施策担当者が診断直後や初期段階の本人の声を直接聴く機会をつくり、本人が必要としていることの把握に努めている(今年度実施予定を含む)。
 - ② 市町村で配置した認知症地域支援推進員が本人の声を聴き、本人が必要としていることに関する情報を、認知症施策担当者に届ける流れ(仕組み)をつくっている(今年度実施予定を含む)。
 - ③ 自治体が本人自身への聞き取り調査を実施し本人が必要としていることを把握している(今年度実施予定を含む)。
 - ④ 自治体が本人自身へのアンケート調査(聞き取り以外)を実施し、把握している(今年度実施予定を含む)。
 - ⑤ その他、診断直後や初期段階の本人が必要としていることを把握する取組をしている
 - ⑥ 診断直後や初期段階の本人が必要としていることを把握する取組はしていない。
- (①～⑤と回答の場合)方法の概要をお知らせください。

回答欄

設問4 認知症の診断直後や初期段階の地域支援についての地域での話し合い

診断直後や初期段階の本人を地域で支援していくための、下記のような地域での話し合いの機会を、行政として作っていますか。下記の選択肢から該当する番号を1つ選び、「回答番号欄」に数字を記入してください。

- ① 本人が参加し、地域の多資源(行政職、専門職、住民、企業等)が、診断直後や初期段階の地域支援について一緒に話し合う機会を作っている。
- ② 本人は参加していないが、本人の視点を重視しながら、診断直後や初期段階の地域支援について、地域の多資源と一緒に話し合う機会を作っている。
- ③ 診断直後や初期段階の地域支援について、地域の多資源と一緒に話し合う機会を作っているが、本人の視点を重視した話し合いになっているとは言えない。
- ④ 診断直後や初期段階の地域支援について多資源と一緒に話し合う機会を作っていないが、行政職と専門職、住民、企業等のいずれかが一緒に話し合う機会を作っている。
- ⑤ 診断直後や初期段階の地域支援について地域で話し合う機会は、これまでなかったが、今後は作る予定。
- ⑥ 診断直後や初期段階の地域支援について地域で話し合う機会はこれまでなく、今後も予定はない。

回答番号欄

設問5 認知症の診断直後や初期段階の本人同士が集まり話し合う場について

診断直後や初期段階の本人同士が、仲間と出会いお互いで話し合える場(本人ミーティング)がありますか。下記の選択肢から該当する番号を選び、「回答番号欄」に数字を記入してください。

- ① 前年度までに、すでにある。
 - ② 今年度からスタートする(予定を含む)。
 - ③ 来年度からスタート予定。
 - ④ 予定はない。
 - ⑤ 本人ミーティングについてこれまで知らなかった。
- (①・②・③と回答の場合)実施主体や概要をお知らせください。

回答番号欄

設問 6 認知症の診断直後や初期段階の本人向けのわかりやすい冊子等の配布

貴自治体では、診断直後や初期段階の本人向けに、本人自身に役立つ情報等をわかりやすくまとめた冊子等を本人に配布していますか。下記の選択肢から該当する項目の回答欄に○を付けてください。

【複数回答】

- ① 自治体(行政や地域包括支援センター等)が配布している。
 - ② 医療機関が配布している。
 - ③ 自治体や医療機関以外が配布している
 - ④ 「本人向けの冊子等」は、特に配布していない。
 - ⑤ わからない/把握していない。
- (①②③と回答の場合)配布物の名称・概要等をご記入ください。

回答欄

設問 7 認知症の診断直後や初期段階の本人が暮らしやすくなるためのつながりや支援について

認知症の診断直後や初期段階の本人が、地域の中で暮らしやすくなるための下記のようなつながりや支援の状況はいかがですか？

下記の①～④の各項目について、該当する番号を一つ選んで、各解答欄に記入して下さい。

- 1. 定着してきている。 2. ケース数が増加している。 3. 少数だがケースが見られる。
- 4. まだほとんどない。 5. よくわからない/把握していない。

- ① 診断直後、診断をした医師/医療機関が本人に地域で相談できる場を紹介している。
 - ② 診断直後や初期段階に、本人がじっくり話し合える専門職につながるができる。
 - ③ 診断直後や初期段階で、本人がじっくり話し合える仲間(本人)につながるができる。
 - ④ 診断直後や初期段階で、本人が地域で活動できる場につながるができる。
 - ⑤ その他、診断直後や初期段階の本人に関する支援として注力している取組がある。
- ⑤について、具体的に記入をお願いします。

回答欄
選択肢 1～5 から 該当する番号を 選んで各欄に記入

設問 8 認知症の診断直後や初期段階の本人が暮らしやすくなるために

貴自治体で、診断直後や初期段階の本人の視点を重視した支援を展開していく上で、施策担当者として今後やってみたいことはありますか。下記の選択肢から該当する項目の回答欄に○を付けてください。

【複数回答】

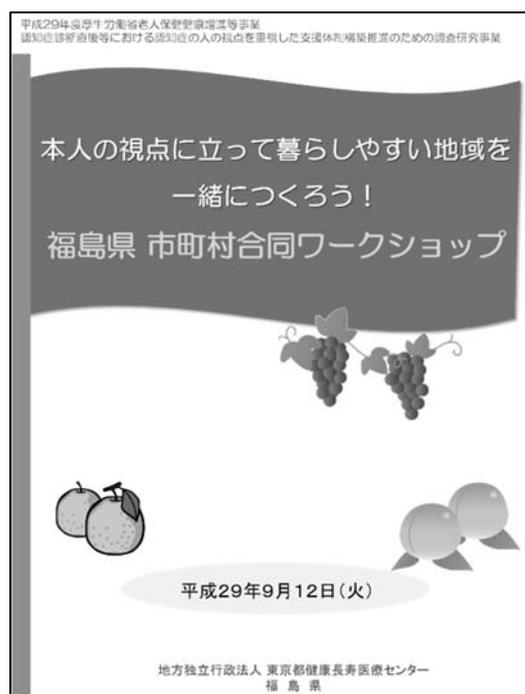
- ① 行政の認知症施策担当者自身が、認知症の本人に会って話しをよく聴いてみたい。
 - ② 認知症の本人同士が集まって話し合う機会(本人イーティング)を開催/継続したい。
 - ③ 認知症の本人に役立つわかりやすい情報(冊子等)を本人に配りたい。
 - ④ 地域の多様な立場の人が一緒に集まって認知症の人の地域支援について話し合う機会を作りたい。
 - ⑤ 医師や医療職員が、認知症の本人視点について学ぶ機会を作りたい。
 - ⑥ 介護職員が、認知症の本人視点について学ぶ機会を作りたい。
 - ⑦ 住民が、認知症の本人視点について学ぶ機会を作りたい。
 - ⑧ 行政の認知症施策関係部署の職員が、認知症の本人視点について学ぶ機会を作りたい。
 - ⑨ 他自治体で認知症の本人視点を重視した施策を展開している好事例を知りたい
 - ⑩ その他
- (⑩と回答の場合)具体的にご記入ください。

回答欄

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

2) 福島県・和歌山県市町村合同ワークショップツール

(1) 第1回ワークショップ



●プログラム (2県共通)

時間	内容
13:00~13:10	開会 あいさつ 県担当者
13:10~13:40	1. 認知症の人やその家族の視点の重視した、 支援体制づくりに取り組もう！ ～暮らしやすい地域を、楽に、楽しく、築いていくために～ 研究班
13:40~14:10	2. 実際に取り組み始めた地域の体験を参考にしよう ～本人・パートナー・行政関係者より～
14:1~14:30	休憩
14:30~15:45	3. わが市町村でできることを一緒に話し合おう:ワークシートにそつて <グループワーク> 1) 取組みや体験を聞いて参考になってことは 2) 自地域でも取り組んだみたいことは 3) 一緒に取組んでみたい人は 4) 取組むために知りたいことは 5) グループワーク発表 (全体共有)

15:45～16:15	4. あなたの町でも一緒にアクション ～本人支援体制構築プロジェクトを進めていこう～
16:15～16:30	5. まとめ：今後の展開について

●ワークシート（2県共通）

和歌山県 市町村合同ワークショップ グループワークシート（H29.10.6）



市町村名 _____ お名前 _____

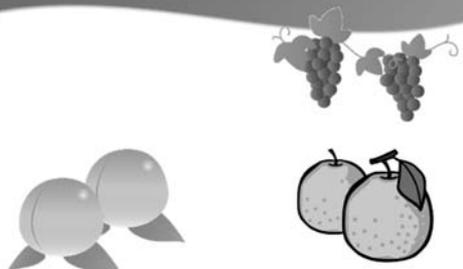
取組みや体験を聞いて参考になったこと	
自地域でも取り組んでみたいこと	一緒に取り組んでみたい人は
取り組むために知りたいこと	

●全体共有メモ

(2) 第2回ワークショップ

平成29年度厚生労働省老人保健事業推進等事業
認知症診断前後等における認知症の人の視点を重視した支援体制構築推進のための調査研究事業

本人の視点に立って暮らしやすい地域を
一緒につくろう！
第2回 福島県
市町村合同ワークショップ



平成30年2月22日(木)

東京都健康長寿医療センター
郡山市・福島県

平成29年度厚生労働省老人保健事業推進等事業
認知症診断前後等における認知症の人の視点を重視した支援体制構築推進のための調査研究事業

本人の視点に立って暮らしやすい地域を
一緒につくろう！
第2回 和歌山県
市町村合同ワークショップ



平成30年2月16日(金)

東京都健康長寿医療センター
和歌山県

●プログラム (和歌山県)

時間	内容
13:30~14:00	開会／あいさつ 和歌山県保健福祉部福祉保健政策局長寿社会課高齢者生活支援室 1. はじめに 1) 本取り組みの目的と意義 2) 本取り組みの全体的な経過
14:00~15:10 (14:00~ 14:35)	2. 取り組み地域からの報告 1) 有田圏域チームからの取り組み報告
(14:35~ 15:10)	2) 御坊市チームからの取り組み報告
15:10~15:20	休憩
15:20~16:25	3. 本人の視点に立った地域づくりにむけて 永田久美子・本人支援体制構築プロジェクト研究班* (認知症介護・研究研修東京センター研究部長) 1) 「わが町でできること、やってみたいことを話しあおう」

	(ミニ・ミーティング) 2) 今後に向けて
16:25~16:30	アンケート記入 閉会

●ワークシート（2県共通）

第2回 和歌山県 市町村合同ワークショップ グループミーティングシート

 わが町でできること・やってみたいことを話しあおう 

平成30年2月16日 市町村名 _____

有田圏域・御坊市の取組みや体験を聞いて自地域に活かしたいこと
自地域で取り組んでみたいこと
取り組むために知りたいこと

●全体共有メモ

●参加者アンケート（2県共通）

第2回**県市町村合同ワークショップ参加者アンケート

（平成30年2月**日）

市町村名 _____ 立場（行政、包括等） _____

【問1】本日のワークショップに参加しての感想として、該当するものにすべてに○をつけて下さい。

- ① 診断直後や初期の人の地域支援体制作りを進めていく上で本人の声を聴く重要性を（再）認識した。
- ② 地域支援体制作りは、本人と共に一緒に進めていく必要性を（再）認識した。
- ③ 自地域の地域支援体制作りを本人視点で見直し・強化していく必要性を（再）認識した。
- ④ 自分自身が、本人視点を重視した取り組みをより深めていく必要性を（再）認識した。
- ⑤ 地域支援体制作りを、一人の人（の暮らし）を基点に進めていく必要性を（再）認識した。
- ⑥ 地域支援体制作りを、より多様な人たちと一緒に進めていく必要性を（再）認識した。
- ⑦ 地域支援体制作りを、より地域に根差して進めていく必要性を（再）認識した。

【問2】本日の情報や報告等を通じて、貴自治体で、診断直後や初期段階の認知症の人の地域支援体制作りの一環として「本人ミーティング」を実施したいと思いましたが。

- ① 次年度に実施する計画があり、「本人ミーティング」を地域支援体制作りを活かしていきたいと思った。
- ② 実施計画はないが、次年度に「本人ミーティング」を実施して、地域支援体制作りを活かしていきたいと思った。
- ③ 「本人ミーティング」を実施してみたいと思うが、次年度はまだ難しいと思った。
- ④ 「本人ミーティング」を実施してみたいと思わなかった。
- ⑤ その他（具体的に _____）

【問3】本日の情報や報告等を通じて、貴自治体で、診断直後や初期段階の認知症の人の地域支援体制作りの一環として「アクション・ミーティング」を実施したいと思いましたが。

- ① 次年度に実施する計画があり、地域支援体制作りに着実に進めたいと思った。
- ② 実施計画はないが、次年度に「アクション・ミーティング」を実施したいと思った。
- ③ 「アクション・ミーティング」を実施してみたいと思うが、次年度はまだ難しいと思った。
- ④ 「アクション・ミーティング」を実施してみたいと思わなかった。
- ⑤ その他（具体的に _____）

【問4】アクション・ミーティングや本人ミーティングに関して、もっと知りたいと思ったことがありましたら、具体的にお書き下さい。（記述）

[_____]

【問5】本日のような県の市町村合同のワークショップを、来年度も開催が必要だと思いますか。

- ① ぜひ必要 ② 必要 ③ どちらでもない ④ 必要でない ⑤ その他

ご協力ありがとうございました

3) 試行4地域アクション・ミーティング資料等
＜第1回アクション・ミーティング：配布資料＞



御坊市・広川町
第1回本人支援体制づくり
アクション・ミーティング

平成29年10月24日

御坊市・広川町・和歌山県
東京都健康長寿医療センター

本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

目的

認知症の一人ひとり（本人）が、よりよく暮らしていけるように、
わがまちで取組めそうな活動（アクション）を、一緒に話しあおう。
動き出そう。

◆ これからやることは、とってもシンプル！

- ①本人が望むことを一つからでも：本人視点で、小さなことから
- ②一人ではなく、一緒に：みんなで楽しく、力をあわせて
- ③考えて(悩んで)ばかりいないで、ちょっとやってみよう

本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

意義

①

本人が望むことを一つからでも：
本人視点で、小さなことからアクション

⇒ 本人が望む、いいひと時を過ごせると、本人が想像以上に
生き生き暮らせる（底力を発揮、自信回復、安定 等）

⇒ 家族や地域の人、専門職の意識が前向きに変わる



本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

意義

②

一人ではなく、一緒に：
みんなで楽しく、力をあわせて

⇒ 仲間が増える：仕事でも、ふだんの暮らしでも

⇒ 楽になる、心強い、一人ではできないことをやれる

⇒ 中身のある連携支援(地域包括ケアシステムに



本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

意義

③

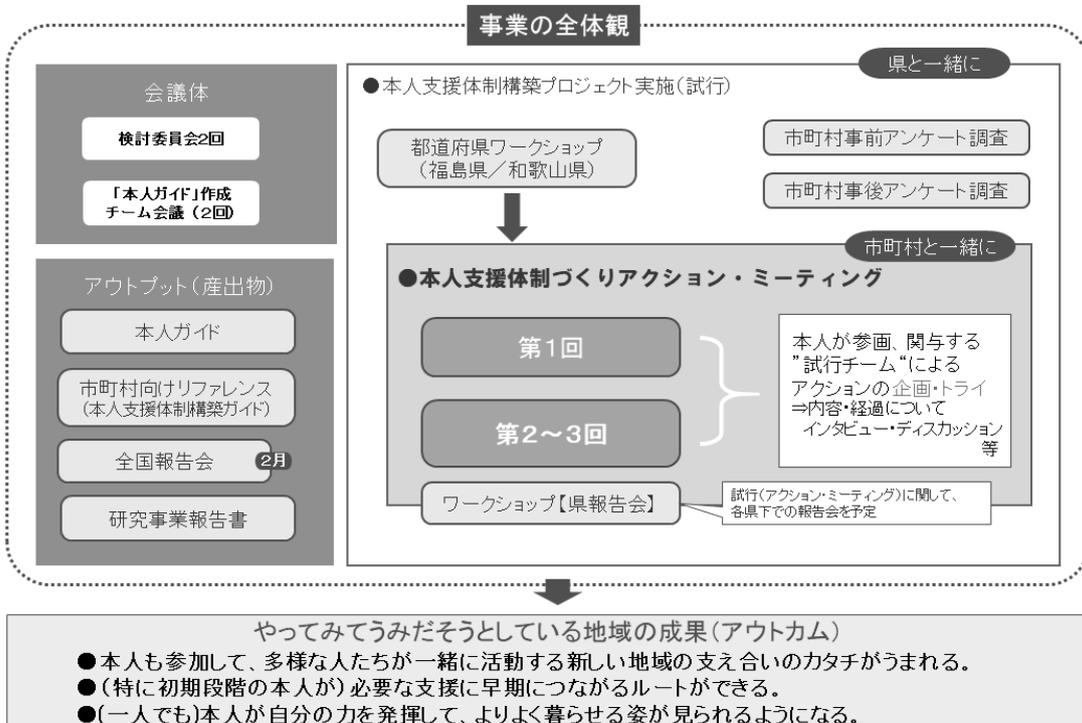
考えて(悩んで)ばかりいないで、
ちょっと、やってみよう

⇒ やってみることで、新たな発見・つながり・手がかりが見つかる

⇒ みんなで(小さな) 成功体験、・自発的な取組が広がる



今回の取組の全体を知り、位置づけの確認を。



「アクション・ミーティング」をはじめよう！



1

わがまちに住む人が認知症になった時、相談できる場所はどこだろう？
(どんな人に相談している？ どんな時(機会)に相談している？)

2

自分たちのチームに加わってくれる「本人や家族」へ、
どうアプローチすれば…



※すべての立場が揃わなくても、OK
※複数の本人に、“かけもち”でもOK

3

本人に聴いてみよう！：
アクション・プランを話しあってみよう

●この人(本人)に聴いてみたいこと



●どうやって聴く？

※聴いて、わかったことをもとに、
アクション(なんでも)を始めてみよう！

「アクション」のポイント

1. 本人の声に耳を澄まそう：アクションの種がいっぱい！

* 本人が何を望んでいるか

⇒本人が求めているちょっとした支援、(ささやかな) 願い・希望を
ちょっと一緒にかなえるアクションをやってみよう！

* 本人と一緒に考え、一緒に動いてみよう：本人が力を発揮

2. 本人同士が集まり話し合う機会を作ってみよう

◆ 本人が話し合う「本人ミーティング」

* 数人からでも ⇒本人同士で話し合えると本音が出せる、仲間ができる
家族に言えない思い、専門家には語れない…
⇒ 分かり合える仲間ができる

* できるだけ早い段階で、本人同士の仲間ができると、初期の落ち込み、ダメージを小さくできる

* 本人同士の話し合いの声の中に、地域の医療・介護に必要なことがでてくる ⇒ アクションへ

これ自体が
大事なアクション

3. 素朴に「あるといいなあ」「やってみたいなあ」：

* チームのメンバーで、アイデアを出し合ってみよう

4. 小さな「できそうなこと」を見つけて、ちょっと一緒に動いてみよう

<第1回アクション・ミーティング：ワークシート>

本人支援の体制づくりのための
御坊市・広川町アクション・ミーティング
第1回：平成29年10月24日（火）

チームメンバー（名前と立場所属）

1 わがまちに住む人が認知症になった時、相談できるところはどこだろう？
(どんな人に相談している？、どんな時（機会）に相談している？)



2 自分たちのチームに加わっている「本人や家族」へ、どうアプローチすれば...



3 本人に聞いてみよう1：アクションプランを話しあってみよう

- どのことを聞いてみたいか。誰なら話してくれそうか。
- どのすれば、話しを聞かせるか（機会や場）。
- 聞いたことを日々の支援や支援体制に活かすイメージ（こんなふうにできたらいいのでは...等）
- チームに加わってほしい人



<第2回アクション・ミーティング：配布資料>



御坊市・広川町
第2回本人支援体制づくり
アクション・ミーティング

～本人の声を活かす地域支援・地域づくりにむけて～

平成30年1月9日

御坊市・有田圏域市町・和歌山県
東京都健康長寿医療センター

本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

目的(再確認)

認知症の一人ひとり（本人）が、よりよく暮らしていけるように、
わがまちで取組めそうな活動（アクション）を、一緒に話しあおう。
動き出そう。

- ①本人が望むことを一つからでも：本人視点で、小さなことから
- ②一人ではなく、一緒に：みんなで楽しく、力をあわせて
- ③考えて(悩んで)ばかりいないで、ちょっとやってみよう

これまでの取り組み状況

御坊チームの取り組み

有田圏域チームの取り組み

話し合ったことを報告しよう！



<第2回アクション・ミーティング：ワークシート>

御坊市・有田圏域
第2回アクション・ミーティング
ワークシート
第2回：平成30年1月9日（火）

チームメンバー（名前と立場・所属）

グループ番号	
--------	--

第1回のアクション・ミーティングの話しあいをふまえて（引き続いて）

4 本人の言や思いを、本人の意見に具体的に活かすためには、
周囲のどんな関わりが求められるのか、話しあってみよう。



どのような機会や場所で、本人の言や思いを聞くことができたか（できると思えるか）。



5 本人の言や思いを、本人の意見に活かすための、具体的なアクションプランをつくらせよう。
（すでにある取り組みを組み合わせていくためのアクションプランも）

本人にとって必要な関わりや、サービスの利用につながる「空白」は、どのような時期や状況の時だと思えるか。

<第3回アクション・ミーティング：配布資料>



第3回市町村合同 アクション・ミーティング

～本人の声を活かす地域支援・地域づくりにむけて～

平成30年1月31日

御坊市・和歌山県
東京都健康長寿医療センター

本人支援体制づくり「アクション・ミーティング」とは

目的

認知症の一人ひとり（本人）が、よりよく暮らしていけるように、
わがまちで取組めそうな活動（アクション）を、一緒に話しあおう。
動き出そう。

- ①本人が望むことを一つからでも：本人視点で、小さなことから
- ②一人ではなく、一緒に：みんなで楽しく、力をあわせて
- ③考えて(悩んで)ばかりいないで、ちょっとやってみよう

これまでのアクション・ミーティングを振り返ってみよう！

第2回アクション・ミーティングからの取り組み

1) 有田圏域のこれまでの取り組み経過

2) 御坊市(日高圏域)のこれまでの取り組み経過

第3回 アクション・ミーティング



「本人の声を聴く」取り組みを行ってみたことで、わかったこと

* 先を焦らず。

ここまでの中で、すでにたくさん「わかったこと」がある。

* よりよい今後にしていくための大事な種

* まずは「こんなことがわかった！」を、確認しあおう。共有しよう。

「本人の声を聴く取り組み」を行っていく上で、課題と感じたこと

* 同時に、ふだんの関わりや支援、地域について、

「こんな点が課題だなあ」と感じたことを、具体的に話しあおう。

第3回 アクション・ミーティング



「本人の声」をどのような場面や機会に活かしていきたいか

*** 聞くことができた「本人の声」を、大切に活かしていこう！**

自分達の
中だけに
しまいこまずに

医療・介護の改善

+ 地域支援・地域づくり

← 今回の焦点

* 聞いた声を活かして

- ・地域のこんな場面にこんな風にかせたらいいなあ。
- ・ちょっとこんなことを一緒にやれたらいいなあ。

具体的には・・・：誰と一緒に、どのように

地域支援や地域づくりに活かしていくためのアイデアや工夫

* ちょっとしたことでもいい。自由な発想で。

* 地域の様々な専門職・住民、すでにある活動を活かそう。

★ 実際の企画・実施を、本人に聴いて、一緒にやってみよう！

楽しく！
ワクワク

全体で：話し合ったことを共有しよう！

各グループから



<第3回アクション・ミーティング：ワークシート>

第3回合同アクション・ミーティング
ミーティングシート

第3回：平成30年1月31日（水）

チームメンバー（名前と立場・所属）

グループ番号

これまでの取り組みを踏まえて

6 「本人の声を聴く取り組み」を行ってきたことで、わかったこと



「本人の声を聴く取り組み」を行っていく上で、課題と感じたこと

7 今後「本人の声」をどのような場面や機会（日常のケア・地域支援・地域づくり等）に活かしていきたいか（活かせそうか）



「本人の声」を、今後の地域支援や地域づくりに活かしていくためのアイデアや工夫

<第3回アクション・ミーティング終了時参加者アンケート>

第3回 アクション・ミーティング 参加者アンケート

平成30年*月*日 氏名 _____

(市・町名: _____)

アクション・ミーティングに参加した体験を振り返り、以下にお答えください。

【問1】認知症の人の地域支援体制づくりやその活動を充実させていく上で、「本人の声を聴くこと」の大切さについて、あなたの意識に変化がありましたか？（1つに○）

1. 以前はあまり意識していなかったが、その大切さに気づかされた
2. 以前から大切と感じていたが、その重要性についての認識が深まった。
3. 以前も今も、あまり大切と感じていない。
4. その他

【問2-1】「本人ミーティング」（本人の声を聴く機会、本人同士が集まり話しをする場）は、地域支援体制づくりやその活動に役立つと思いますか？（1つに○）

1. 大いに役立つ 2. 役立つ 3. あまり役立つたない 4. 役立つたない

1、2とお答えの方に伺います

【問2-2】「本人ミーティング」を行うことで、どのようなことに役立つと思いますか

(複数回答)

役立つと思う点		該当に○
①	診断直後や初期段階の本人が、仲間に出会い、早期に前向きになれる	
②	本人が本音を表せ、意思を伝える力を高められる	
③	本人が声を聴いてくれる支援者に早期につながる事ができる	
④	本人が、本人にとって必要な支援、サービス（医療・介護・福祉）に、「空白」なく、つながるきっかけになる	
⑤	周囲の人や支援者、行政職員が、気づけなかった本人の思いを知ることができる。	
⑥	今ある事業や取り組みを、本人によりあったものに改善をはかれる	
⑦	本人にとってこれまで足りなかった新たな事業や取り組みづくりにつながる	
⑧	その他（具体的に）	

(裏面につづく)

【問3-1】アクション・ミーティングは、地域支援体制づくりや活動に役立つと思いますか？
(1つに○)

1. 大いに役立つ 2. 役立つ 3. あまり役立たない 4. 役立たない

1, 2とお答えの方に伺います

【問3-2】アクション・ミーティングは、どのようなことに役立つと思いますか (複数回答)

役立つと思う点		該当に○
①	地域の多様な人たちとの新たなつながりが生まれるきっかけになる。	
②	地域の多様な人たちと本人視点にたって一緒に話しあえる機会になる。	
③	地域の多様な人たちの取組やアイデアを知ることができる	
④	自分の考えや取組を振り返り、改善していくきっかけになる。	
⑤	自分だけではできなかったことに取組めるきっかけが生まれる。	
⑥	認知症の人の早期からの地域支援に具体的に取組むきっかけができる。	
⑦	その他 (具体的に)	

【問4】アクション・ミーティングの開催の仕方への提案をお聞かせ下さい。

①他にも声をかけたらいいと思う人がいたら、その立場や職種等をご記入下さい。

()

②参加しやすく、また参加して楽しい集まりになるためのアイデアをお書きください。

()

【問5】「アクション・ミーティング」に参加したことで、所属またはグループで取り組もうと思っているアクションはありますか。

→具体的に教えてください。

()

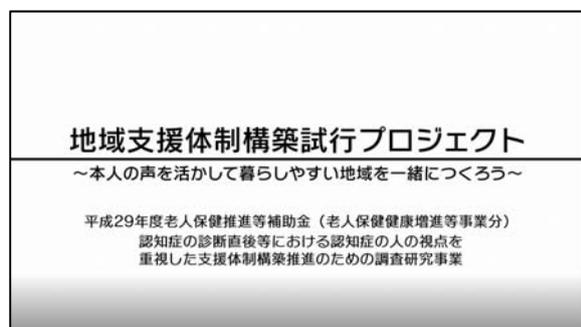
<アクション・ミーティングに関する感想や、ご意見をご自由にお聞かせください>

()

4) 試行4地域アクション・ミーティング映像記録 (DVD 作成)

◆ 4地域でのアクションミーティング (各地域3回) では、各地域においてアクショングループ (チーム) を結成し、同じグループメンバーが討議を重ね、アクションを試みた。

◆ 討議に関するグループ発表、および今回のプロジェクトに参加したメンバーに実施したインタビュー等をまとめた映像記録をもとに、DVDを作成した (約11分)。



2. 本人にとってのよりよい暮らしガイド（本人ガイド）

※東京都健康長寿医療センター、及び厚生労働省のホームページで、閲覧・ダウンロード（PDF ファイル）できます。（平成 H30 年 4 月以降）

仕様（形態）

○サイズ：210mm×210mm ○頁数：28 頁 ○全頁カラー印刷

<表紙>



<もくじ(内容)>

	<h1>もくじ</h1>	
1. 一日も早く、スタートを切ろう 2		
2. これからのよりよい日々のために 4		
イメージを変えよう! 5		
町に出て、味方や仲間と出会おう 7		
何が起きて、何が必要か、自分から話してみよう 8		
自分にとって「大切なこと」をつたえよう 9		
のびのびと、ゆる〜く暮らそう 10		
できないことは割り切ろう、できることを大事に 11		
やりたいことにチャレンジ! 楽しい日々を 12		
3. あなたの応援団がまちの中にある 13		
4. わたしの暮らし(こんな風に暮らしています) 14		
☆わたしが大切にしたいことメモ 22		
☆わたしのよりよい日々のためのわが町の情報 24		
		

3. 本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド（市町村ガイド）

仕様（形態）

○サイズ：A4版 ○頁数：56頁 ○全頁カラー印刷

<表紙>



<目次（内容）>

目 次

1. 認知症になってからの日々をより良く暮らせるわが町に

「旧の方針」から「新しい方針」へ切りかえよう！	2
本人の声を起点に暮らしやすい町をつくろう ～今ある場や取組を活かしながら、地域支援体制づくりを～	4
これからの焦点：初期の「空白の期間」の解消を ～本人の声から、“空白”の具体と解消策を見つけよう～	6

2. 本人の声を活かして、わが町の事業や取組をパワーアップ！

本人ガイドを地域の中で広げよう！ うまく活かそう！	8
「本人ミーティング」をあなたの町でも！	12

3. これからの地域支援体制づくりを地元の本人たちとともに

地域支援体制づくりの全体を俯瞰しよう：活かしあえるものが豊富にある	16
地域のひと・つながり・事業等が連動した実効性のある支援体制に	18
地域の多様な人たちが集い、話し合い、一緒にアクションを ～「アクションミーティング」を支援体制作りのエンジンに～	19

4. 本人の声を起点にやってみました！ 自分たちの町で、一步一步

郡山市（福島県）	21
西会津町（福島県）	22
有田岡城（和歌山県）	23
御坊市（和歌山県）	24

5. 「本人にとってのよりよい暮らしガイド」（本人ガイド）

4. 報告会

報告会のご案内（チラシ）

平成29年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
認知症診断直後等における認知症の人の視点を重視した
支援体制構築推進のための調査研究事業



全国報告会

参加無料

～本人の声を活かして、暮らしやすい地域を一緒につくろう～

日時：平成30年2月26日(月)
10時30分～15時30分 ※開場は10時

会場：有楽町朝日ホール／東京
(有楽町マリオン11F)

駐車場のご用意はありません。公共交通機関をご利用ください。

どなたでもご参加いただけます！
認知症の本人・家族や、行政関係者、地域包括支援センター職員、
介護・医療関係者、教育・研究機関関係者、学生、企業など、
お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

定員：400名

事前の申込みが必要です。裏面をご覧ください。



●有楽町朝日ホール

認知症と診断された一人ひとり（本人）が、よりよく暮らしていけることをめざして、今年度、2県4地域で、本人の声をもとに、本人とさまざまな人たちが一緒に話しあい、それぞれの地域ならではの支えあいや地域づくりを進めました。やってみただけで多様な成果や波及効果が生まれています。その経過や成果、課題を報告し、本人も交えて今後のあり方、具体策も話しあいます。各地の人たちとの交流時間もあります。お気軽にご参加ください！

プログラム（予定）

時間	内容（予定）	
10:30～11:15	1. はじめに 本人の声を活かす 地域支援・地域づくりとは	栗田主一／東京都健康長寿医療センター 藤田和子／日本認知症本人ワーキンググループ 永田久美子／認知症介護研究・研修東京センター ほか
11:15～11:45	2. 事業概要	プロセス・成果・課題から各地域でできることは何か、等
11:45～13:00	＜昼休憩＞ ～全国の仲間とネットワーキング～	
13:00～13:45	3. 取り組み地域からの報告 (1) 福島県	・本人の声をもとに、介護保険の利用前からのつながりをつくる、介護事業者がアクションを起こす／西会津町 ・市内の全地域包括支援センターがいっしょに土台づくり、本人ミーティングを通じたアクション／郡山市
13:45～14:00	＜休憩＞ ～全国の仲間とネットワーキング～	
14:00～14:45	(2) 和歌山県	・ちいさなまちでトライ！ 近隣市町、病院・医師も一緒に本人とともにつくる地域の支えあい／有田圏域 ・本人の思いをもとに、本人と多分野の人たちが総活躍のまちづくり。本人を知り、本人が望むサービスにつなげることで、「運転しない生活」に導いたアクション／御坊市
14:45～15:30	4. これからの地域でもいっしょに動きだそう！	取組んでみた私たち、そして本人たちからリレーメッセージ

主催： 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター

～本人の声を活かして、暮らしやすい地域を一緒につくろう～

全国報告会 参加申込書

申込み締切：平成30年2月23日（金）

報告会事務局 行き

メールの場合

下記内容（氏名、市区町村、立場・職種、連絡先、人数）をメール文にご記入の上、メールの「件名」を「報告会参加希望」としてお送りください。

■送り先メールアドレス：0226@jdwg.org

FAXの場合

下記にご記入の上、お送りください。

■送り先FAX番号：03-3986-8172

参加申込み者 ご氏名	都道府県 市区町村	立場・職種	ご連絡先 電話番号/ メールアドレス

★一緒に参加をご希望の方は、以下にご記入ください

	参加希望者氏名	都道府県市区町村	立場・職種
①			
②			
③			
④			
⑤			
⑥			

定員を超えた場合、ご参加いただけない場合がございますので、あらかじめご了承ください。その場合は、事前に連絡をさせていただきます。

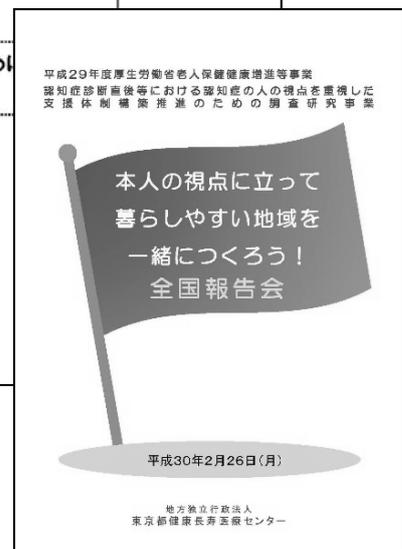
（連絡がない場合はご参加いただけます）

<報告会に関するお問い合わせ> メール：0226@jdwg.org FAX：03-3986-8172 主催： 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 報告会事務局	事務局使用欄
--	--------

当日プログラム

時間	プログラム	頁
10:30～	開会 委員長 栗田 主一／東京都健康長寿医療センター	
10:35～	ごあいさつ 厚生労働省 老健局 認知症施策推進室	
10:40 ～11:15	1. 事業の背景と目的 ～本人の声を活かして暮らしやすい地域を一緒につくろう～ 委員長:栗田 主一／東京都健康長寿医療センター 委員:藤田 和子／日本認知症本人ワーキンググループ 委員:永田 久美子／認知症介護研究・研修東京センター	1
11:15 ～11:45	2. 事業で取組んだこと、そして何が起きたか:成果と課題をもとに各地域での展開へ 研究班:永田 久美子／認知症介護研究・研修東京センター	7
11:45 ～13:00	昼休み <情報交換・ネットワーキング>	
13:00 ～13:45	3. 「本人の声を活かす地域づくりに取り組んだ地域からの報告	23
	1) 福島県	
	◆ 郡山市 市内の全地域包括支援センターがいっしょに土台づくり、本人ミーティングを通じたアクション	24
	◆ 西金津町 本人の声をもとに、介護保険の利用前からのつながりをつくる、介護事業者がアクションを起こす	45
	◆ 福島県庁から	
13:45 ～14:00	休憩 <情報交換・ネットワーキング>	
14:00 ～14:45	2) 和歌山県	62
	◆ 有田圏域(有田市、有田川町、広川町、湯浅町、湯浅保健所) ちいさなまちでトライ! 近隣市町、病院・医師と一緒に本人とともにつくる地域の支えあい	
	◆ 御坊市 本人の思いをもとに、本人と多分野の人たちが総活躍のまちづくり。 本人を知り、本人が望むサービスにつなげることで、「運転しない生活」に導いたアクション	85
	◆ 和歌山県庁から	
14:45～	これからに向けて:本人がより良く暮らしていける地域を、共に築いていくために ～取組んでみた私たち、そして本人たちからリレーメッセージ	
15:30	閉会 (情報交換・ネットワーキング(～16:00ごろまで)) (参考資料)	

- 壇上の花は、スターチス。花言葉は「変わらぬ心」「途絶えぬ記憶」。
JA紀州青年部(御坊市)よりご提供いただきました。



アンケート

本人の声を活かして、暮らしやすい地域を一緒につくろう

全国報告会 参加者アンケート (H30.2.26)

ご参加くださり、本当にありがとうございました。本アンケートは、認知症の人の声を活かした地域支援体制作りを推進していくための参考とさせていただきます。ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

1. ご自身の立場についてお知らせください。(該当するところに○を。複数でもかまいません。)

- ①認知症の本人 ②家族に認知症の人がいる(以前いた) ③知人に認知症の人がいる(以前いた)
④行政(都道府県) ⑤行政(市町村) ⑥地域包括支援センター ⑦認知症地域支援推進員
⑧介護事業所(居宅) ⑨介護事業所(地域密着型サービス) ⑩介護事業所(施設)
⑪認知症疾患医療センター ⑫以外の医療機関 ⑬教育研究機関 ⑭学生 ⑮市民
⑯企業(業種) ⑰報道機関 ⑱その他()

2. 今日の報告会を通じて、参考になったことがありましたか?

- ①おおいにあった ②あった ③特になかった
⇒どのようなことかお書きください。

3. ご自身の立場で、「今後やってみたい」と思い浮かんだことがありますか。

- ②おおいにあった ②あった ③特になかった
⇒どのようなことかお書きください。

4. 今日の報告会を通じて、認知症の人の地域支援を進めていく上での「本人の声を聴くこと」の大切さについて、あなたの意識に変化がありましたか?(1つに○)

- ①あまり意識していなかったが、その大切さに気づかされた
②以前から大切と感じていたが、その重要性についての認識が深まった。
③あまり大切と感じていない。
④その他()

5. 暮らしやすい町になるように、認知症の人と一緒に地域で取組んでいることがありますか?

- ①日常的にある ②時々ある ③たまにはある ④特にない
⇒主な取組みをご紹介下さい。

6. 参加しての感想をご自由にお書きください。スペースの足りない方は裏面もお使い下さい。

ご協力ありがとうございました。

平成29年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）
認知症診断直後等における認知症の人の視点を重視した支援体制構築推進のための
調査研究事業

報 告 書

発 行 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
平成30（2018）年3月
